

乗用管理機

愛さいか

取扱説明書

JKB 23

JKB 17



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、乗用管理機の取扱の取扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるよう乗用管理機の近くに保管してください。



井関農機株式会社

乗用管理機重要ポイント

1. ほ場まで移動するときは、

トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、

火気厳禁とします。

エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、主・副変速レバーを「中立」、

クラッチを「切」、ブレーキを踏み込んで行います。

周囲の状況を確認してから行います。

4. 作業時以外のときは、

左右ブレーキペダルを連結します。

5. トラックへ積み降ろしするときは、

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。

スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。

6. ほ場へ出入りするときは、

スピードを落としあぜに直角に走行します。

7. 乗用管理機や作業機を点検するときは、

必ず平坦な広い場所で、油圧ロックをし、エンジンを止めます。

8. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を  を付して説明のつど取り上げております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

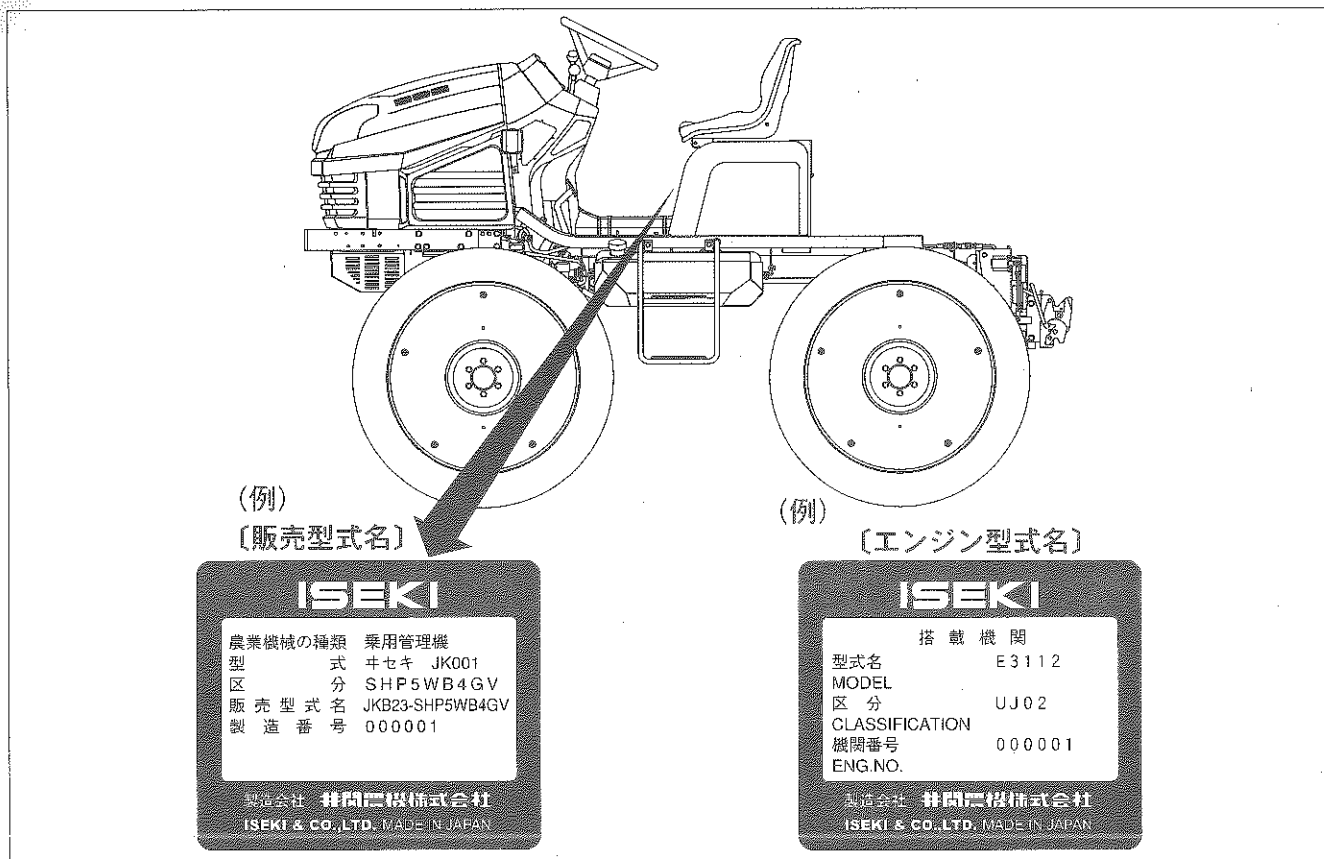
- このたびは、中セキ乗用管理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、防除・中耕などの作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)
- 井関農機株式会社(以降当社と記す)は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、中セキ乗用管理機(以降乗用管理機と記す)を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この乗用管理機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や乗用管理機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、乗用管理機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および乗用管理機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 乗用管理機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいくまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかによることも、また看過できません。
- この乗用管理機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この乗用管理機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の乗用管理機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本乗用管理機を譲渡または貸与される場合は、相手の方にこの取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を乗用管理機に添付してお渡してください。譲渡(または転売)される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡(または転売)した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は乗用管理機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本乗用管理機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は乗用管理機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げ先にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の乗用管理機について併記しています。

お買い上げいただいた乗用管理機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■装備内容 (例)

JKB17 JKB23	-	前後輪デフロック・4WS-3アクション
	S	ディーゼルエンジン・HST付き・ロングホイールベース
	D	ディーゼルエンジン・メカミッション・ショートホイールベース
	H	ローリンク装備
	P	水田タイヤ
	2	トレッド1200mm
	3	トレッド1320mm
	5	トレッド1470mm
	F	フロントミッション変速有り、アンダーカバー、分草かん
	N	低床
	T	麦仕様、ホイールカバー付
	W	水平自動装置・バックアップ
	B4	湿田タイヤ
	M	10m少量散布対応マイコン無し防除機
	ML	10mマイコン付き防除機
	GV	16mマイコン付き防除機
	C	霧無し少量散布ノズル一頭口
	K	廉価型防除機 (防除機水平制御無し 横行ノズル一頭口 リヤキャリア無し)

警告表示について

本乗用管理機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。

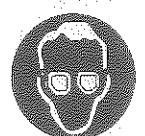
また、乗用管理機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (爆発注意)	(例)  (爆発注意)
	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (火気厳禁)
	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (メガネ着用)

目次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
警告表示について	iii
目次	iv

1. 使用上のポイント

1.1 移動走行について	1
1.2 使用上のご注意	1
1.2.1 運転者の条件	1
1.2.2 作業をする前に	2
1.2.3 エンジンの始動と発進	3
1.2.4 走行する場合は	3
1.2.5 夜間作業の禁止について	7
1.2.6 トラックへの積み・降ろし	7
1.2.7 作業中は	9
1.2.8 点検・整備	11
1.2.9 格納・保管時は	14
1.3 電装関係を取り扱うときは	15
1.3.1 電気配線点検時の注意事項	15
1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項	16
1.3.3 ブースタケーブル使用時の 注意事項	17
1.3.4 バッテリー液の注意事項	17
1.4 警告ラベルについて	18
1.5 警告ラベル貼付箇所	18

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	20
2.2 サービスネット	20
2.3 銘板の位置	20
2.4 補修用部品の供給年限について	20

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称	21
3.2 計器およびスイッチのはたらき	24
3.3 レバー・ペダル・シート関係の 取り扱い	28

3.3.1 走行変速レバー	28
3.3.2 アクセルレバー アクセルペダル	29
3.3.3 クラッチペダル・ブレーキ ペダル・デフロックペダル	29
3.3.4 PTO変速レバー (H、HP型)	31
3.3.5 PTO軸・ライブPTO軸	31
3.3.6 コントロールレバー 自動水平 (H、HP型)	32
3.3.7 ボンネット・カバー 燃料タンク	33
3.3.8 アンダーカバー・分草かん	34

4. 作業前点検

4.1 運転席に座る前に	35
4.2 運転席に座って	36
4.3 メインスイッチを 「運転・予熱」に入れて	37
4.4 エンジンを始動して、徐行しながら	37

5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備	40
5.1.1 シートの調節	40
5.1.2 バックミラー	40
5.2 エンジンの始動のしかた	41
5.2.1 始動のしかた	41
5.2.2 始動時の操舵方法	43
5.3 エンジンの停止のしかた	44
5.3.1 エンジン停止	44
5.4 発進のしかた	45
5.5 変速のしかた	47
5.6 旋回のしかた	47
5.7 坂道での運転	47
5.7.1 急な上り坂での発進	48
5.7.2 下り坂での運転	48
5.8 停車・駐車 of しかた	48
5.9 トラックへの積み・降ろし	50

6. 作業前に必要な調節

- 6.1 トレッド調節のしかた
(P、HP型を除く)52
- 6.1.1 トレッド寸法52
- 6.1.2 トレッド調節53

7. 作業のしかた

- 7.1 作業時の運転54
 - 7.1.1 走行速度
(エンジン定格回転時)54
 - 7.1.2 ほ場の出入り55
 - 7.1.3 ほ場での旋回55
 - 7.1.4 デフロックペダルの
使いかた56
- 7.2 3アクション4WSの使いかた57
 - 7.2.1 操舵切り換えのしかた57
 - 7.2.2 中点設定のしかた58
- 7.3 PTOの使いかた60
- 7.4 油圧装置 (H、HP型)61
 - 7.4.1 作業機の昇降のしかた61
 - 7.4.2 作業機の降り速度の調節61
- 7.5 作業機61
 - 7.5.1 作業機の取り付け
取りはずし61
- 7.6 バンプウェイト65
 - 7.6.1 取り付け65

8. 点検整備

- 8.1 定期点検・整備箇所一覧表67
- 8.2 給油・給水一覧表68
 - 8.2.1 オイル給油・給水68
 - 8.2.2 グリース給油69
- 8.3 エンジン関係の点検・清掃・調整70
 - 8.3.1 エンジンオイル70
 - 8.3.2 エアクリーナの清掃71
 - 8.3.3 冷却水72
 - 8.3.4 ラジエータホースの点検73
 - 8.3.5 不凍液の使いかた73
 - 8.3.6 ラジエータの清掃73

- 8.3.7 燃料74
- 8.3.8 燃料フィルタの清掃・交換75
- 8.3.9 燃料ホースの点検75
- 8.3.10 ファンベルト76
- 8.3.11 オイルクーラ77
- 8.3.12 油圧オイルの点検・交換77
- 8.3.13 オイルフィルタの
清掃・交換78
- 8.3.14 リヤミッションオイルの
点検・交換79
- 8.3.15 フロントミッションオイル79
- 8.3.16 フロントアクスル・
リヤアクスルのオイル80
- 8.3.17 ブレーキの点検81
- 8.3.18 クラッチの点検と調整81
- 8.3.19 車速表示ベルト (S型)82
- 8.3.20 ステアリング82
- 8.3.21 タイヤの空気圧82
- 8.3.22 タイヤの締めつけボルトの
点検83
- 8.3.23 アクセルレバー
HST前後進レバー83
- 8.3.24 電気配線の点検と清掃84
- 8.3.25 バッテリ85
- 8.3.26 ヒューズの交換86
- 8.3.27 スローブローヒューズ87

9. 格納時の手入れ

- 9.1 日常の格納88
- 9.2 長期の格納89
 - 9.2.1 格納前作業89
 - 9.2.2 格納期間中90
 - 9.2.3 長期格納後の使用90

10. 不調時の処置

.....91

11. 農薬に関する注意事項

.....94

12. 付表

12.1 推奨潤滑油一覧表.....	97
12.2 主要諸元表.....	98
12.3 走行速度表 (km/h)	103
12.4 注文部品一覧表.....	104
12.5 主な消耗部品一覧表.....	105
12.6 標準付属品.....	106

1. 使用上のポイント

本章では、乗用管理機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1 移動走行について

この乗用管理機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道を走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1.2 使用上のご注意

本商品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明についてはiiiページの「警告表示について」の説明を参照してください。

1.2.1 運転者の条件

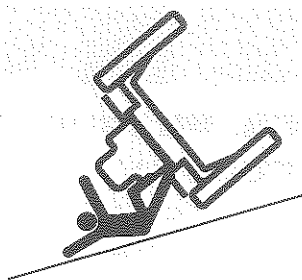
⚠ 警告



こんなときは、運転をしないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- 18才未満の人
- 妊娠しているとき
- 酒を飲んだとき

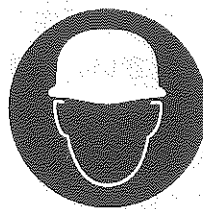
※ 誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服を着用してください。

はち巻き、首巻き、腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具（防護マスク、防護メガネ、防護服、ゴム手袋）をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

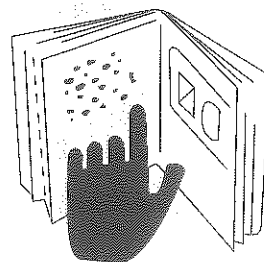
※ 機械に巻き込まれたり、すべてで転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ 借りた人が機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



1.2.2 作業をする前に

⚠ 危険



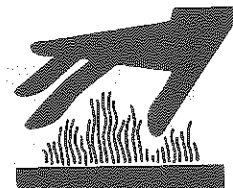
燃料補給時は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。



くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

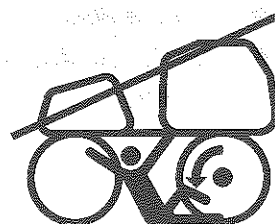


⚠ 警告



無理、無駄のないゆとりある作業計画を立ててください。

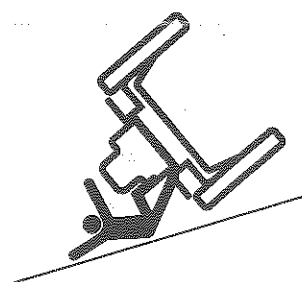
※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



作業をする前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。

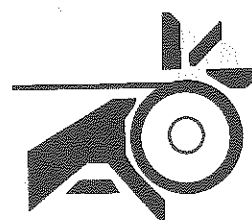
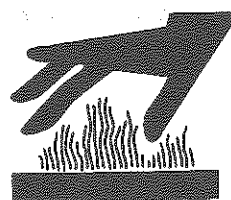
特にブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキのききが悪かったり、クラッチが切れないことがあります。

※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



乗用管理機を運転する前に保護カバー類がはずされたままになっていないか確認してください。

※ 守らないと、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



1.2.3 エンジンの始動と発進

警告



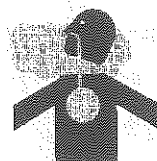
屋内でエンジンを始動する場合は、十分に換気をしてください。

※ 守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



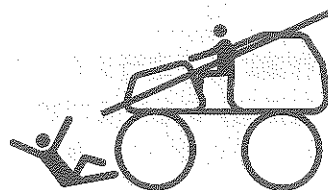
閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。

※ 守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



エンジンを始動するときは必ずシートに座って、パーキングブレーキを掛け全ての変速レバーの位置を「中立」にし、周囲の状況を確認してから行ってください。

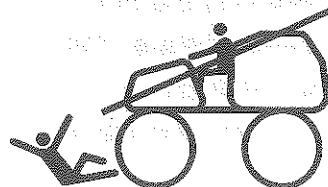
※ 守らないと、急発進したりして傷害事故を引き起こす原因になります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.4 走行する場合は

危険



乗用管理機を草やワラの上に止めて空吹きをしたり、エンジンを高回転にしないでください。

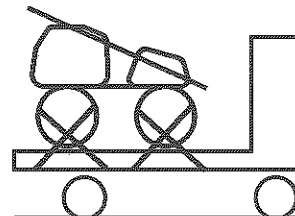
※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。



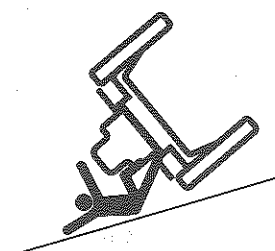
警告



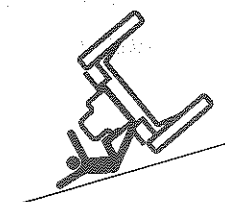
一般道路は走行できません。ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。
この乗用管理機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。
※ 道路を走行することは違法行為になります。



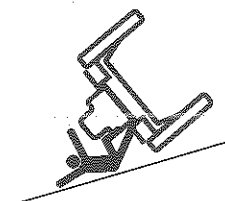
ステアリング（ハンドル）やブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。
※ 接触事故や、転倒事故につながるおそれがあります。



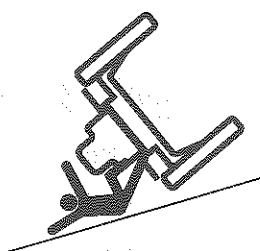
作業以外で走行するときは、必ずFWS（前輪操舵）にしてください。
※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故の原因になり大変危険です。



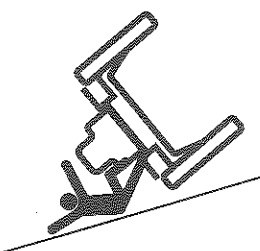
作業以外で走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、傷害事故を引き起こします。



ブレーキペダルを踏むときは、クラッチペダルを踏んでから、踏み込んでください。
※ 守らないと、ブレーキが効かず衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



作業以外で走行するときは、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。
※ 守らないと、衝突、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

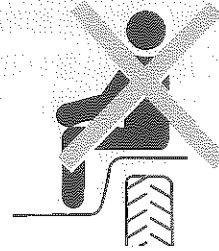


警告



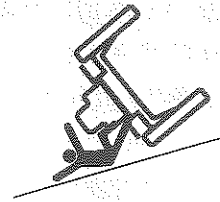
乗用管理機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落事故をするおそれがあります。



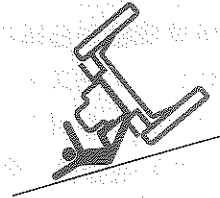
高速での急旋回や、坂道での急旋回はしないでください。

※ 守らないと、転倒事故の原因となります。



坂を降りるときは、クラッチを切ったり、変速レバーを「N」(中立)位置にしての惰性走行はしないでください。

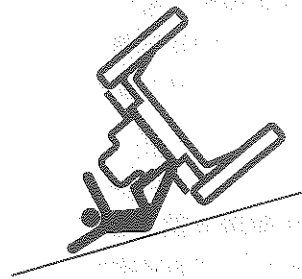
※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



坂を上がるときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンプレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないでください。

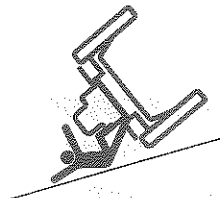
足ブレーキの多用はブレーキを傷めます。

※ 守らないと、スリップや転倒事故を引き起こします。



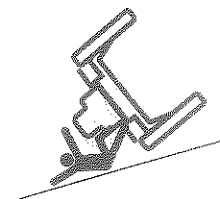
凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



農道では路肩に注意してください。側道のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意してください。

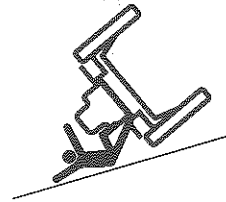
※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒するおそれがあります。



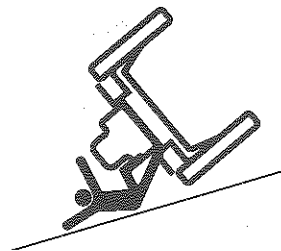
警告



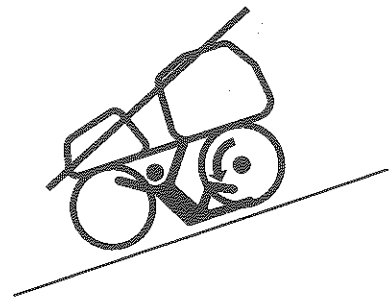
草が茂っている場所や水たまりなどには隠れて見えない溝や窪地がある場合があります。十分に注意して運転をしてください。
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



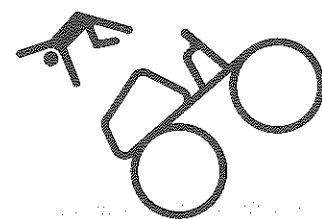
側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。
※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。



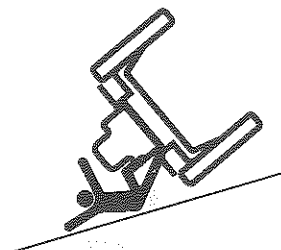
乗用管理機から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、パーキングブレーキ（ブレーキペダルを踏み込みロック）をかけ、車止めをしてください。また、止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。
※ 乗用管理機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機を装着していないときは、急ブレーキおよび急減速はしないでください。
※ 守らないと、後輪が浮いて前傾となり、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



夜間に乗用管理機で移動する場合、変速レバーやその他レバー・ペダル類の位置の確認を特に注意して行ってください。
※ 十分な確認をしないと事故を起こしたりして大変危険です。



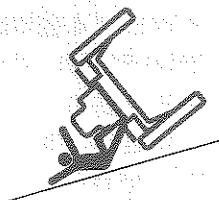
1.2.5 夜間作業の禁止について

警告



夜間作業は危険なので行わないでください。

※ この乗用管理機は、ライトを装着していますが、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



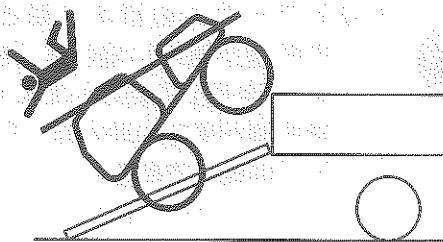
1.2.6 トラックへの積み・降ろし

警告



積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



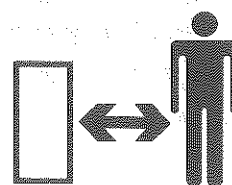
●誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

●乗用管理機の直前や真横には、絶対に立たないでください。



●万一のことを考えて、乗用管理機の周りには人を近づけないでください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

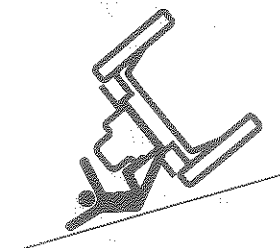


●乗用管理機をトラックに積み・降ろしを行う場合、強度・幅・長さの十分ある、スリップしない基準以上のアユミを使用してください。

●場所は乗用管理機の重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

●アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実にかけてください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



警告

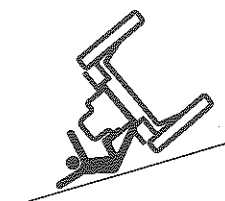


●トラックへの積み・降ろしを行う場合は、FWS（前輪操舵）で行ってください。4WS（4輪操舵）・RWS（後輪操舵）では行わないでください。

●必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、クラッチペダルを踏み込んだりブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

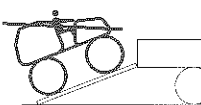
●ステアリング（ハンドル）を左右に大きく切ったりブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



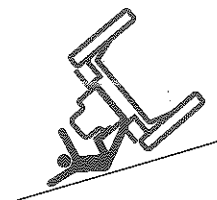
●トラックへの積み・降ろしを行う場合前輪側が重たい場合は「前進」で積み込み、「後進」で降ろしてください。後輪側が重たい場合は、「後進」で積み込み「前進」で降ろしてください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろしてから、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

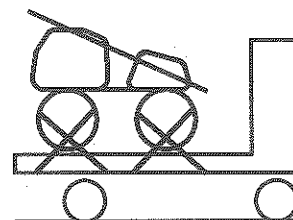
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



トラックなどで運搬するときは必ずロープなどで荷台に固定してください。

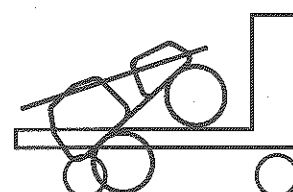
また、乗用管理機のパーキングブレーキをかけた後、副変速を「L」もしくは「低」の位置にしてください。

※ 守らないと、乗用管理機が移動し転落事故の原因となります。



運転中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。

※ 守らないと、乗用管理機が移動し転落事故の原因となります。



1.2.7 作業中は

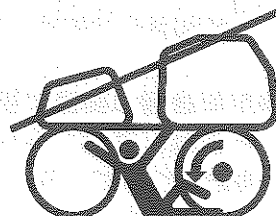
気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警告



作業機の取り付け・取りはずしは、平坦で広く硬い場所で行ってください。

※ 守らないと、機械が急に動いたり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機の取り付け・取はずしは乗用管理機と作業機の間に立って行わないでください。乗用管理機の脇から扱うようにしてください。

※ 守らないと、乗用管理機と作業機の間に挟まれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



ロータリカルチなどのPTO作業機の着脱・調整・掃除をするときは、エンジンを必ず「停止」して行ってください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれたりして傷害事故の原因になります。



PTO軸を使用しないときは、カバーを取りつけてください。作業は、エンジンを必ず「停止」して行ってください。

※ 守らないと、PTO軸に巻き込まれるおそれがあります。



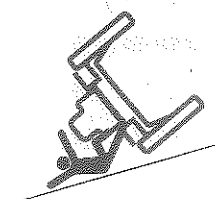
回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等、危険な箇所には、手を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



バランスウェイトの代わりに人や物を乗せないでください。

※ 守らないと、転倒事故などの傷害事故の原因となります。

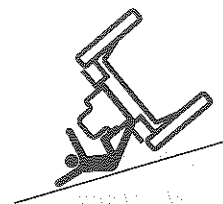


警告



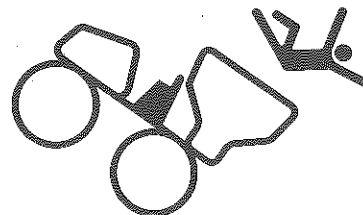
乗用管理機に装着する作業機は、**必ず指定のものを使用してください。**

※ 必ず指定以外の作業機を装着すると、傷害事故や破損の原因になります。



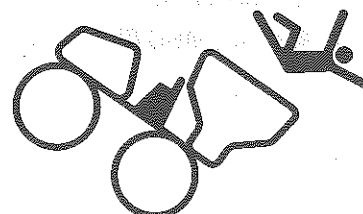
乗用管理機の後部に重たい作業機を装着したときは、フロントバンパにバンパウェイトを取りつけてバランスを取ってください。

※ 前部が軽くなりすぎると、ハンドル操作が難しくなり転倒するおそれがあります。



バンパウェイトを装着して前輪荷重20%以下になる作業機は装着しないでください。

※ 前部が軽くなりすぎると、ハンドル操作が難しくなり転倒するおそれがあります。



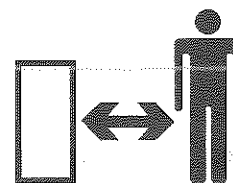
乗用管理機から降りるときは、エンジンを停止し、ロータリカルチなどのPTO作業機の回転が完全に止まってから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



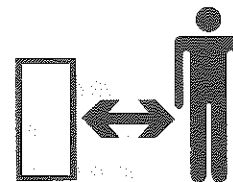
作業中は、作業員以外の人を機械に近づけないでください。(特に子供)

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



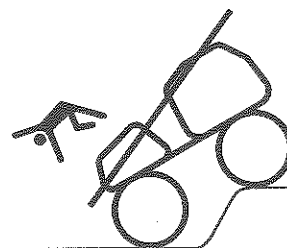
作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



あぜの高度が高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくりと走行してください。

※ 使用しなかった場合、スリップや転倒、衝撃による乗用管理機の破損の原因となります。



1.2.8 点検・整備

⚠ 危険



点検・整備するときは、マフラなどの過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告



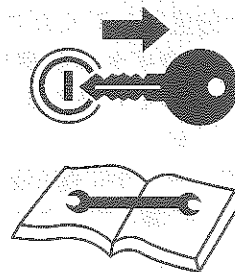
点検・整備をするときは、十分な明るさの確保できる平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、作業機を降ろすか油圧降下速度調節レバーを「ロック」位置にしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



過熱部分は冷えてから行ってください。

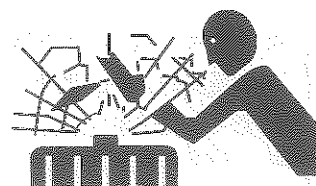
●エンジン停止後、すぐに点検・整備をしないでください。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行ってください

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



●ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

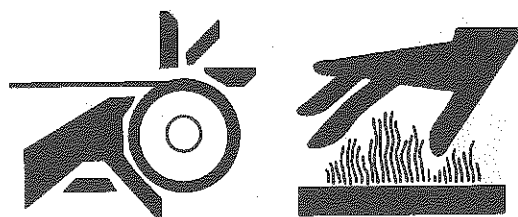


警告



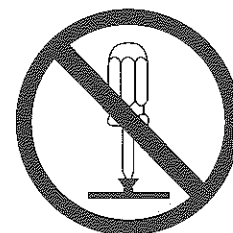
点検整備で取りはずした保護カバー類は、必ず元のとおりに取りつけてください。

※ 守らないと、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



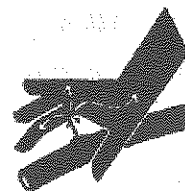
キセキ指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や重大事故の原因となります。



高圧力で噴出した油は皮膚を貫通する程の力があります。油圧部品をはずすときは保護めがねをかけ、必ずエンジンを停止して、残圧を抜いてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



タイヤ・ホイールの取り扱いについては、十分注意してください。

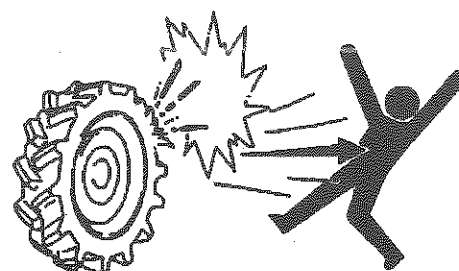
(1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

(2) タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。

(3) タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買い上げ先」にご相談ください。

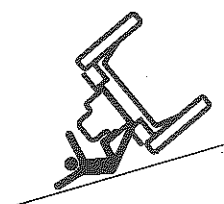
（特別教育を受けた人が行うように、法令で決められています。）

※ 守らないと、タイヤ破損のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。



タイヤのトレッド調整を行う場合取扱説明書に記載しているトレッド以外に調整しないでください。

※ 守らないと、思わぬ破損を招き傷害事故を引き起こす原因になります。

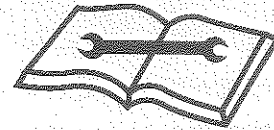


⚠ 注意



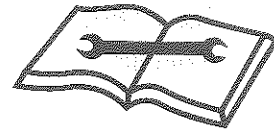
取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 乗用管理機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。



点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こします。



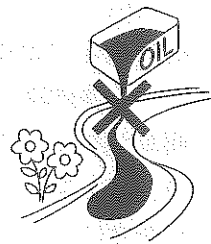
傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。



●地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

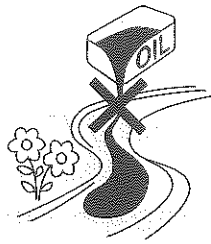
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



●機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。

●廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



1.2.9 格納・保管時は

⚠ 危険



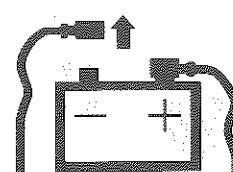
作業が終了して、シートカバー等を乗用管理機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。



長期格納する場合は、バッテリーケーブルをはずしておいてください。

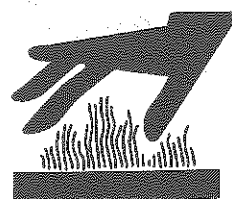
※ はずしておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となります。



● 燃料パイプの破損や、燃料もれがないか、必ず点検してください。

● 長期格納するときは、燃料タンクは満タンにして、サビや水の発生を防いでください。

※ 守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをすることがあります。

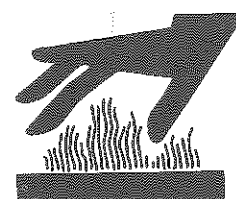
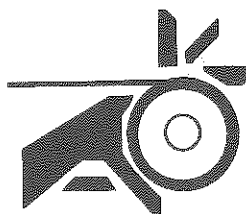


⚠ 警告



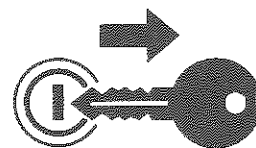
乗用管理機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動などのとき、暗いところで行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。



保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



1.3 電装関係を取り扱うときは

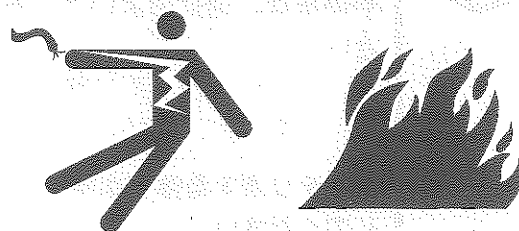
1.3.1 電気配線点検時の注意事項

⚠ 危険



配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は、早めに交換・修理してください。

※ 守らないと、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故を引き起こすことがあります。

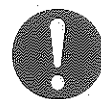


バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のフラクズ・ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

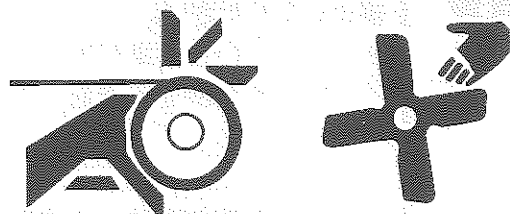


⚠ 警告



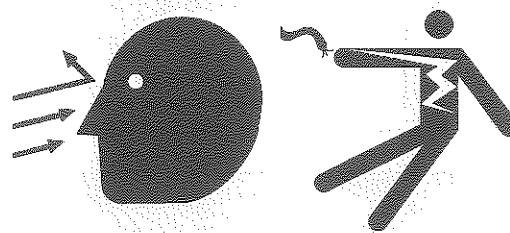
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

※ エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの $\ominus$ コードをはずして行ってください。

※ これを怠ると、火花が飛んだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。



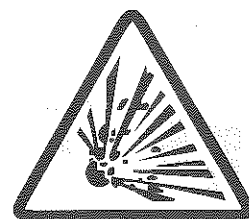
1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項

⚠ 危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電や使用は、通気のよいところで行ってください。

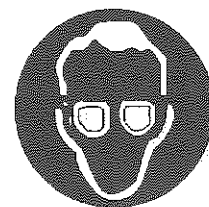
※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。

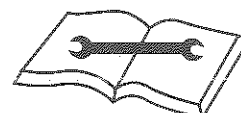
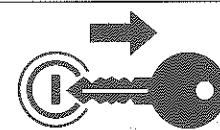
バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに大量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



バッテリーの脱着および点検をするときは、メインスイッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリーの吸気孔は、ふさがないでください。

※ バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧があがり、爆発するおそれがあります。



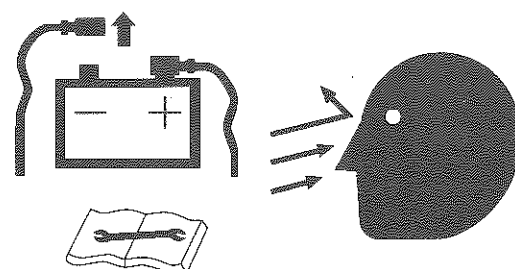
⚠ 警告



バッテリーコード（端子）を取りはずすときは、 $\ominus$ コードを先に取りはずしてください。

バッテリーコードを取りつけるときは、 $\oplus$ コードを先に取りつけてください。

※ 守らないと、ショートして火花がとぶおそれがあります。



1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、ブースタケーブルの取扱説明書にしたがい、危険のないように取り扱ってください。

また、「1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項」(P. 16ページ) も参照してください。

警告



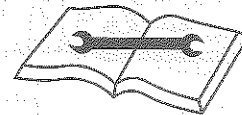
ブースタケーブル使用時には、火気を近づけないでください。

※ 守らないと、引火爆発することがあります。



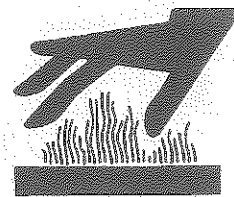
ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損するおそれがあります。



1.3.4 バッテリー液の注意事項

バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施してください。

警告



バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下になったまま使用または充電しないでください。

※ バッテリーの破裂 (爆発) の原因となるおそれがあります。



バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下で使用を続けしないでください。

※ 容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂 (爆発) の原因となるおそれがあります。



1. 使用上のポイント

1.4 警告ラベルについて

- (1) この乗用管理機には、正しく作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- (2) 警告ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- (3) 汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- (4) 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買いあげ先へ注文してください。
- (5) 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

1.5 警告ラベル貼付箇所

危険
エンジン直結で始動しないでください。
機械が急に動き出して巻き込まれる危険があります。
1668-904-003
ラベル (キケン/スタータ)

警告
やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
1675-905-007
ラベル (ケイコク/マフラー)

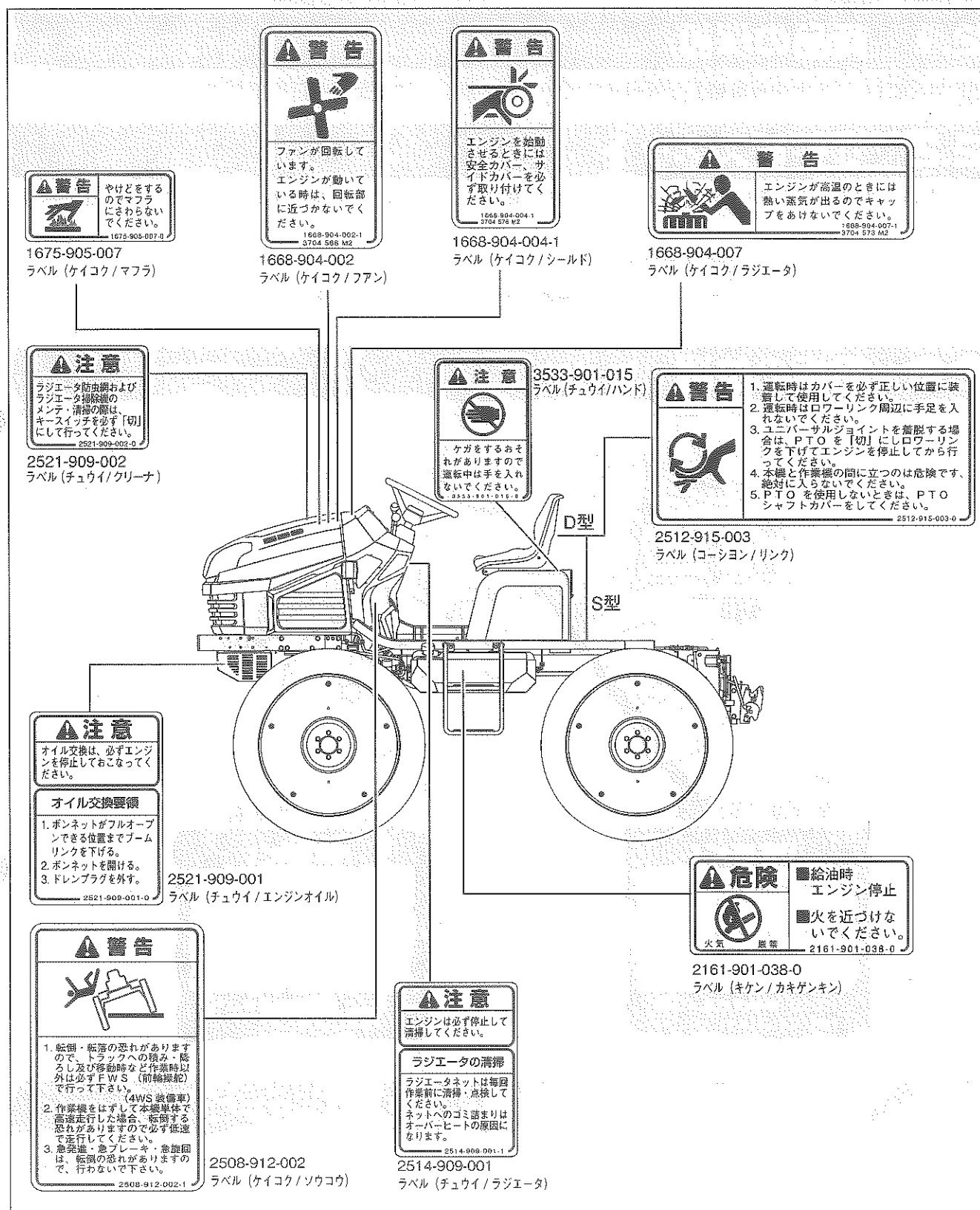
警告
ブレーキペダルの連結
ブレーキペダルはそれぞれ独立しています。駐車及び移動するときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
2521-912-001
ラベル (ケイコク/ブレーキ)

危険
バッテリーの取扱いに注意
1. 取扱いを誤ると引火爆発することがあります。ショートやスパークさせたり、火気は危険です。充電や使用は適風のよいところで行ってください。ブースターケーブル使用時は注意してください。
2. バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどの危険があります。目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗い後、医師の治療をうけてください。
3. 爆発の恐れがありますので、液面が LOWER 以下で使用しないでください。
4. 液漏れの恐れがありますので、UPPER 以上に灌水しないでください。
1668-904-011
ラベル (キケン/バッテリー)

注意
バッテリーを外すときは必ず、アース側を先に外してください。
1668-904-003
ラベル (チュウイ/バッテリー)

注意
カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。
1675-905-012
ラベル (チュウイ/カバー)

注意
運転操作をする前に必ず、取扱説明書をお読みください。
1. エンジンを始動する時は、副変速レバー・PTO レバーを中立にし、周囲の安全を確認して下さい。
2. エンジン始動の前に、各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けられていることを確認して下さい。
3. 手、足、衣服などが回転部分に接近しないように十分注意して下さい。
4. デフロックが自動的に抜けないときは、直ちにクラッチペダルを踏み込んで本機を停止させて下さい。
5. 高速走行中はデフロックを使用しないで下さい。
6. 本機からはなれるときは、パーキングブレーキを確実にかけ、作業機をおろし（リンク付き仕様）、エンジンを停止し、キースイッチのキーを抜いて下さい。
7. 点検・整備をするときは、エンジンを停止して下さい。
8. 排気ガスを有害物質を含みます。ビニールハウスや屋内で使用する場合は換気に十分注意して下さい。
9. この機械は一般道路の走行はできません。トラック等に載せて運搬して下さい。
2521-915-001
ラベル (ケイコク/ドライブ)



2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

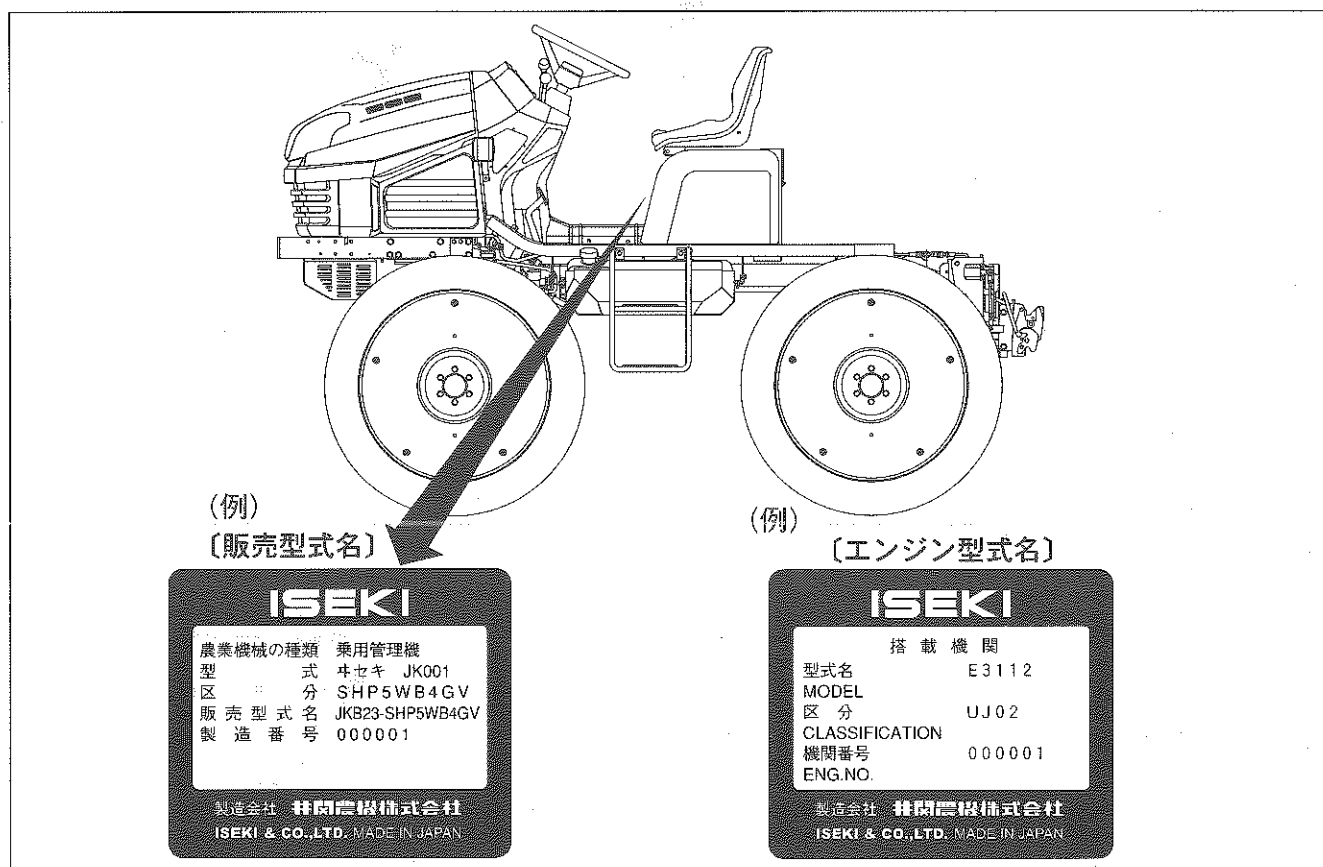
この商品には、『キセキ保証書』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不明な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。

その際、
(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号 をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



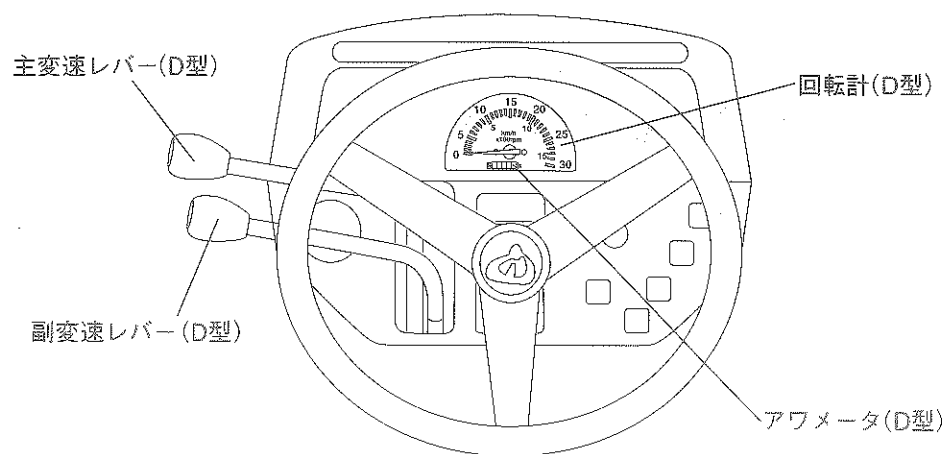
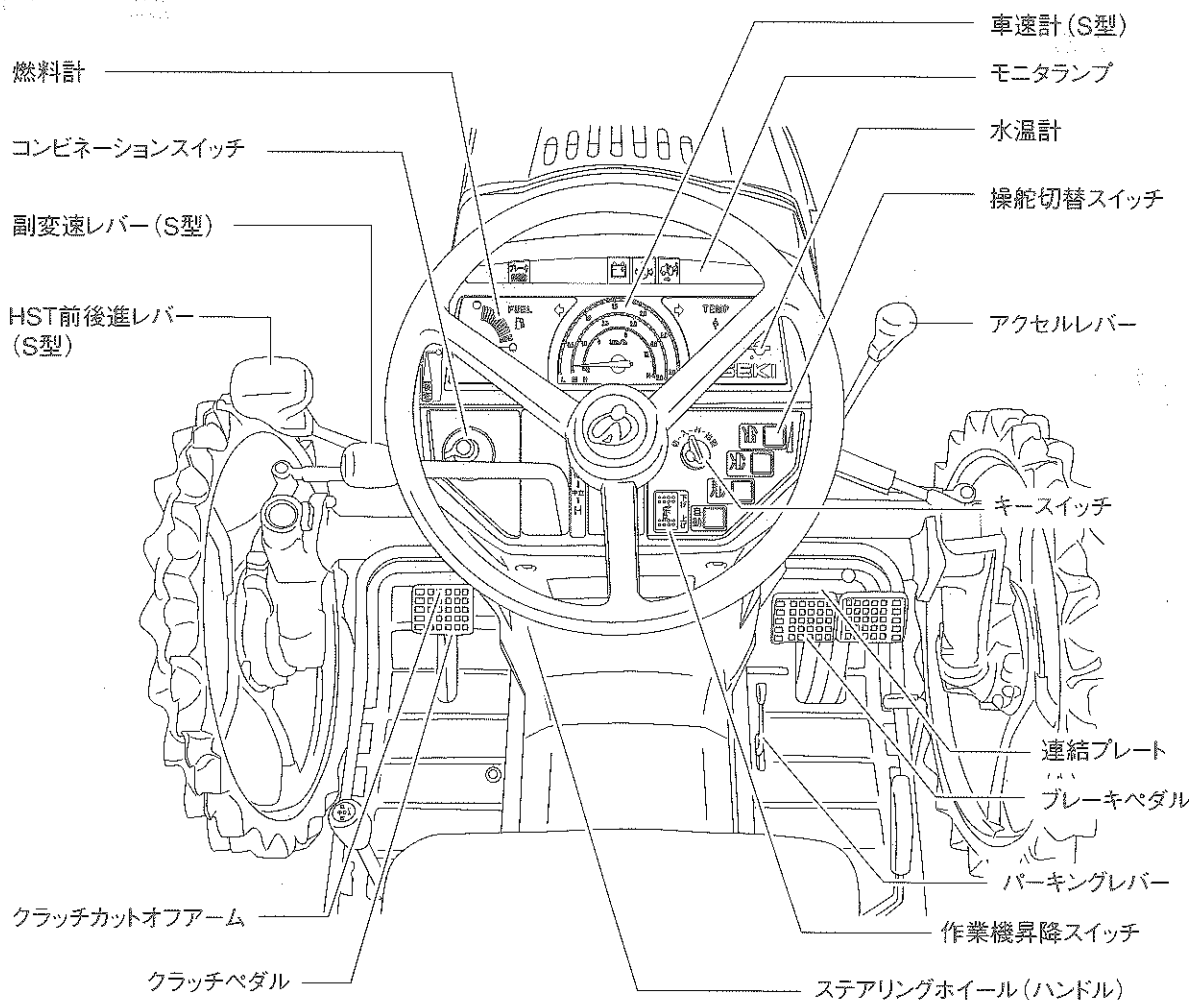
2.4 補修用部品の供給年限について

- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給の御要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

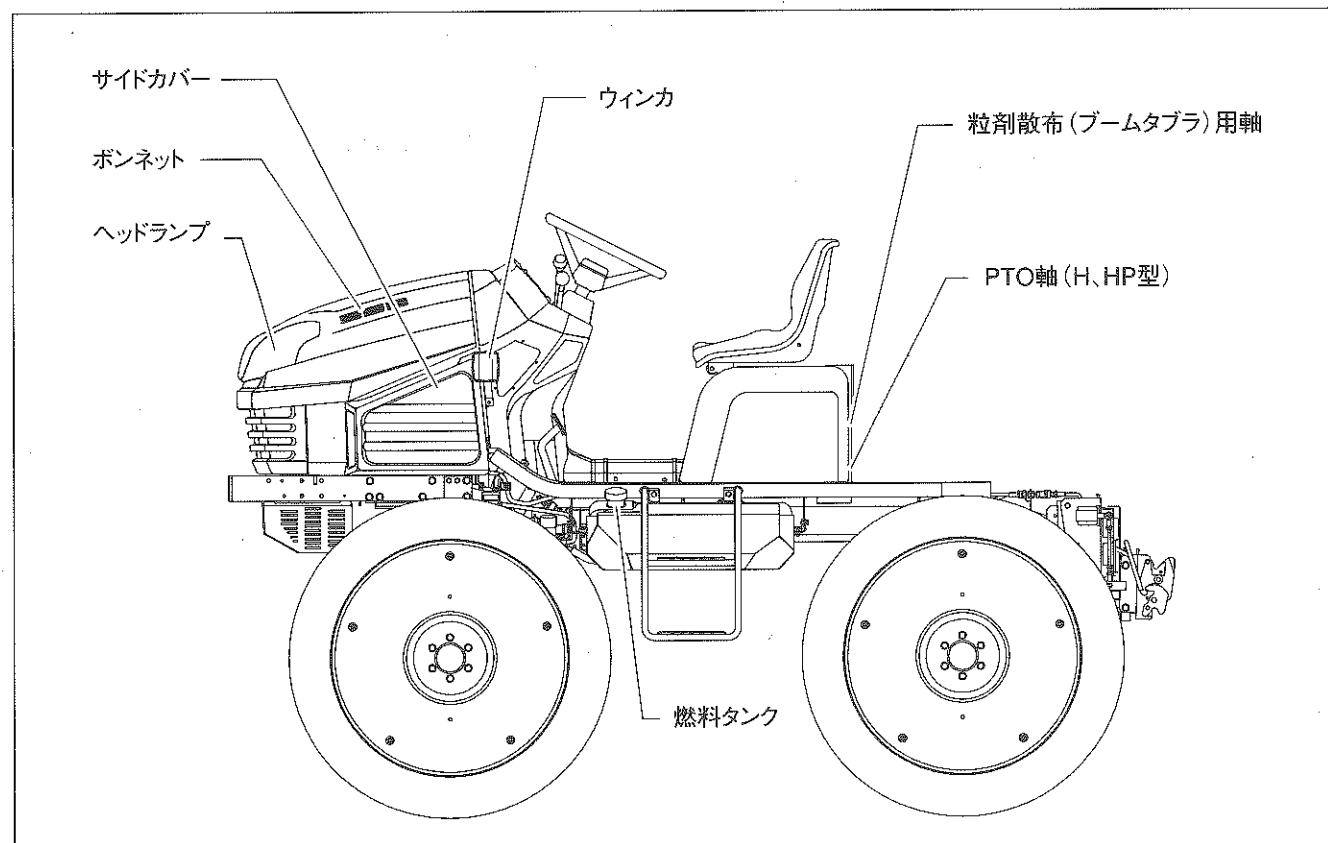
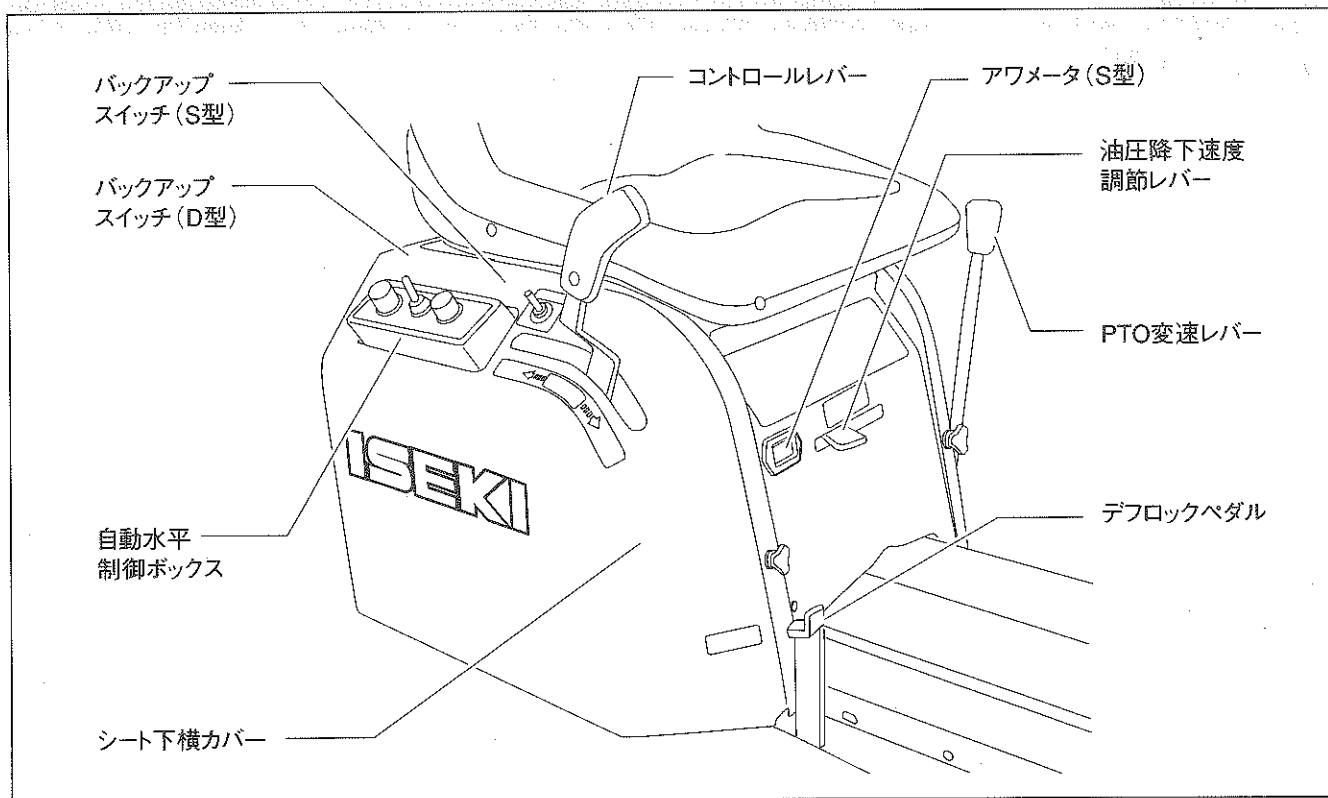
3. 各部の名称とはたらき

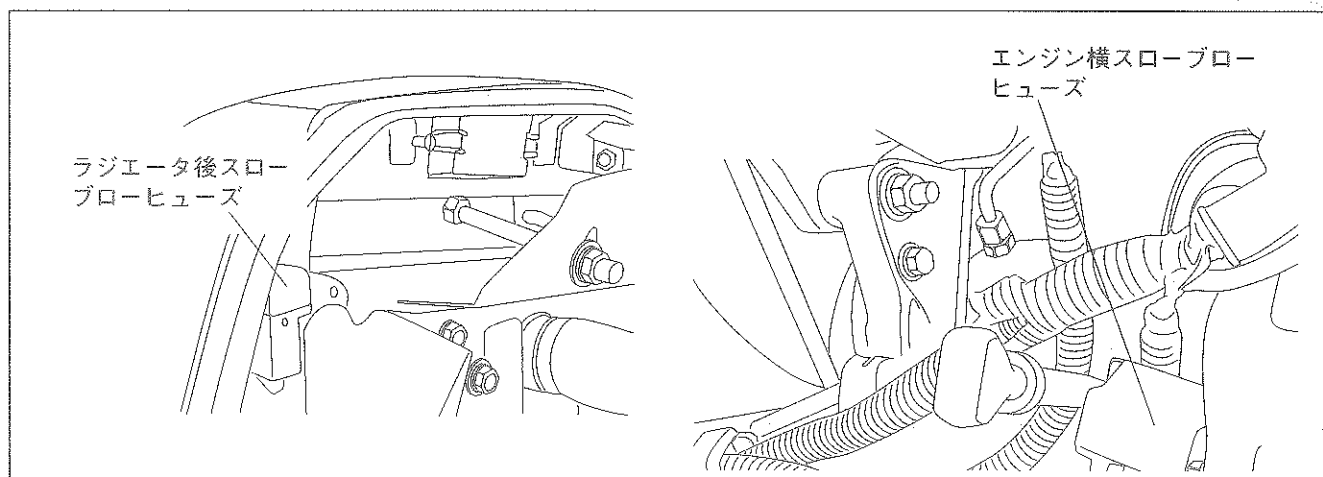
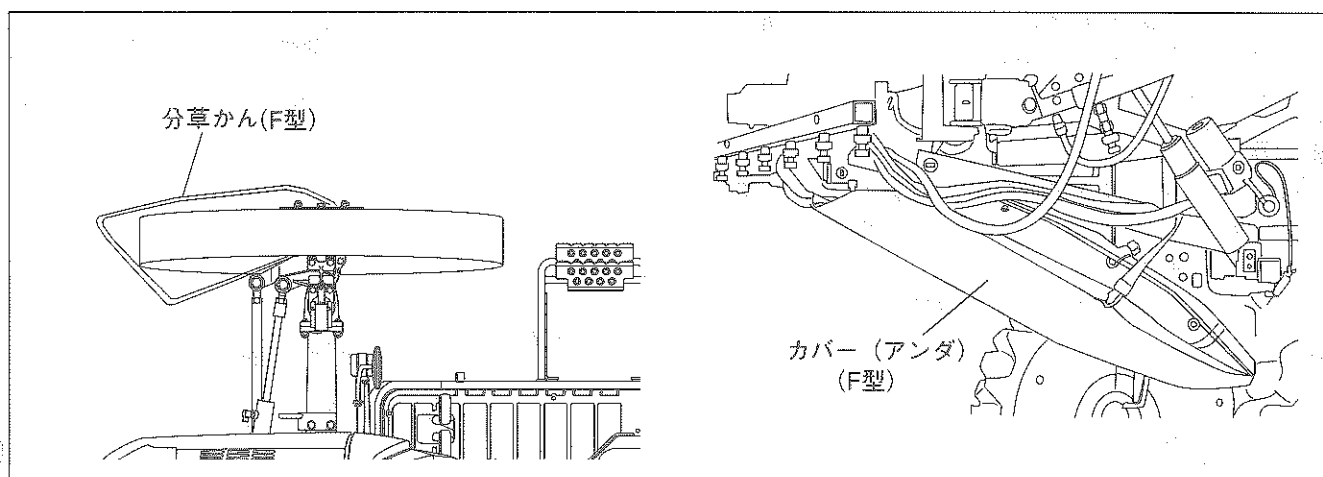
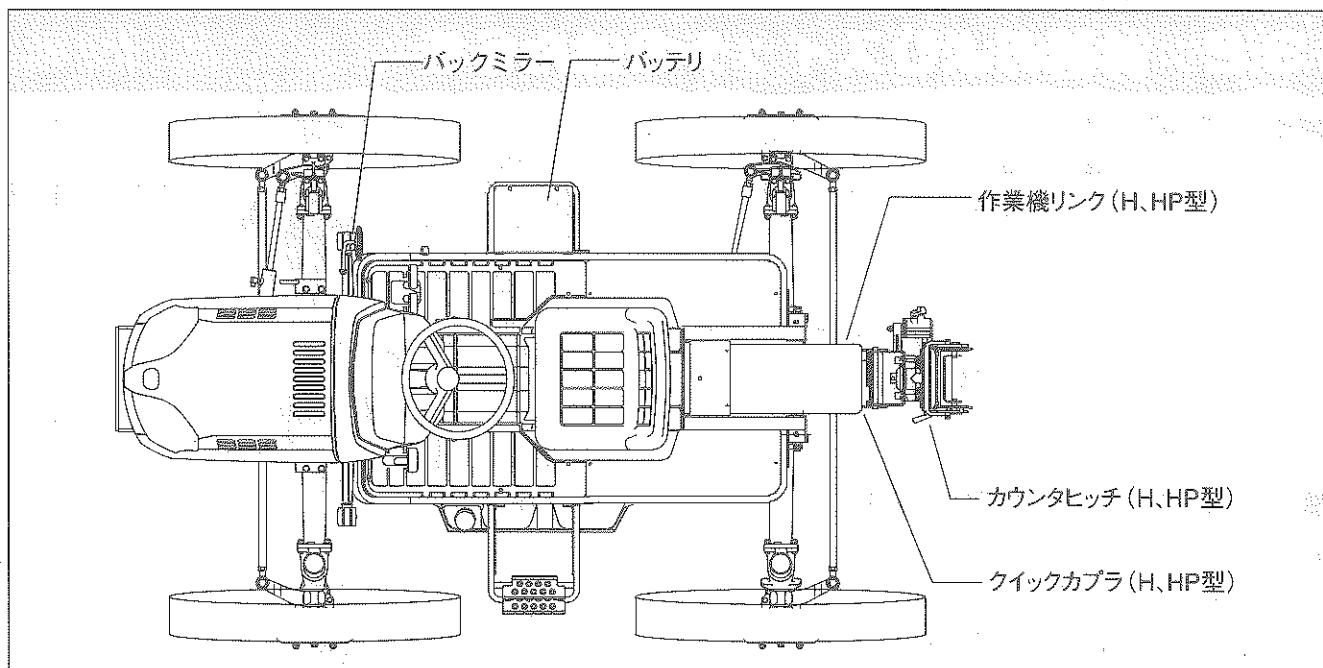
3.1 各部の名称

■ハンドル周り



■シート周り





3.2 計器およびスイッチのはたらき

■キースイッチ

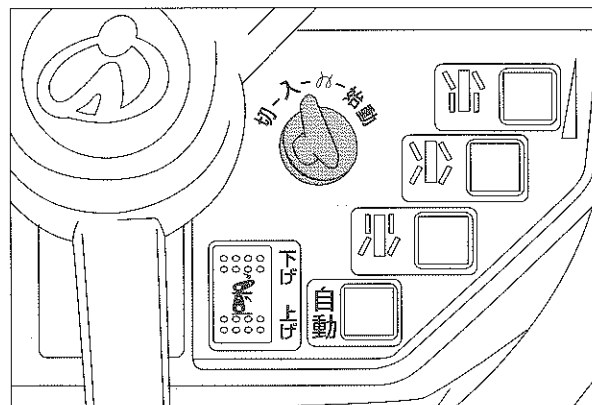
切……エンジンが停止します。

入……エンジン回転中の位置です。

〇〇…予熱位置です。5秒間保持した後、「始動」位置に回してください。

始動…クラッチペダルをいっばいに踏み込んでエンジンを始動させる位置です。

手を放せば自動的に「入」に戻ります。



■コンビネーションスイッチ

●ライティングスイッチ

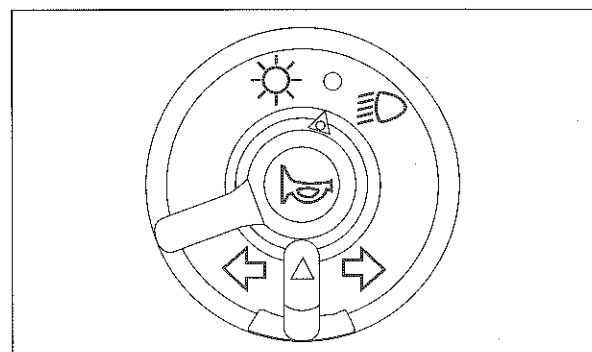
○……ヘッドランプ消灯位置です。

≡○……ヘッドランプ点灯位置です。

●ウインカスイッチ

(1) スイッチ操作をすると、ウインカが点滅します。

(2) 右折または左折が終わったらスイッチを中央に戻してください。



補 足

- メータパネルの方向指示が点灯したままになったときは、ウインカの電球切れが考えられます。

ウインカが点灯するか確認してください。

●ホーンボタン

キースイッチを「入」にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■乗用管理機メータ

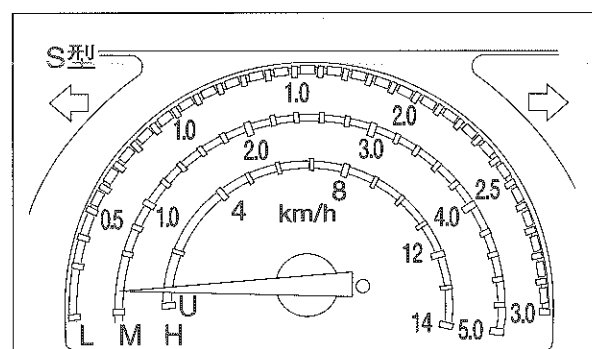
●車速計 (S型)

車速を表示します。(表示は目安です。)

表示目盛はkm/hです。

尚、副変速の変速位置により、L・M・Hのレンジの車速を読み取りください。

尚、速度は前進の時のみ表示します。又、車体のスリップが多い場合は実車速と表示車速が異なります。

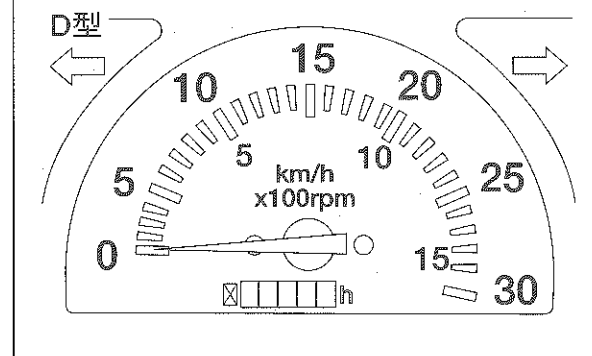


●回転計 (D型)

エンジン回転を表示します。

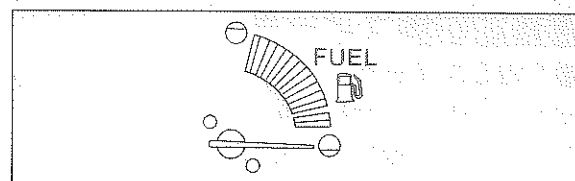
表示目盛は×100rpmです。

最高速度 (高-4) の場合は、内側の数字が速度 (km/h) を表示します。



●燃料計

メータパネル内にあります。

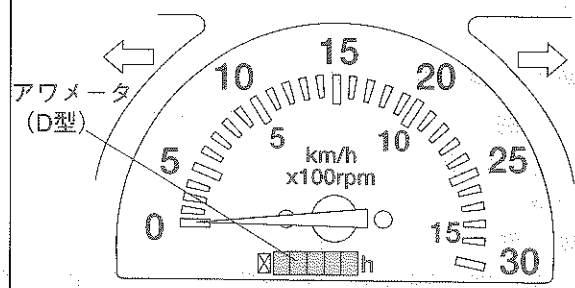
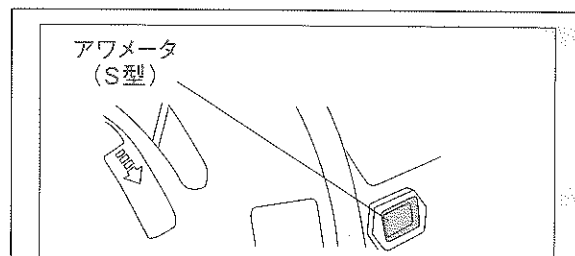


●アワメータ

S型はシート前下にあります。(図示はS型以外を示す。)

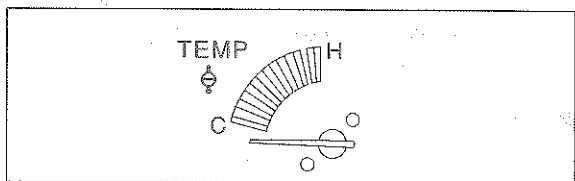
最後の1桁は1/10時間を示します。

D型はメーターパネル内にあります。



●水温計

メインスイッチが「入」のとき、冷却水の温度を示します。指針が「赤い範囲」を示すときは、オーバーヒートの状態ですから、「不調時の処理」の項（P91ページ）を参照してください。



●モニタランプ

モニタの表示がパネル内にあります。

・チャージ

エンジン回転中に充電回路に異常があると点灯します。

・ブレーキ非連結

左右のブレーキが連結されていない時に点灯します。

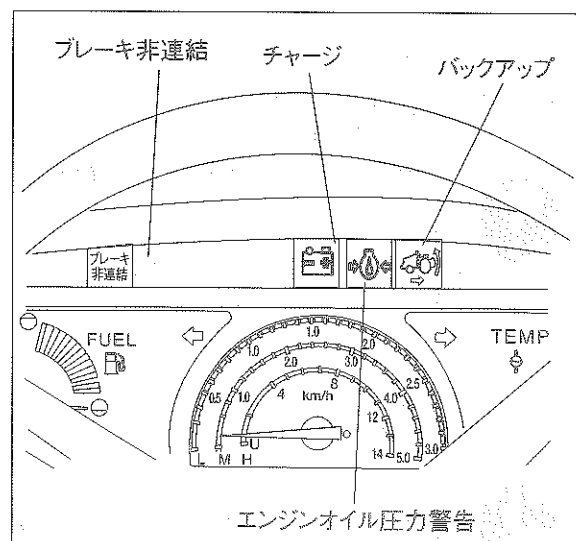
・バックアップ (W型)

バックアップスイッチが「入」の時に点灯します。点灯状態で副変速を「後」にすると作業機リンクが上昇します。

・エンジンオイル圧力警告

エンジン回転中、潤滑系統が異常の時点灯して警告します。

点灯したままの時は、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。



■操舵切換スイッチ

●FWSスイッチ

押すとFWS（前輪操舵）になります。
通常の作業や移動時に使用します。

●4WSスイッチ

押すと4輪操舵になります。
ほ場や作物をいためず小さく旋回できます。

●RWSスイッチ

押すとRWS（後輪操舵）になります。
後進で直進性を要するときに使います。

●中点設定スイッチ

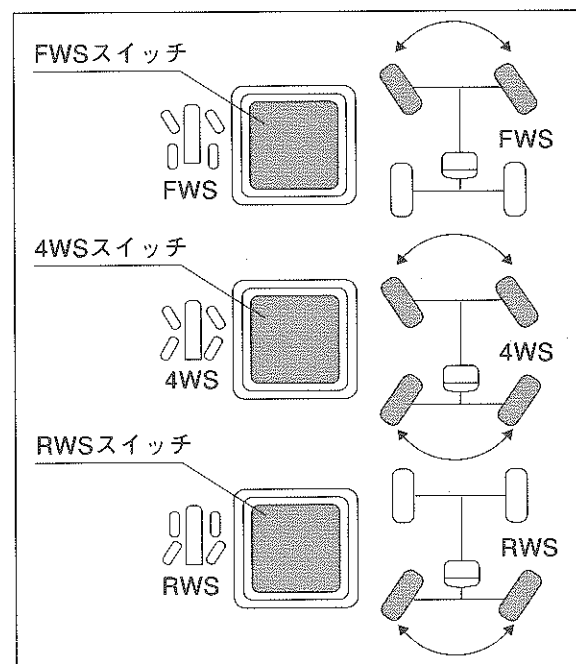
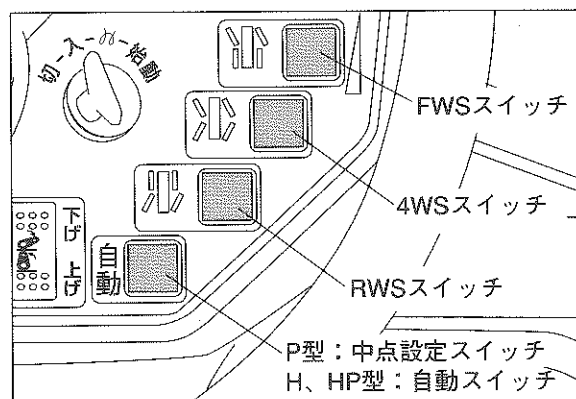
前後輪のタイヤの中点位置を調節します。（H、HP型で自動スイッチ）
（ 58ページ）

補 足

- 中点設定を行っていない時に中点設定スイッチが点灯している場合は、中点設定スイッチを押して消灯してください。

●自動スイッチ（H、HP型）

副変速レバーの位置、作業機リンクの上下で操舵が自動的に切り替わります。（ 58ページ）

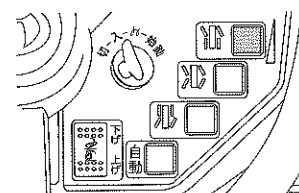
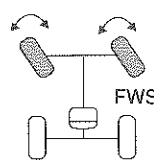


⚠ 警告



走行はFWSで行ってください。

- ※ 守らずに、4WS（4輪操舵）RWS（後輪操舵）で高速走行を行うと転倒するおそれがあり大変危険です。



⚠ 警告



キースイッチを「入」にしたときに、ブザーが鳴ったら必ず後輪がまっすぐになるようハンドルを回し、FWS（前輪操舵）に切り換えてください。

- ※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因となります。

補 足

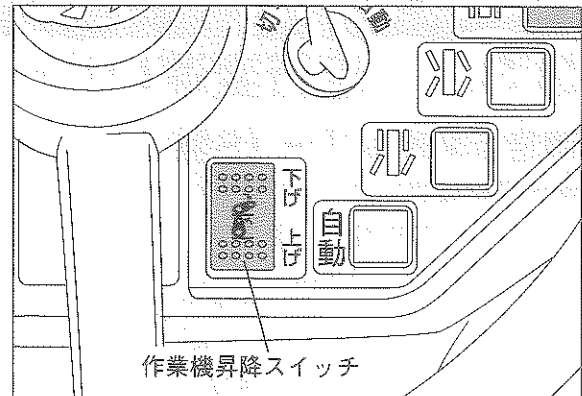
S型は後輪がまっすぐになり、FWSになった（ランプが点滅→点灯になった）後、ラジエータクリーナ（ 74ページ）の作動開始の警告音が鳴ります。（長い間欠のブザー3回）

■作業機昇降スイッチ

「上げ」を押すと作業機が最上げ位置まで上がります。
「下げ」を押すと作業機がコントロールレバーで調整した位置までさがります。

補 足

- エンジン始動時には、セーフティー機構により、スイッチ操作では作動しません、コントロールレバー（ 32ページ）を上げ、または下げにして、「ピッ」とブザーが鳴ってから始めて作業機が上下します。
- 作業機を装着していない場合は、作業機リンクの重さが軽いため下げの操作をしてもリンクが下がらない場合があります。この時は手で作業機リンクを押し下げてください。

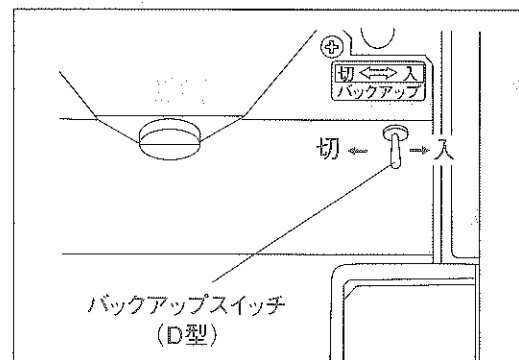
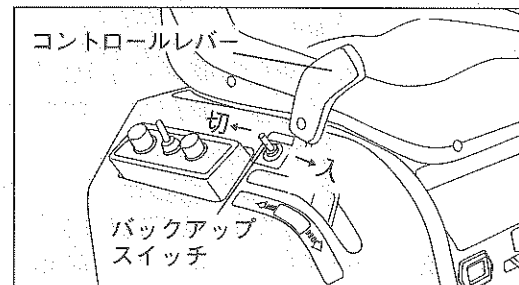


作業機昇降スイッチ

■バックアップスイッチ

「入」の時に副変速を「後」にすると作業機リンクが上昇します。

下げる場合は、作業機昇降スイッチの「下げ」を押す。または、コントロールレバーを最上げ位置にした後、下げる方向へ、コントロールレバーの操作をしてください。



バックアップスイッチ
(D型)

3.3 レバー・ペダル・シート関係の取り扱い

3.3.1 走行変速レバー

■走行変速レバー（S型）

●HST前後進レバー

レバーにて前後進が出来ます。

(1)前進はレバーを前に倒すと前進します。

倒すストロークにより速度が速くなります。

(2)後進はレバーを左に倒し、後に引くと後進します。

引くストロークにより速度が速くなります。

●副変速レバー

L(低)・M(中)・H(高)の3段変速ができます。

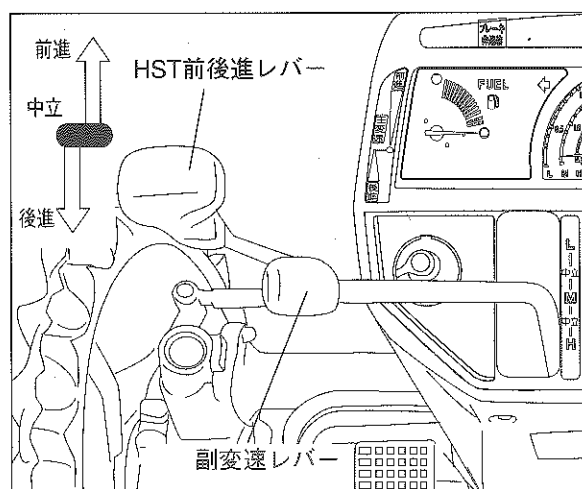
S型のHST前後進レバーは下記要領にて取り扱ってください。

【機体前進】 副変速レバーを「L,M,H」速のいずれかに入れ、HST前後進レバー(以下HSTレバー)を前側へ操作してください。はじめての方は、「L」速から操作してください。

【機体停止】 ①HSTレバーをゆっくり「中立位置」まで、戻してください。
②「中立位置」で、HSTレバーを前後に微調整して、機体を完全に停止させてください。

尚、中立を合わせやすくする為、ゆっくり丁寧に微調整をお願いします。

【機体後進】 HSTレバーを「中立位置」で左側に倒し、後側へ操作してください。



■走行変速レバー（D型）

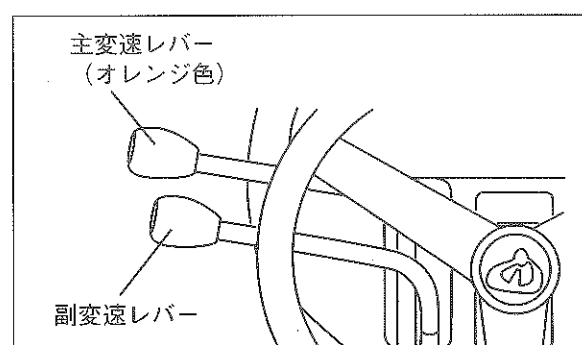
●主変速レバー

1・2・3・4の4段変速ができます。

●副変速レバー

前進2段の変速と、後進への切り替えができます。

主変速レバーとの組み合わせにより、前進8段、後進4段の変速ができます



注意



主変速（D型）・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏み乗用管理機が完全に停止してから操作してください。

※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

3.3.2 アクセルレバー・アクセルペダル

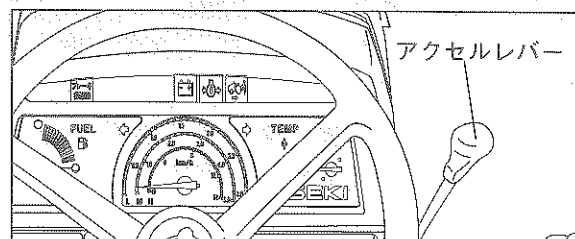
■アクセルレバー・アクセルペダル

●アクセルレバー

エンジンの回転数を制御するレバーです。

手前に引くと高速回転になります。

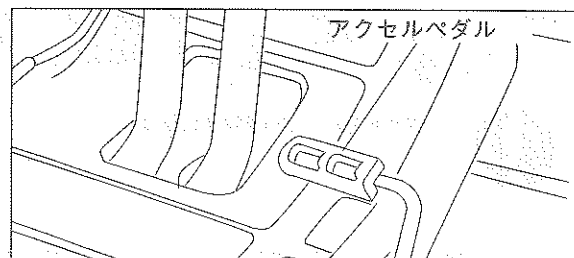
前方に押すと低速回転になります。



●アクセルペダル

アクセルペダルはアクセルレバーと連動しており、ペダルを踏む……エンジン回転が上がります。

足を離す……アクセルレバーのセット位置まで戻ります。



3.3.3 クラッチペダル・ブレーキペダル・デフロックペダル

■クラッチペダル

ペダルを踏込む……走行クラッチが切れます。

ペダルから足を離す……走行クラッチがつながります。

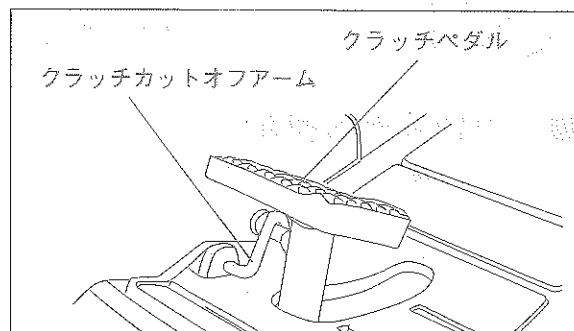
補 足

- クラッチペダルは切るときは早く、つなぐときはゆっくり操作してください。

■クラッチカットオフアーム

長期格納時にクラッチ保護のため走行クラッチを切った状態にするものです。

クラッチペダルを踏み、アームをかけてペダルを固定してください。

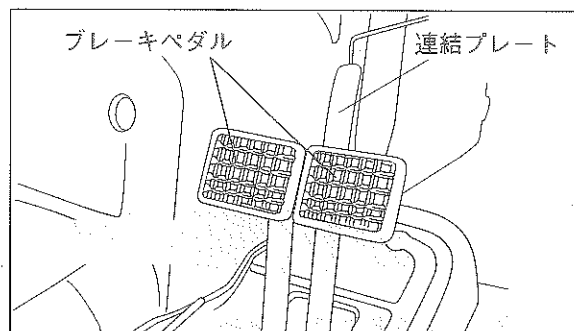


■ブレーキペダル

ブレーキペダルは、左右それぞれ独立しています。

左側を踏み込むと左側の後輪、右側を踏み込むと右側の後輪にブレーキがかかります。

連結プレートで連結すると左右のブレーキが同時にかけられます。



警告



作業運転以外では、必ず左右のブレーキペダルを連結プレートで「連結」してください。
またブレーキは必ず左右同時にきくように調整してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして衝突・転倒事故を引起こします。

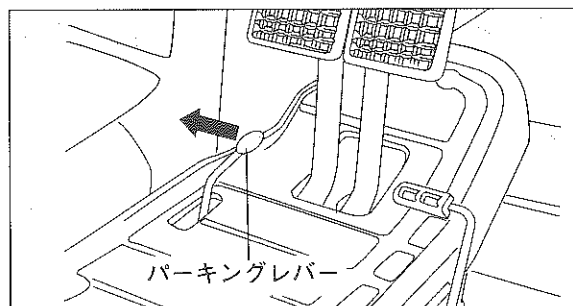
補 足

- 水田で片ブレーキ旋回をすると、ほ場や稲をいためます。水田では片ブレーキ使用を避けてください。

■パーキングレバー

左右のブレーキペダルを連結し、ペダルをいっばいに踏み込みパーキングレバーを矢印方向に「引いて」固定してください。

ブレーキペダルを強く踏めば、パーキングレバーは自動的に解除されます。



⚠ 警告



駐車時、停車時は必ずパーキングレバーを確実にかけてください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故などにつながり大変危険です。

注意



パーキングレバーをかけたまま走行しないでください。

※ 守らないと、機械破損の原因となります。

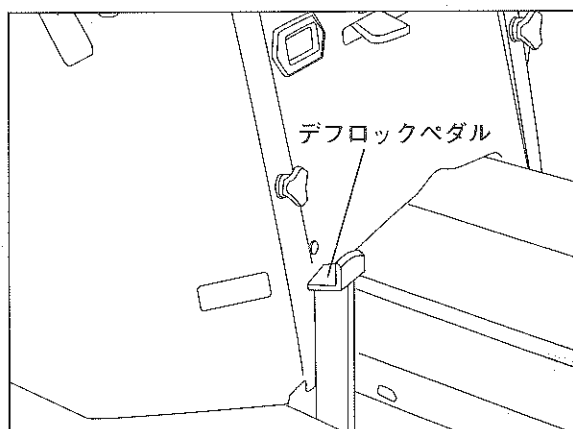
■デフロックペダル

左右の前後輪を同じ回転で駆動する装置で片側の車輪がスリップしたときにペダルを踏込めばスリップを防止できます。(H型は後輪のみ)

ペダルを踏込む……………デフロックします。

ペダルから足を離す……………自動的にデフロックがはずれます。

はずれない場合、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



⚠ 警告



走行するときは、デフロックペダルを解除してあることを確認してください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故を引起します。



デフロックを入れたままで旋回しないでください。

※ 守らないと衝突・転倒事故などにつながり大変危険です。

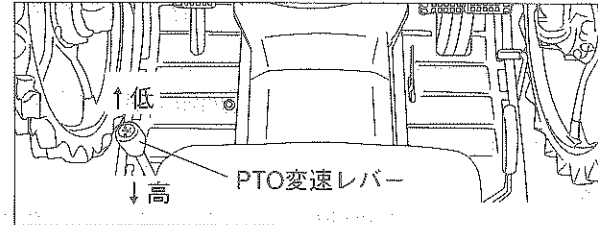
補足

- デフロックが入りづらいときにペダルを強く踏み込まないでください。左右の車輪の回転が変わると自動的に入ります。強く踏み込むと逆にデフロックが入りづらくなります。

3.3.4 PTO変速レバー(H、HP型)

■PTO変速レバー (H、HP型)

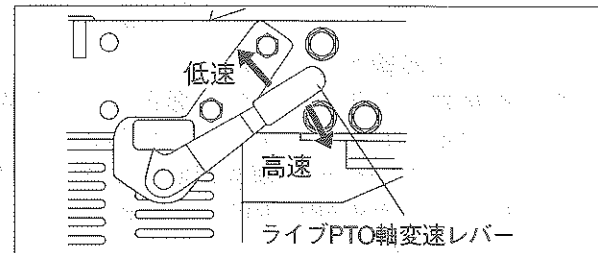
PTO軸の回転速度は、レバー操作により、高低2段階の変速ができます。



■ライブPTO変速レバー (F型)

エンジンを停止して変速を行ってください。

管理作業	低速	高速
防除機少量散布	○	
防除機慣行散布		○
ブームタブラー (粒剤散布)		○



⚠ 注意



低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用しないでください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。



作業機に指定されたPTO軸回転速度を遵守してください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

補 足

- PTO変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸の回転が完全に停止してから行ってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。

3.3.5 PTO軸・ライブPTO軸

■PTO軸 (H、HP型)

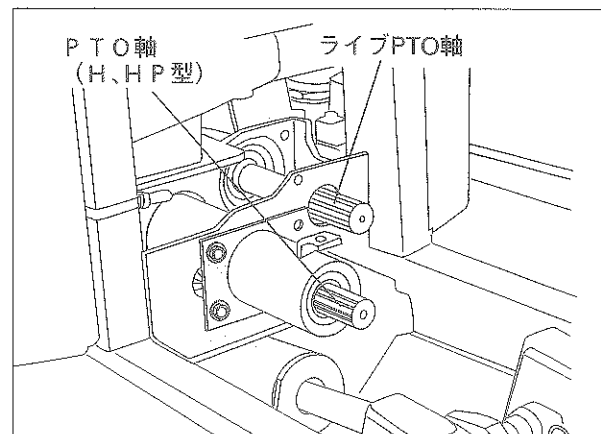
ロータリカルチ等の作業用駆動軸です。

使用しない場合は必ず、装備しているPTO軸キャップを装着してください。(JKB17-Dのみ)

■ライブPTO (ブームタブラ) 軸

使用しない場合は必ずPTO軸キャップを装着してください。

作業機を着脱する場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。



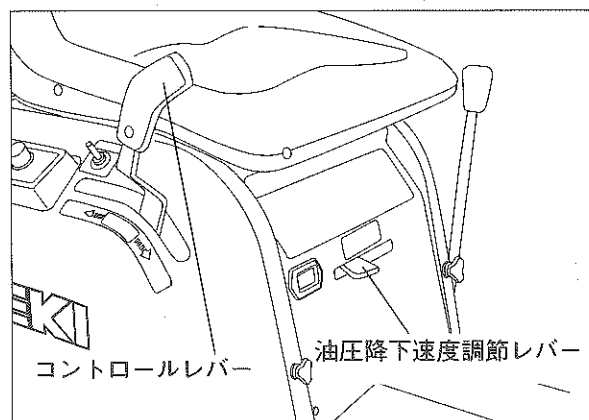
3.3.6 コントロールレバー・自動水平（H、HP型）

■コントロールレバー

- (1) コントロールレバー上げ下げすると作業機が上下します。
- (2) コントロールレバーの操作位置に対応した作業機高さが得られます。

補 足

- エンジン始動時には、セーフティー機構により、コントロールレバーを上げ、または下げにして、「ピッ」とブザーが鳴ってから始めて作業機が上下します。
- 作業機を装着していない場合は、作業機リンクの重さが軽いためレバーを下げにしてもリンクが下がらない場合があります。この時は手でリンクを押し下げてください。



■油圧降下速度調節レバー

油圧降下調節レバーを倒すと作業機の降り速度が調節できます。

降下速度を遅く……………油圧降下調節レバーを右に倒す（運転席より見て）

降下速度を早く……………油圧降下調節レバーを左に倒す（運転席より見て）

ロック……………油圧降下調節レバーをいっばい右に倒す（運転席より見て）

■自動水平制御ボックス

●水平制御切替スイッチ

「自動」「平行」「手動」の切り換えができます。

●手動調節レバー

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

「上げ」……………「上げ」方向に倒すと作業機は左下がり

「下げ」……………「下げ」方向に倒すと作業機は右下がり

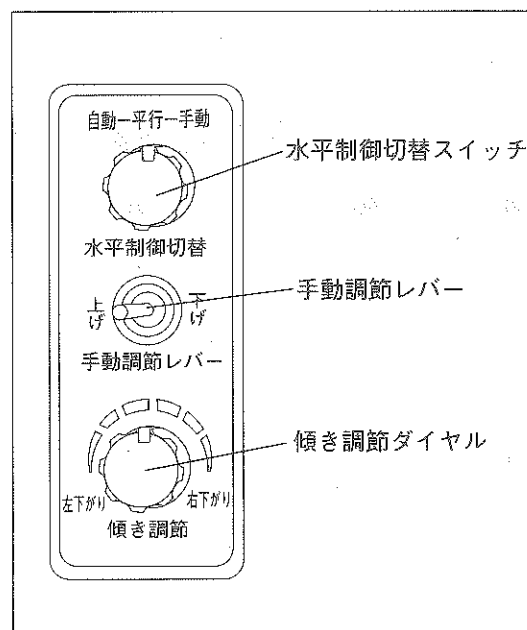
●傾き調節ダイヤル

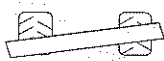
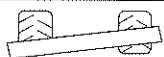
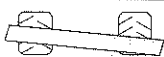
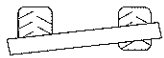
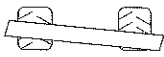
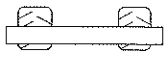
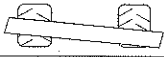
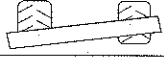
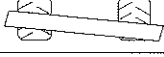
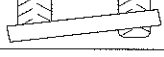
作業機の傾きを調節します。

「水平」……………作業機は自動的に水平を保持します。

「右下がり」…作業機は自動的に右下がりを保持します。

「左下がり」…作業機は自動的に左下がりを保持します。



水平制御切替スイッチ	傾き調節ダイヤル	手動調節レバー	作業機の動き
「手動」位置		Ⓐ — 下	左下り 
		上 — Ⓑ	右下り 
		上 — 下	左下り、右下り、いずれかの位置でそのまま停止
「平行」位置		Ⓐ — 下	左下り 
		上 — Ⓑ	右下り 
		上 — 下	自動的に本機と平行 
「自動」位置	「水平」位置	Ⓐ — 下	左下り 
		上 — Ⓑ	右下り 
		上 — 下	自動的に水平 
「自動」位置	「右下り」位置	Ⓐ — 下	左下り 
		上 — Ⓑ	右下り 
		上 — 下	右下り 
「自動」位置	「左下り」位置	Ⓐ — 下	左下り 
		上 — Ⓑ	右下り 
		上 — 下	左下り 

警告



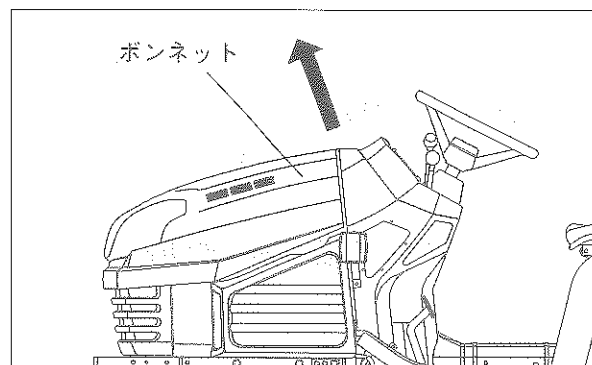
ユニバーサルジョイントを装着する場合は必ず、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

3.3.7 ボンネット・カバー・燃料タンク

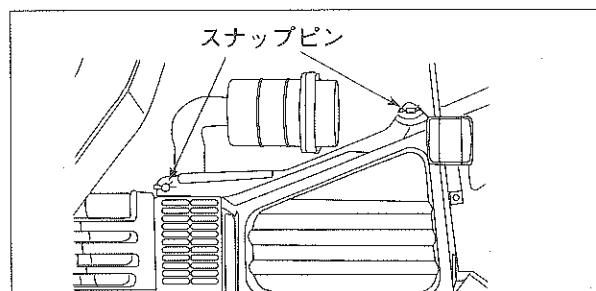
■ボンネット

ボンネットの左右を上に持ち上げてください。



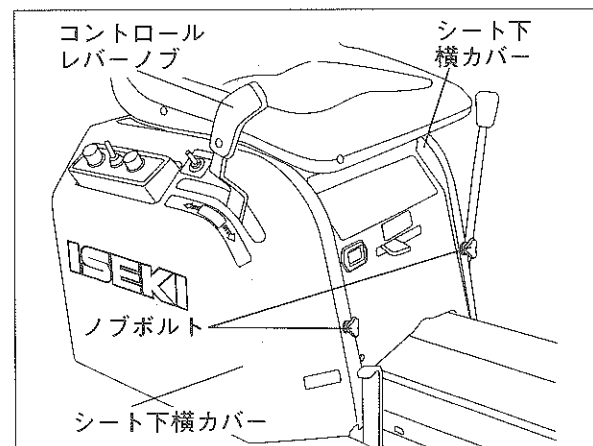
■サイドカバー

ボンネットを開けて、スナップピンをはずし、外側へ倒しながら引き上げてください。



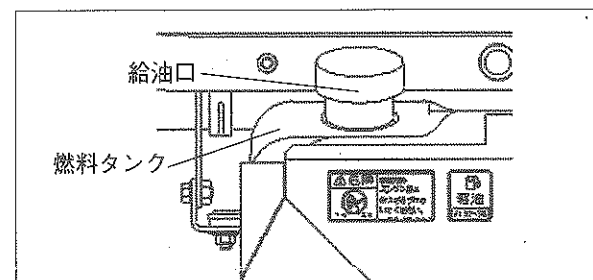
■シート下横カバー

ノブボルトをはずしてカバーをはずしてください。
右カバーはコントロールレバーノブを外してから取りはずしてください。



■燃料タンク

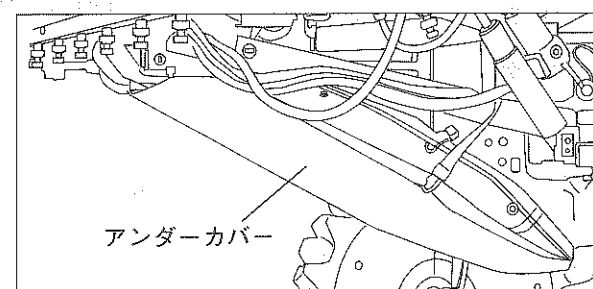
燃料はディーゼル軽油を使用



3.3.8 アンダーカバー・分草かん

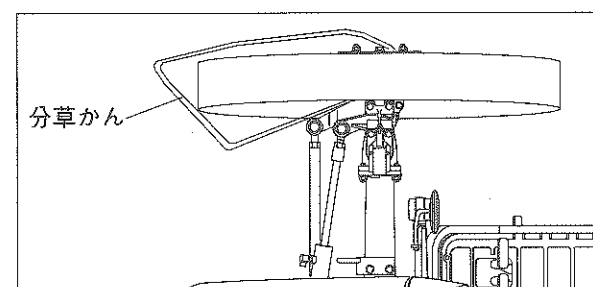
■アンダーカバー（F型）

アンダーカバーは、本機と作物との干渉を防止します。尚、本機への装着は、同梱の組立要領書を参考にしてください。



■分草かん(F型)

分草かんは、タイヤによる稲の巻き込みを防止します。
本機への装着は、同梱の組立要領書を参考にしてください。



4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険



燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。

※ 守らないと、火災の原因になります。



燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

※ 守らないと、火災等を引き起こすことがあります。

⚠ 警告



必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回してロックしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 運転席に座る前に

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
警告表示ラベルの点検	・はがれ、破損等	・新しいものに貼り替えてください	18,19
タイヤ	・空気圧は適正ですか ・摩耗、損傷はありませんか	・補充してください ・交換は「お買い上げ先」に相談してください	82,83
油漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
水漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
エンジンオイル	・オイルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください ・キセキディーゼルデラックスオイル（CD級以上）	70
ミッションオイル	・検油窓の上下限の間に油量がありますか	・補給してください ・キセキU・T・Hオイル	79,80
冷却水	・リザーブタンクの上下限の間に冷却水がありますか	・補給してください	72
ファンベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	76
エアクリーナ	・パキューエータバルブにゴミはたまっていませんか	・パキューエータバルブをつまんでゴミを落としてください	71

4.作業前点検

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
燃料フィルタ	・ 水や沈殿物がたまっていますか	・ カップを洗浄してください	75
車体各部	・ 損傷がありませんか	・ ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
ボルト・ナット	・ ゆるみはありませんか	・ 締め付けてください	—
作業機取付ピン	・ 脱落していませんか	・ 装着してください	—
各ランプ類	・ 損傷していませんか	・ ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
防虫網	・ 防虫網が目詰まりしていませんか	・ 網面を清掃してください	73
ラジエータ	・ ラジエータフィンが目詰まりしていませんか	・ ラジエータフィンを水道水で清掃してください	73
バッテリー液	・ レベルの上下限の間にバッテリー液がありますか	・ 精製水を補給してください	85
反射器	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買い上げ先」に相談してください	—

4.2 運転席に座って

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
ブレーキペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	81
クラッチペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	81
パーキングレバー	・ 作動は正常ですか	・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	30
バックミラー	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買い上げ先」に相談してください	40

4.3 メインスイッチを「運転・予熱」に入れて

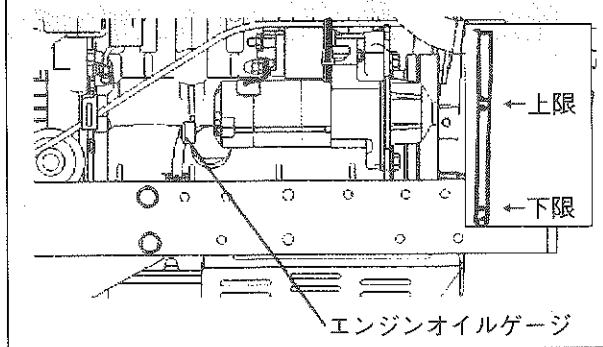
点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
燃料計	・ 作動は正常ですか ・ 燃料は十分入っていますか	・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください ・ 給油してください	25
燃料キャップ	・ ゆるんでいませんか	・ 確実に締め付けます	34
各ランプ類 モニタランプ	・ 汚れはありませんか ・ 点灯しますか	・ 清掃してください ・ 点灯しない場合は「お買い上げ先」に相談してください	25
メータ類	・ 作動は正常ですか	・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	24
ホーン	・ 鳴りますか	・ 鳴らない場合は「お買い上げ先」に相談してください	—

4.4 エンジンを始動して、徐行しながら

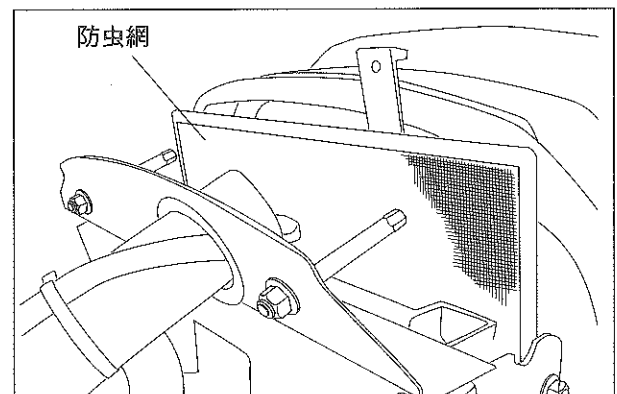
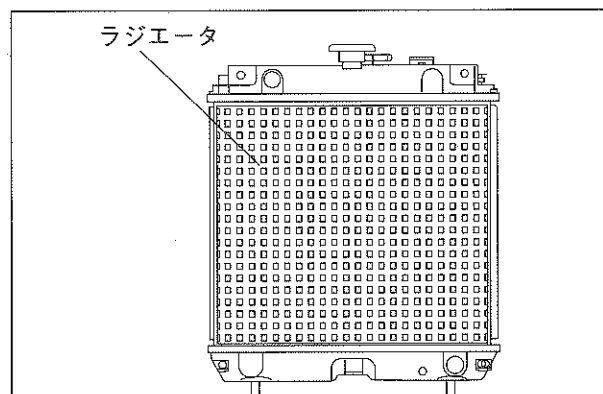
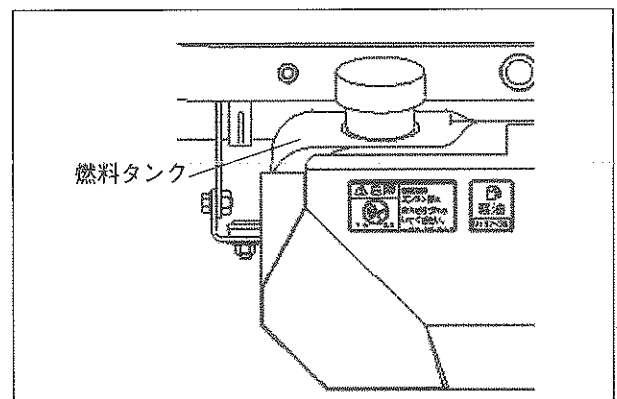
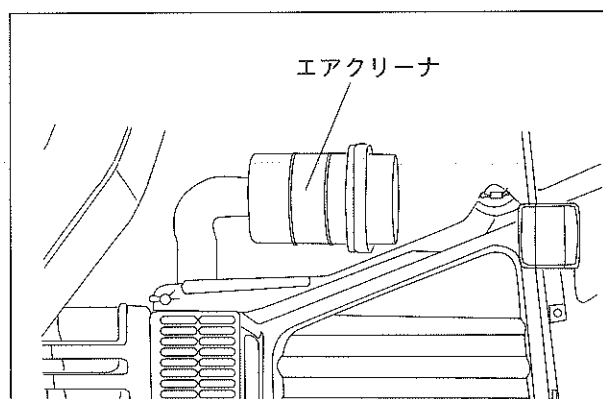
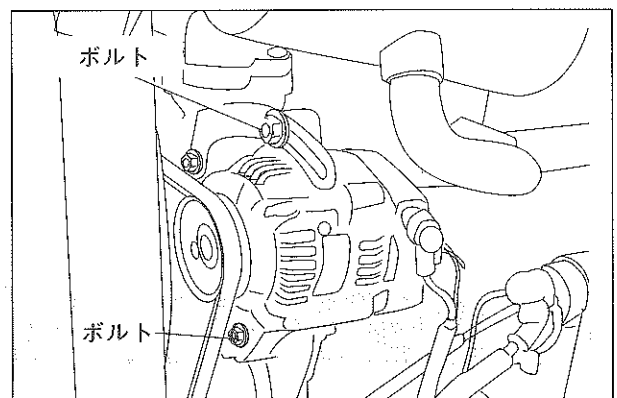
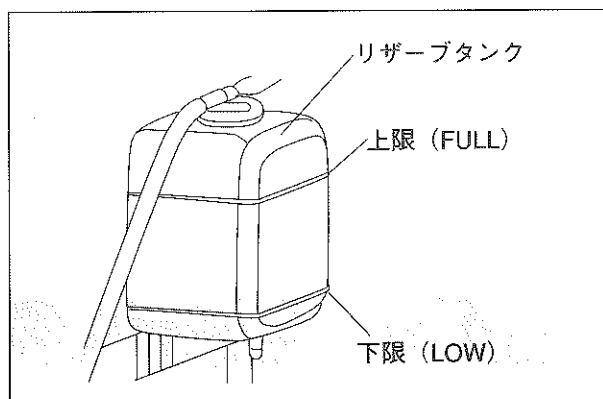
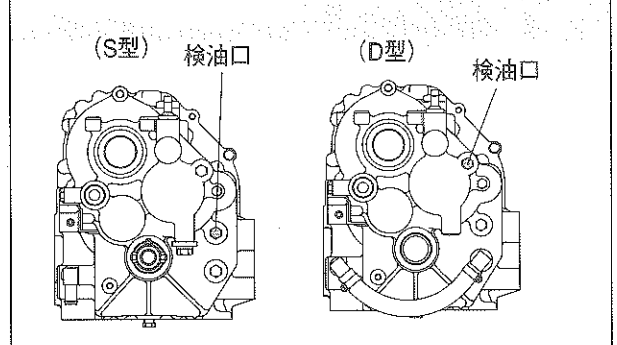
点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
水温計	・ 徐々に温度上昇を示しますか	・ 徐々に温度上昇を示さない場合は「お買い上げ先」に相談してください	25
排気ガス	・ 色は薄青色ですか ・ 白煙や黒煙を吐きませんか ・ 異常な音はしませんか	・ 白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
ブレーキ	・ 効きは悪くありませんか ・ 片効きしませんか	・ 「お買い上げ先」に相談してください ・ 左右の調整をしてください	81
ステアリングホイール（ハンドル）	・ 操作力が重くありませんか ・ 振れや取られがありませんか ・ 遊びが多くありませんか	・ 「お買い上げ先」に相談してください	82

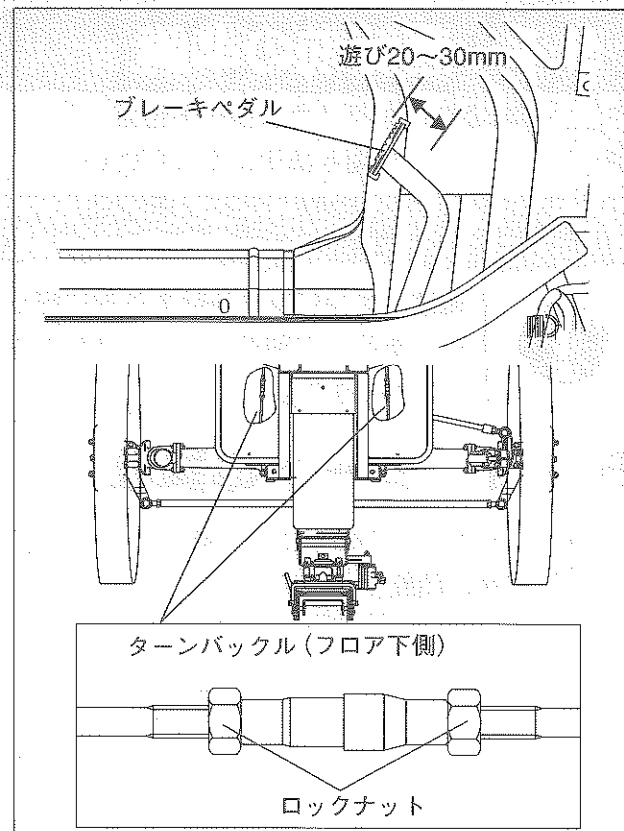
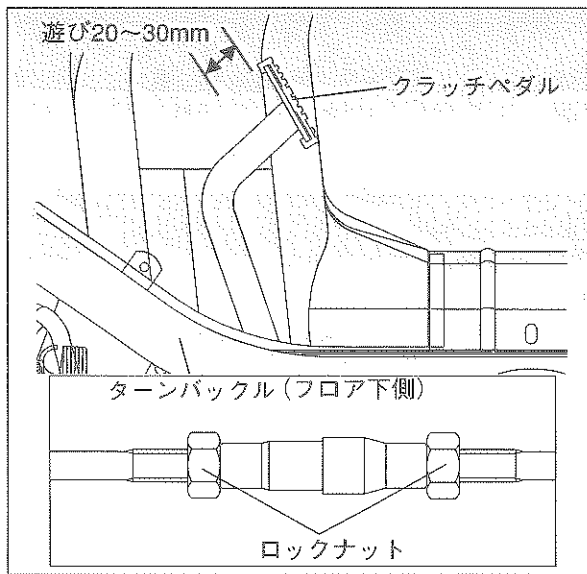
4.作業前点検

ボンネット内右側面



機体下、後方から見た図





5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備

正しい運転姿勢になるよう、シート位置、シートベルト位置、ステアリングホイール（ハンドル）位置、バックミラー位置を調節してください。

警告



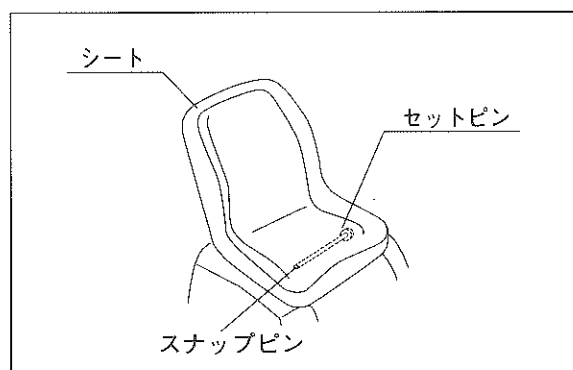
調節はエンジンを始動する前に行ってください。

※ 走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.1.1 シートの調節

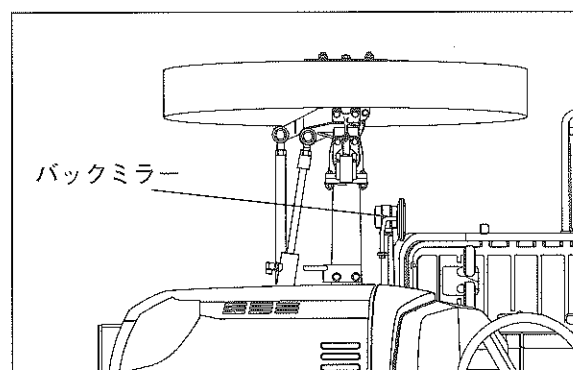
- 1 セットピンの取りつけ位置により、シートを前後に調整できます。

- 2 調整後、セットピンをスナップピンにて確実に抜き止めされていることを確認します。



5.1.2 バックミラー

バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。



5.2 エンジン始動のしかた

⚠ 警告



エンジンを始動するときは、必ずシートに座って、すべての変速レバーやその他のレバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 守らないと、急発進することがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、必ずPTO変速レバー（H、HP型）・HST前後進レバー（S型）・副変速レバーを「中立」にしてください。

※ 変速したままエンジンを始動すると、不意に乗用管理機本体が動いたりPTO軸が回転し、傷害事故を起こすおそれがあります。

屋内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

※ 換気が不十分な場合、排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

駐車時、停車時には必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、乗用管理機が自然に動き出したりして、傷害事故を起こすおそれがあります。

5.2.1 始動のしかた

- 1 左右のブレーキペダルを連結します。
連結プレートで左右のブレーキペダルを連結します。

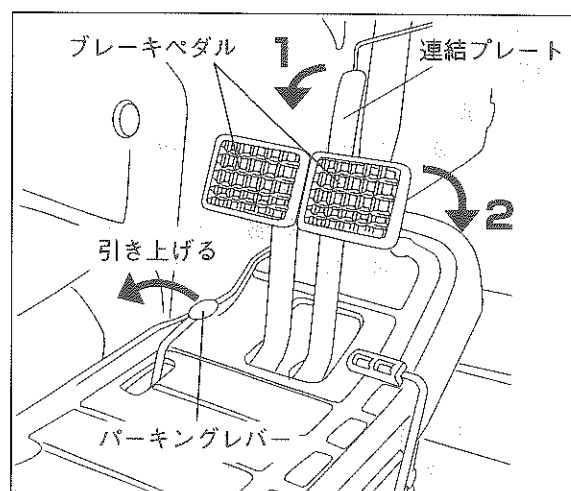
補足

- ブレーキペダルは、左右それぞれ独立しています。左側を踏み込むと左側の後輪、右側を踏み込むと右側の後輪にブレーキがかかります。
- 左右のブレーキが連結されていないときは、モニタランプのブレーキペダル非連結警告灯が点灯して警告します。

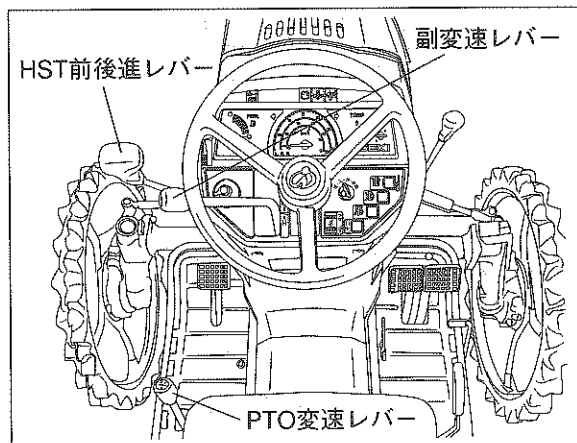
- 2 パーキングレバーをかけます。
ブレーキペダルを踏み込みパーキングレバーを引き上げてパーキングブレーキをかけます。

補足

- ブレーキペダルを強く踏むと、パーキングブレーキは自動的に解除されます。



- 3** 各変速を中立にします。
- 1) 副変速レバーを「中立」にします。
 - 2) HST前後進レバーを中立にします。
(S型)
 - 3) PTO変速レバーを「中立」にします。
(H, HP型)



- 4** 主変速レバーが任意の変速位置に確実に入っていることを確認してください。(D型)

補足

- 主変速レバーは「1速」「2速」「3速」「4速」の4段変速が出来ます。
副変速レバーとの組み合わせにより、
前進8段、後進4段の変速が出来ます。

注意



主変速 (D型)・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏み乗用管理機が完全に停止してから操作してください。

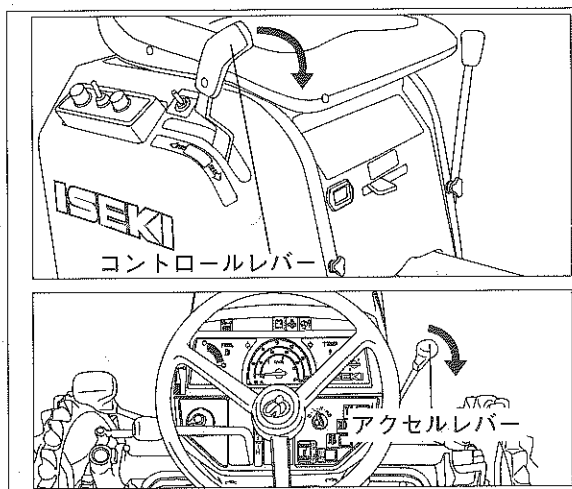
※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

- 5** コントロールレバーを下げ、作業機を地面までおろします。(H, HP型)

- 6** アクセルレバーを中程まで引き込みます。

補足

- アクセルレバーはエンジンの回転数を制御するレバーです。手前に引くと高速回転になり、前方に押しと低速回転になります。



- 7** クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。

補足

- クラッチペダルはエンジンの動力をミッションへ入り切りするペダルです。
踏み込むとクラッチが切れ、足を離すとクラッチがつながります。
- クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。
- クラッチペダルは「切」にするときは速く、「つなく」ときはゆっくりと操作をしてください。

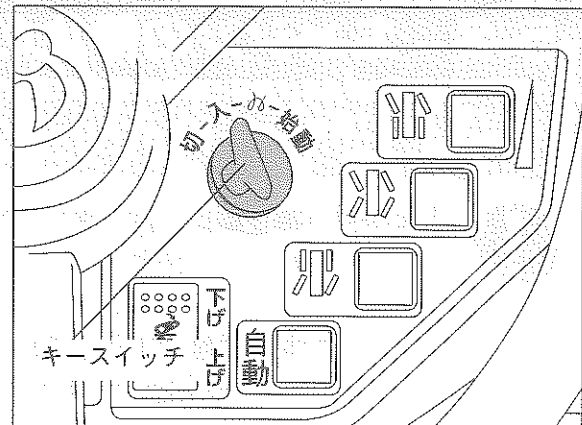
注意



作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ クラッチの寿命が短くなります。

- 8 キースイッチにキーを差し込み「入」にします。
(チャージランプ、エンジンオイル圧力警告灯が点灯しているか確認します。)
- 9 キースイッチを予熱位置で5秒間保持し、「始動」の位置に回して、エンジンが始動したら直ちにキースイッチから手をはなします。
- 10 チャージランプ、エンジンオイル圧力警告灯が消灯していることを確認します。



注意



メインスイッチを「入」の位置で長時間放置しないでください。

※ バッテリ上がりの原因となります。

エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。

※ スタータの破損の原因となります。



スタータの作動は1回10秒程度とし、エンジンが始動しないときは10秒程停止してから、再び操作を繰り返してください。

※ 連続してスタータを作動させると、バッテリーの寿命が短くなります。

5.2.2 始動時の操舵方法

警告



キースイッチを「入」にしたときにFWSランプの点滅とともに、ブザーが鳴ったら必ず後輪がまっすぐになるようにハンドルを回し、FWS（前輪操舵）に切り換えてください。

※ 切り換えなければ、衝突・転倒事故を引き起こすおそれがあります。

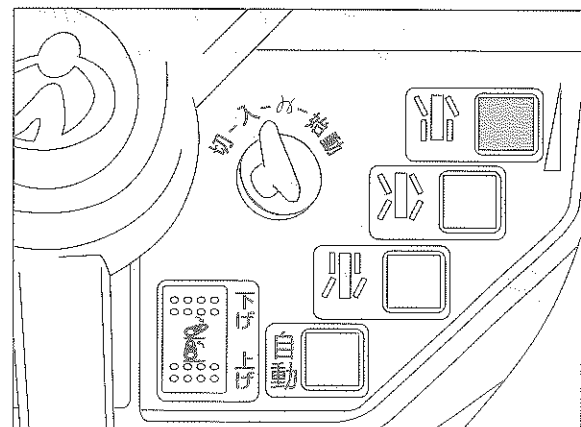
- エンジン始動時は、操舵モードがFWS（前輪操舵）に設定されています。

もしFWSランプの点滅とともに、ブザーが鳴った場合は、後輪がまっすぐになるようにハンドルを回してください。ブザーが止まると自動的にFWS（前輪操舵）になります。

- S型は後輪がまっすぐになり、FWSになった（ランプが点滅→点灯になった）後、ラジエータクーラー（74ページ）の作動開始の警告音が鳴ります。（長い間欠のブザー3回）

補足

- エンジンの回転中は、キースイッチを「始動」の位置にしないでください。



5.3 エンジンの停止のしかた

警告



エンジン停止時は、パーキングブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、事故の原因となります。

エンジンを緊急停止するときは、エンジン周囲に触れないように注意してください。

※ エンジン周辺部は高温のため、やけどをするおそれがあります。

注意



必ずメインスイッチを「停止」位置まで回し、キーを抜いてください。

※ そのままにするとバッテリー上がりの原因となります。

5.3.1 エンジン停止

- 1 アクセルレバーを前方にいっぱい押し、エンジン回転を低速にします。

補足

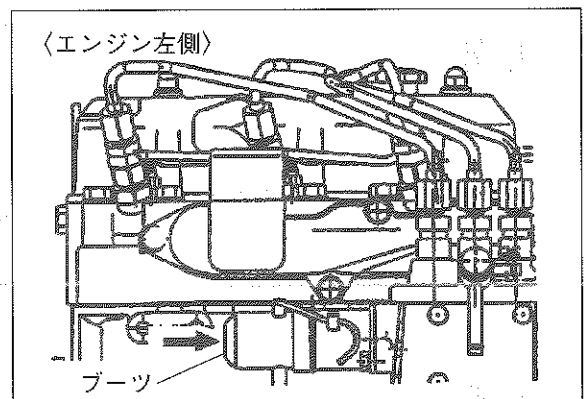
- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間程無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

- 2 キースイッチを「切」にします。

補足

- 万一、故障しエンジンが停止しないときは、ボンネットを開け、図の要領でブーツ中心を停止するまで押してください。
また故障の際には、「お買い上げ先」にご相談ください。

- 3 メインスイッチキーは必ず抜きます。



5.4 発進のしかた

発進をする前に、下記の項目を確認してください。

⚠ 警告



乗用管理機を発進させるときは、前後左右の状況を確認し、乗用管理機の近辺に人を近づけないでください。

特に子供に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

乗用管理機や作業機に他の人や物を乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落したり物が落下したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



走行時は、FWS（前輪操舵）で走行してください。

※ 守らないと、車体が急旋回し、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすことがあります。

走行するときは、デフロックペダルが解除してあるか確認してください。

※ 解除していないと転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

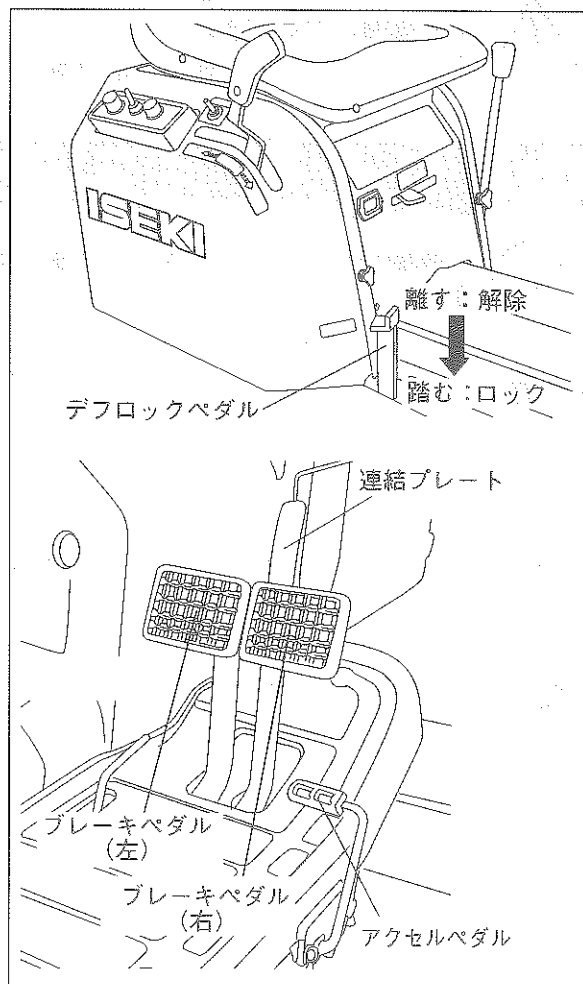
走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

ブレーキ非連結警告灯の消灯を確認してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきとなり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。

※ 守らないと、正常な走行スピードのコントロールができなくなるおそれがあります。



警告



クラッチペダルは、ゆっくり離してください。

※ 急に離すと急発進して転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

坂の状況に合わせてスピードをゆるめて走行してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



坂道では急な旋回はしないでください。

※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。

下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。

※ 守らないと、スリップや転倒事故を引き起こすおそれがあります。



負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時は乗用管理機が後方に転倒しないよう注意してください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。

注意

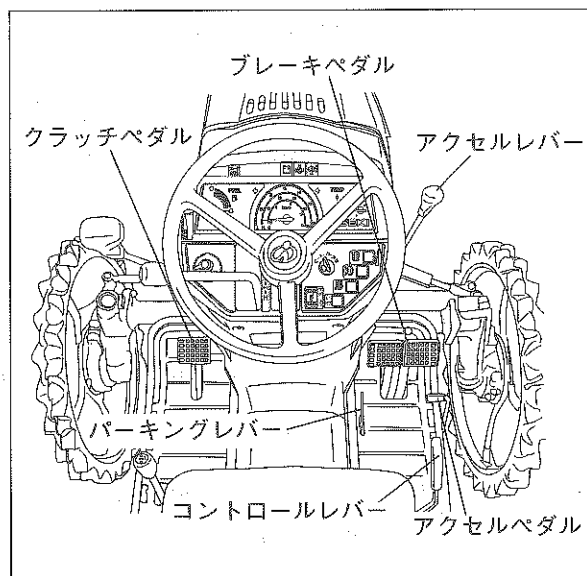


作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ クラッチがすり減り、寿命が短くなります。

■S型

- 1 コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。
- 2 クラッチペダルを踏み込みクラッチを切ります。
- 3 HST前後進レバーを中立にし、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。
- 4 ブレーキペダルを踏み込みパーキングレバーをはずします。
- 5 アクセルレバーまたは、アクセルペダルでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。
- 6 HST前後進レバーを進みたい方向に倒し、発進します。



■D型

- 1 コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。
- 2 クラッチペダルを踏み込みクラッチを切ります。
- 3 主変速レバー、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。
- 4 ブレーキペダルを踏み込みパーキングレバーをはずします。
- 5 アクセルレバーまたは、アクセルペダルでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。

補 足

- アクセルペダルはアクセルレバーと連動しています。
ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がり、ペダルから足を離すとアクセルレバーの設定回転まで戻ります。
- 走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
クラッチの寿命を延ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。また、速度調節をクラッチで行わないようにしてください。
- 走行するときは、PTO変速レバーは常に中立にしておいてください。

5.5 変速のしかた

変速のしかたについては、「走行変速レバー」(P. 28ページ)を参照してください。

5.6 旋回のしかた

! 警告



旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速位置を低速にしてください。

※ 高速で急旋回すると、転倒事故につながります。

5.7 坂道での運転

! 警告



坂道では急旋回をしないでください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になるおそれがあります。

坂の途中では、クラッチを切ったり、すべての変速レバーを中立にしないでください。
また、下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。

※ 守らないと、スリップや転倒事故の原因となるおそれがあります。



坂の状況に応じた適切なスピードで走行してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.7.1 急な上り坂での発進

- 1 ブレーキペダルを踏み込みます。
- 2 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。
- 3 各変速レバーを低速位置に入れます。
- 4 D型は、アクセルレバーでエンジンを中速(約1500rpm)にします。
- 5 クラッチペダルをゆっくり離し、半クラッチ状態にします。
- 6 同時にブレーキペダルの踏み込みを少しゆるめます。
- 7 アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足をゆっくり離すと乗用管理機は発進します。

5.7.2 下り坂での運転

下り坂では、エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

5.8 停車・駐車のしかた



乗用管理機を草やワラの上に止めて空ぶかしをしたり、高回転にしないでください。

※ 排気管の熱や排気ガスによりワラ等に着火し、火災の原因になるおそれがあります。

! 警告



乗用管理機から離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、パーキングブレーキをかけ、車止めをしてください。

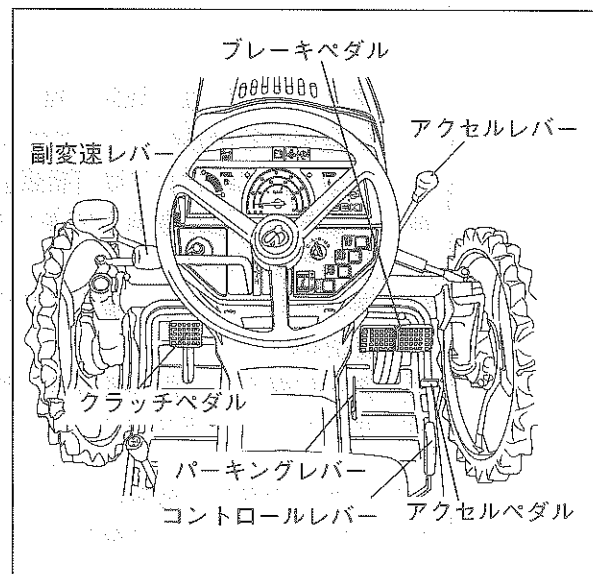
また、駐車するところは広い地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、乗用管理機が自然に動き出すおそれがあります。

駐・停車のときは必ず副変速レバーを「中立」にし、パーキングレバーをかけてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

- 1 アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。
- 2 クラッチペダルを踏み込み、同時にブレーキペダルを踏み込みます。
- 3 乗用管理機が完全に停止してから、副変速レバーを「中立」位置にします。
- 4 ブレーキペダル（連結した状態）をいっぱい踏み込み、パーキングレバーをかけてください。
- 5 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろしてください。



補 足

- S型の走行変速レバーは下記要領にて取り扱ってください。

【機体前進】 副変速レバーを「L,M,H」速のいずれかに入れ、HST前後進レバー（以下HSTレバー）を前側へ操作してください。はじめての方は、「L」速から操作してください。

【機体停止】 ①HSTレバーをゆっくり「中立位置」まで、戻してください。

②「中立位置」で、HSTレバーを前後に微調整して、機体を完全に停止させてください。
尚、中立を合わせやすくする為、ゆっくり丁寧に微調整をお願いします。

【機体後進】 HSTレバーを「中立位置」で左側に倒し、後側へ操作してください。

5.9 トラックへの積み・降ろし

トラックへの積み・降ろしは平坦で広く硬い場所で行ってください。
また、アユミは基準を満たすものを用意してください。

警告



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

● 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めてから行ってください。

● トラックに積み込むときは「後進」、降ろすときは「前進」でゆっくり行ってください。

● アユミは、基準を満たすものを使用し、乗用管理機の重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

● アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

● 万一に備えて、乗用管理機の周りには人を近づけないでください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラックへの積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。
万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。

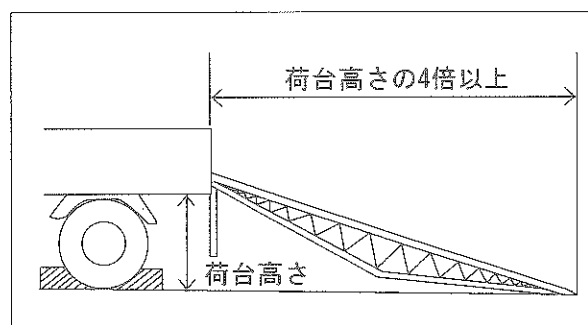
トラック等で運搬するときは、乗用管理機にパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、乗用管理機が移動して転落事故の原因になります。

補 足

● アユミの基準

- ・ 長さ：荷台の高さの4倍以上
- ・ 幅：35cm以上
- ・ 強度：1,000kg以上（1本当り）
- ・ 数量：2本使用
- ・ すべり止めの処理があること。



1 積み込むトラックのエンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、パーキングブレーキをかけ、車止めをします。

2 アルミ板のフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けてください。

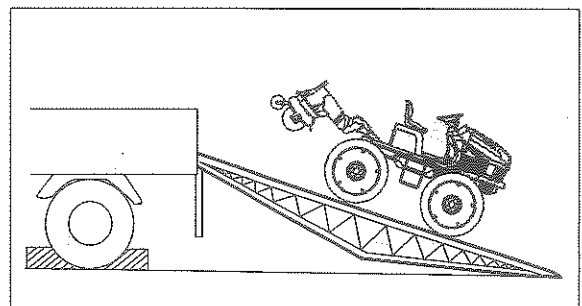
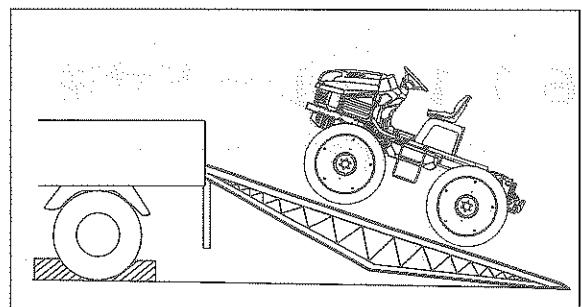
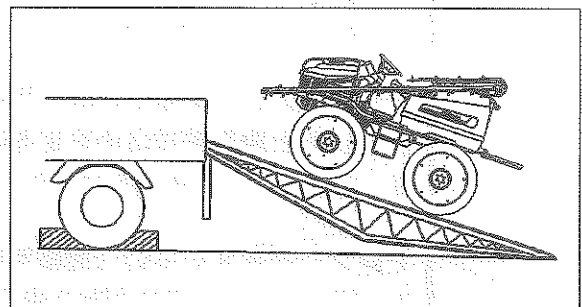
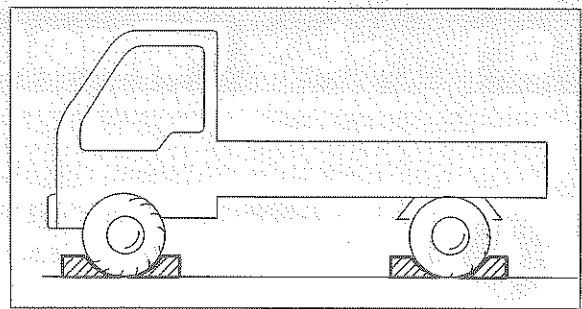
3 乗用管理機の左右のブレーキペダルを「連結」してください。

(1) 本機単体・防除機装着の場合

トラックに積むときは「前進」、降ろすときは「後進」で、ゆっくり行ってください。

(2) ロータリカルチ装着の場合

トラックに積むときは「後進」、降ろすときは「前進」で、ゆっくり行ってください。



6. 作業前に必要な調節

6.1 トレッド調節のしかた（P、HP型を除く）

警告



トレッド調節は、平たんで硬い場所で行ってください。

※ 守らないと、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

作業機が装着されている場合は、作業機を下げる（H型）か、取りはずして行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ジャッキアップするときは、平たんな硬い場所でエンジンを停止し、ジャッキと乗用管理機の安定を確認して行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トレッド調節をしない（前輪または後輪）に車止めをしてください。

※ 守らないと、車体が動き傷害事故を引き起こすおそれがあります。

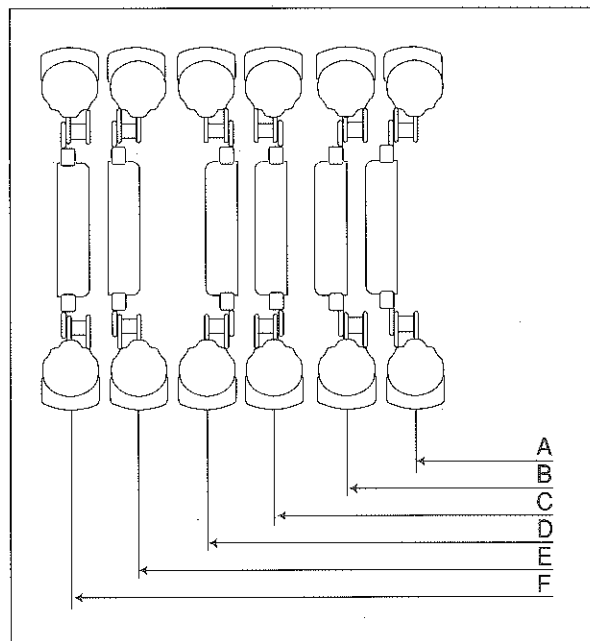
6.1.1 トレッド寸法

トレッドは、下図の寸法に調節できます。

型式	120 N型	120	132
A	1160	1200	1320
B	1200	1260	1380
C	1260	1310	1430
D	1310	1360	1480
E	1320	1370	1490
F	—	1420	1540

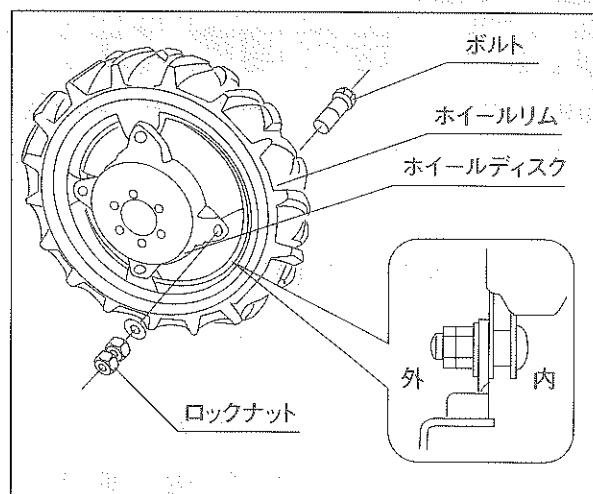
B.D.Fにするときは、左右のタイヤを交換してください。

E.Fにするときは、ホイールディスクを反転してください。



6.1.2 トレッド調節

- 1 調節する側のタイヤをジャッキアップします。
- 2 ホイールリムとホイールディスクを締めつけているナットをボックススパナ（22）でゆるめます。
- 3 4ヶ所のボルトをはずします。
- 4 タイヤを必要とする位置に移動します。
- 5 ボルトを内側から差し込み、ナットをボックススパナで十分締め込みます。
（トレッドA・Bの場合ボルトを外側から差し込むとナットが機械と干渉します。）
- 6 ロックナットでロックします。



補足

- タイヤは側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取りつけてください。
- 各部のボルト、ナットは確実に締めつけてください。
122.5~147N・m (1200~1440kgf・m)
- トレッドは前表F以上のトレッドに調整しないでください。
- スペーサ（60）を取りつける場合は、トレッドは前表Aの組みつけにしてください。

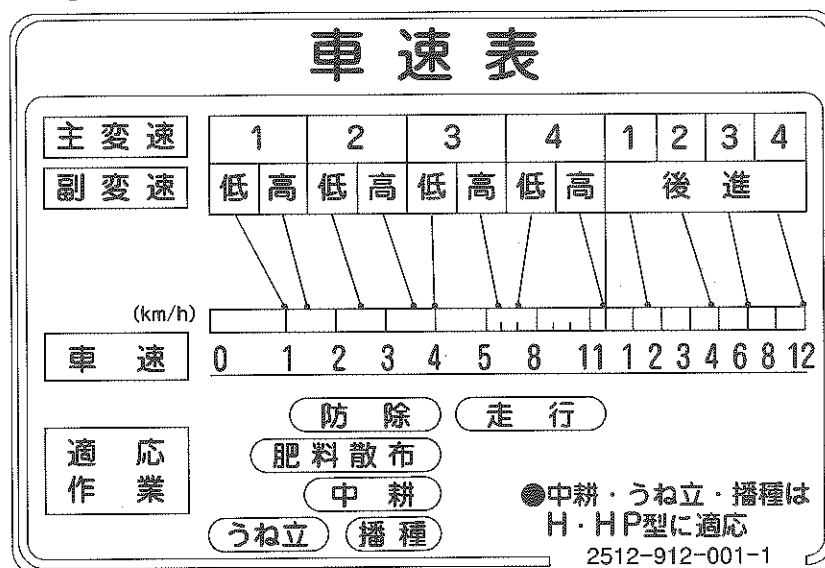
7. 作業のしかた

7.1 作業時の運転

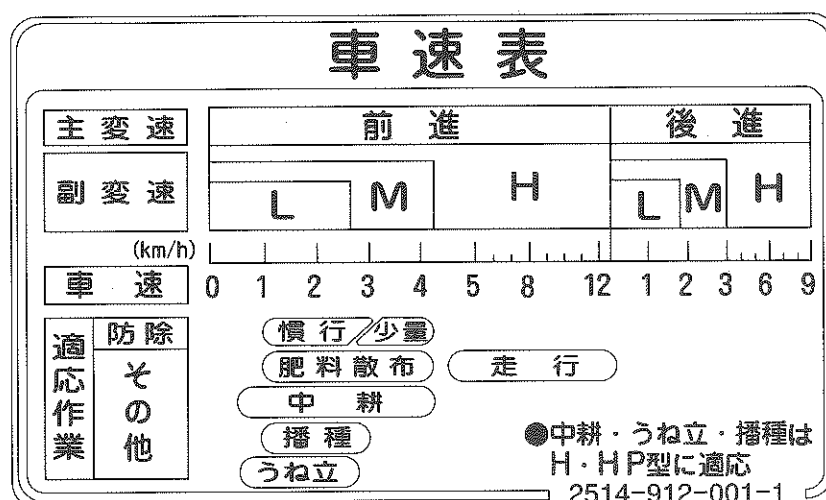
7.1.1 走行速度（エンジン定格回転時）

乗用管理機の走行速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。
最適な速度で作業してください。

(JKB17-D)



(JKB23-S)



7.1.2 ほ場の出入り

警告



必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ざきして、転倒事故を引き起こすことがあります。

道路とほ場の高低差が大きい場合や、あぜの高さが高い場合は、必ずアユミを使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒するおそれがあります。

あぜ等の段差を横断するときは、PTOの回転を停止し、作業機の地上高を低くし、あぜと直角にゆっくりと走行してください。

※ 斜めに走行すると、スリップや転倒の原因となります。

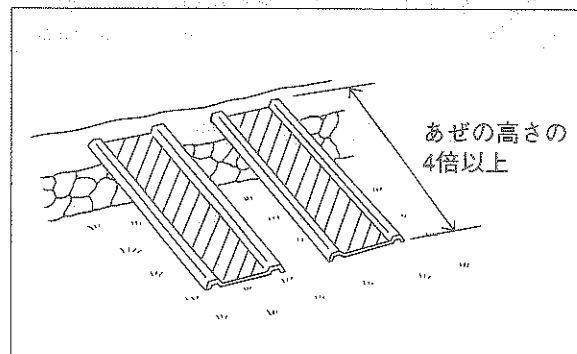
常に前・後輪のバランスを考えながら操作をしてください。

※ バンパウエイト代わりに人が乗ったりすると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 左右のブレーキペダルを「連結」してください。

2 道路とほ場の高低差が大きい場合や、あぜの高さが高い場合は、必ずアユミを使用してください。

3 ゆっくりとした速度で、あぜに直角に前進でのり越えてください。



7.1.3 ほ場での旋回

●4WS旋回

ほ場での旋回は、4WSで旋回すると、ほ場をいためず小さく回れます。

●片ブレーキ旋回

FWS（前輪操舵）で左右ブレーキを連結している連結プレートをはずして片ブレーキを使用すると小さく回れます。

ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込んでください。

・作業速度や、ほ場の傾斜の程度に応じ、ゆったりとした作業をしてください。

・作業内容に応じて片ブレーキ・両ブレーキを使い分けてください。

補 足

- 水田で片ブレーキで旋回すると、ほ場や稲をいためますので、水田では片ブレーキ使用をできるだけ避けてください。
- 4WSで片ブレーキで旋回をすると、FWS片ブレーキになります。

7.1.4 デフロックペダルの使いかた

警告



路上走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故を引き起こします。



デフロックをいれたままで旋回しないでください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故を引き起こします。

デフロックは下記の用途に使用してください。

- (1) ほ場への出入りするときに、片輪がスリップして進まないとき。
- (2) 凸凹ほ場で片輪がスリップするとき。
- (3) 軟弱ほ場で、片輪がスリップし走行不能になったとき。

補 足

- デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。
- デフロックペダルから足を離してもデフロックがはずれない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- 湿田で沈没し脱出できない場合は、牽引するかウィンチで引っ張って脱出してください。

7.2 3アクション4WSの使いかた

警告



作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。



ブレーキペダルの連結金具は、ほ場内のみ解除してください。ほ場の出入りや走行時は、必ず左右のブレーキは連結してください。(乗用管理機メータ内のモニタランプ消灯を確認してください。)

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

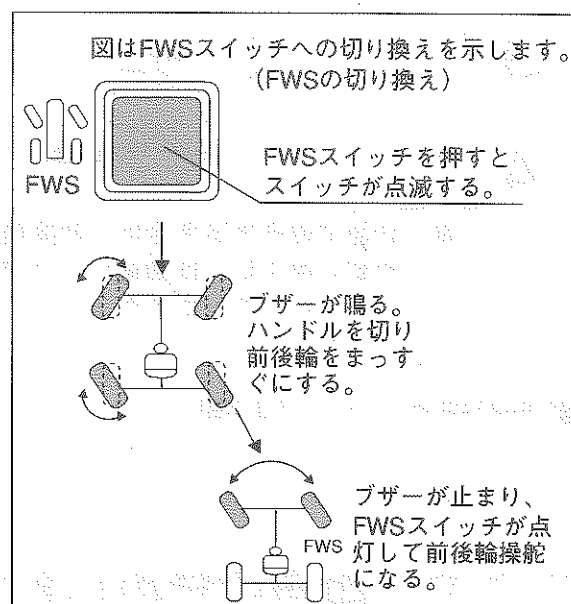
■FWS・4WS・RWSのスイッチ

各操舵法については、操舵切換スイッチの項(26ページ)を参照してください。

7.2.1 操舵切り換えのしかた

■FWS・4WS・RWS

- 1 使用する操舵ボタンを押します。
スイッチランプがつきブザーが鳴ります。
- 2 前後のタイヤがまっすぐになるようにブザーが止まるまでハンドルを回します。
- 3 ブザーが止まり自動に切り換わります。



警告



キースイッチを「入」にしたときに、ブザーが鳴ったら必ず後輪がまっすぐになるようハンドルを回し、FWS(前輪操舵)に切り換えてください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。

補足

- S型は後輪がまっすぐになり、FWSになった(ランプが点滅→点灯になった)後、ラジエータクリーナ(74ページ)の作動開始の警告音が鳴ります。(長い間欠のブザー3回)

■キー SWITCH「入」でブザーが鳴った場合

キー SWITCHを「入」にしたとき、操舵モードが FWS（前輪操舵）になるよう設定されています。

ブザーが鳴った場合は、後輪がまっすぐになるようハンドルを回してください。

ブザーが止まると自動的に FWS（前輪操舵）になります。

■自動スイッチ（H. HP型）

- 1 自動のボタンを押します。
自動スイッチのランプがつきます。
- 2 副変速レバー位置、作業機リンクの上下で操舵が自動的に右表のように切り換わります。
- 3 ブザーが鳴ったときは、前後のタイヤがまっすぐになるようにハンドルを回してください。
- 4 ブザーが止まると自動的に切り換わります。

補足

- 自動で使用する場合は、作業機上下での切り換えは、作業機リンクが一定以上、上げ、下げにならないと切り換わりません。

副変速 レバー	作業機	
	下げ	上げ
低速	FWS	4WS
高速		
中立		
後進	RWS	RWS

■手動優先（H. HP型）

自動スイッチが入っているときに、操舵スイッチを押すと自動が解除されて、手動操舵に切り換わります。

7.2.2 中点設定のしかた

警告



車輪の中点位置を設定して走行してください。

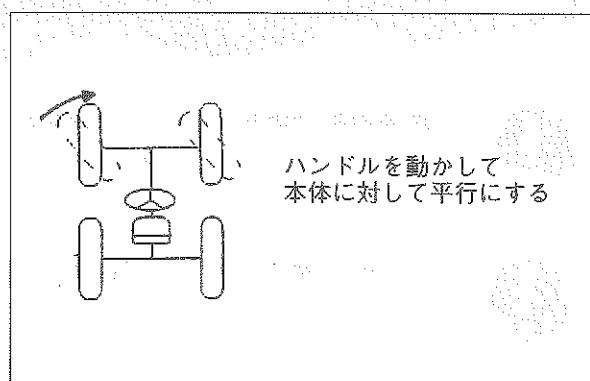
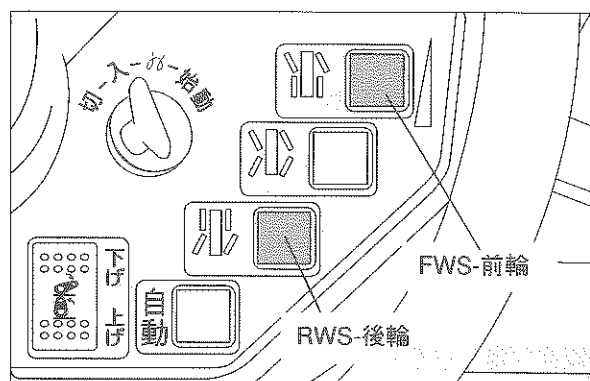
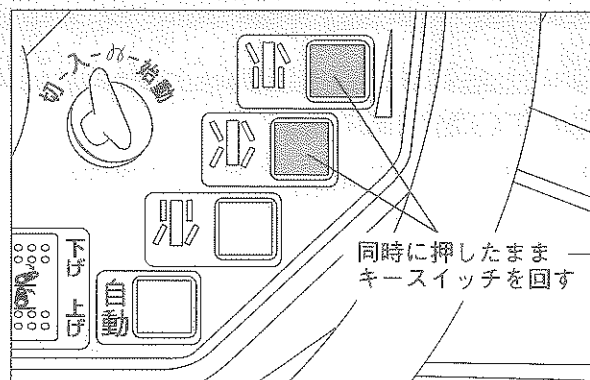
※ 守らないと、衝突・転倒・転落を引き起こすおそれがあります。

中点設定は、前後輪を本体に対して平行にする操作です。

中点設定は、工場出荷時にコントローラに記憶させてありますが、前輪または後輪の中点がずれたときは、再度設定をやり直し、正しい値をコントローラに記憶させる必要があります。

次の手順に従って、平たんな場所で中点の設定を行ってください。

- 1 キースイッチを「切」にする。
- 2 FWS（前輪操舵）と4WSスイッチを同時に押したままキーを「入」にします。
FWSと4WSのランプが点灯します。
- 3 設定する車輪のスイッチを押します。
前輪の場合は、FWSスイッチ
後輪の場合は、RWSスイッチ
自動ランプが点灯します。
- 4 前輪を中点位置（目視でタイヤ直進状態）にハンドルを合せます。（前輪の設定の場合）
- 5 前輪が中点位置の状態で自動スイッチ（P型では中点設定スイッチ）を1秒以上押します。
ブザーが1回鳴り、自動ランプが消灯し前輪の中点が設定されます。
- 6 後輪の場合は、手順の3番目でRWSスイッチを押します。
自動ランプが点灯します。
- 7 後輪を中点位置（目視でタイヤ直進状態）にハンドルで合せます。
- 8 後輪を中点位置の状態で自動スイッチ（P型では中点設定スイッチ）を1秒押します。
- 9 ブザーが1回鳴り、自動ランプが消灯し、後輪の中点が設定されます。



7.3 PTOの使いかた

■PTO軸回転速度

乗用管理機のPTO軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で作業をしてください。

	変 速 レバー	rpm (回転数/分)		
		JKB23-S		JKB17-D
		T型除く	T型	
PTO出力 回転数	低	589	815	595
	高	816	1130	825

■変速レバー

⚠ 注意



低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用しないでください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。



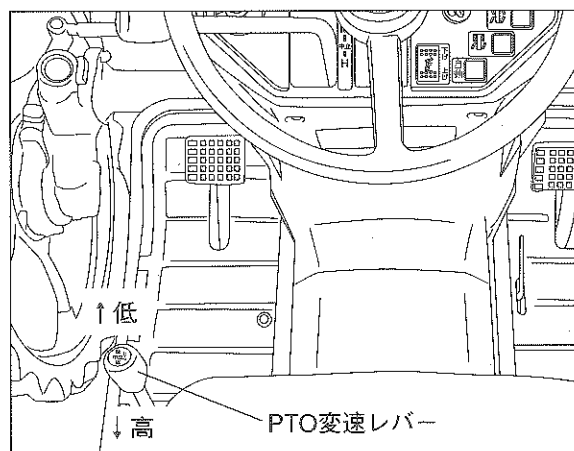
作業機に指定されたPTO軸回転速度を遵守してください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

PTO軸(動力取出軸)の回転速度は、レバー操作により、2段階に変速できます。

補 足

- PTO変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸の回転が完全に停止してから行ってください。
入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。



7.4 油圧装置 (H、HP型)

警告



- (1) 移動するとき
 - (2) 作業機の爪の交換・草・ワラの除去
 - (3) 作業機の点検・整備の場合
- 必ず油圧降下速度調節レバーを「ロック」にしてください。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

油圧装置は、作業機の昇降をするためのものです。

7.4.1 作業機の昇降のしかた

コントロールレバーの項 (P.32ページ) を参照してください。

7.4.2 作業機の降り速度の調節

油圧降下速度調節レバーの項 (P.32ページ) を参照してください。

7.5 作業機

7.5.1 作業機の取り付け・取りはずし

作業機の取り付け・取りはずしは、作業機の取扱説明書に従い、行ってください。

警告



- 作業機の取り付け・取りはずしは、平たんな場所で行ってください。
- ※ 守らないと、機械が急に動いたり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ユニバーサルジョイントの脱着を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

警告



作業機の取り付け・取りはずしは、乗用管理機と作業機の間に立たないでください。

※ 乗用管理機と作業機の間に立つと、間に挟まれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



作業機をはずした状態でPTO軸を回転させないでください。

また、PTO軸を使わない場合は、PTO軸キャップを取りつけてください。(JKB17-Dのみ)

※ 守らないと、手や衣服が軸に巻きこまれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。

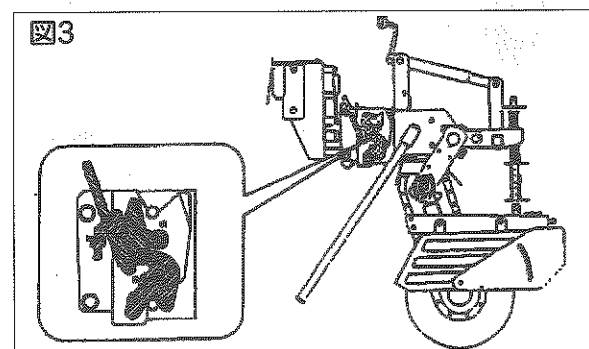
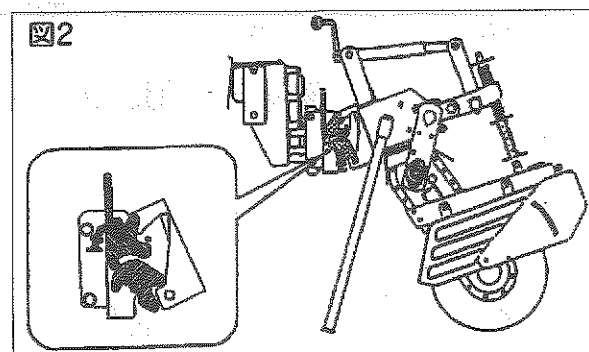
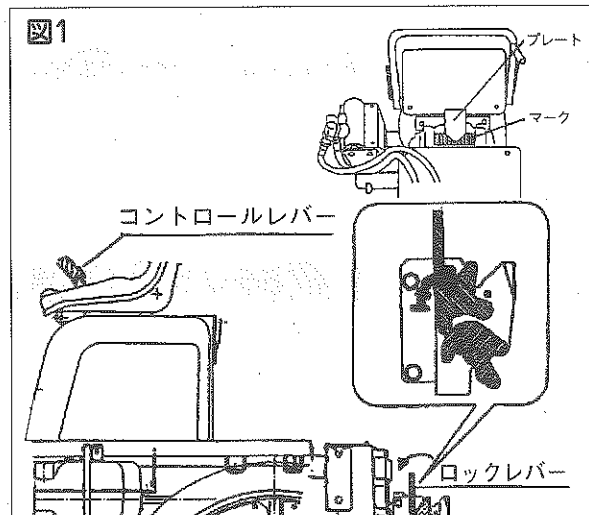
※ 守らないと、転倒したり、転落するおそれがあります。

■作業機の取り付け

- 1 ヒッチ部を乗用管理機と平行にします。
リンク部プレートとヒッチ部マーク中心が一致したときが平行です。(図1)
- 2 コントロールレバーを下げる方向にして、作業機リンクを下限まで下げます。
- 3 ヒッチ部のロックレバーを矢印方向に倒したときに、ヒッチ部が図1のようになっていることを確認してください。
- 4 乗用管理機をバックさせ、作業機側のピンをリンクヒッチの溝に合わせます。(図2)
- 5 コントロールレバーをゆっくり上げ方向に動かし、作業機リンクを上げます。(図3)
- 6 作業機を上げたときに、ヒッチ部が確実にロックされていることを確認してください。

補足

- 乗用管理機をバックさせるときは、作業機に対してまっすぐバックしてください。
斜めになっていると入りにくい場合があります。



■作業機を取りはずし

- 1 ヒッチ部を乗用管理機と平行にします。
リンク部プレートとヒッチ部マーク中心が一致したときが平行です。
- 2 作業機にスタンドを取りつけます。
- 3 リンクヒッチ部のロックレバーを、ロックフックで手前に引きながら矢印（解除）の方に倒します。（図2）
- 4 作業機を下げ接地させます。
- 5 コントロールレバーを下げたままで、乗用管理機をゆっくり前進すると、作業機がはずれます。（図3）

図1

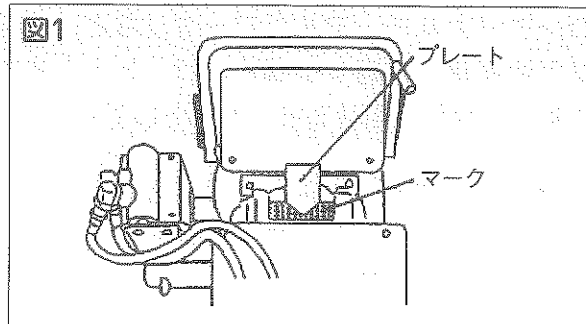


図2

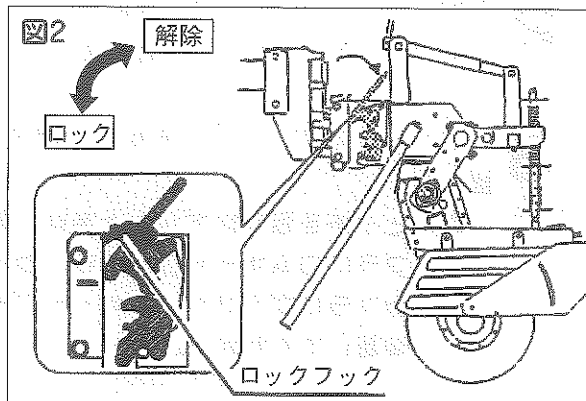
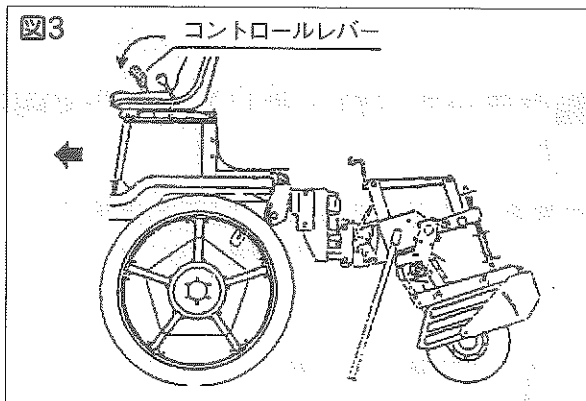
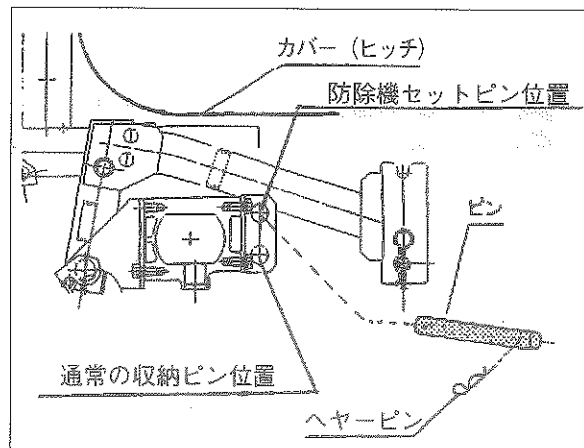


図3



■防除機セット時のロワーリンク固定

- (1) 防除作業機はロワーリンク落下防止のために、本機側付属品ピンのロワーリンクを固定してください。
- (2) H、HP型は、カバー（ヒッチ）をはずして防除タンクを装着してください。



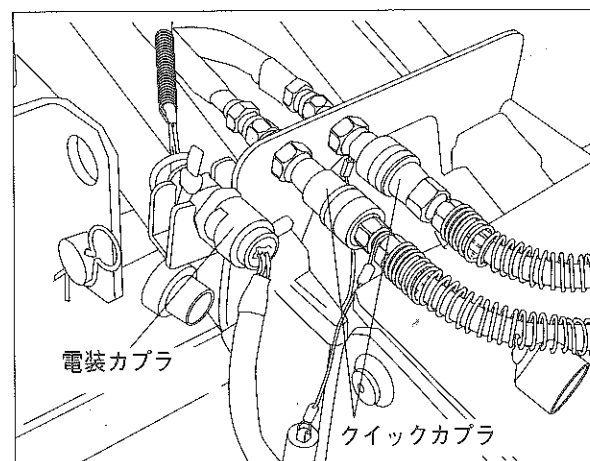
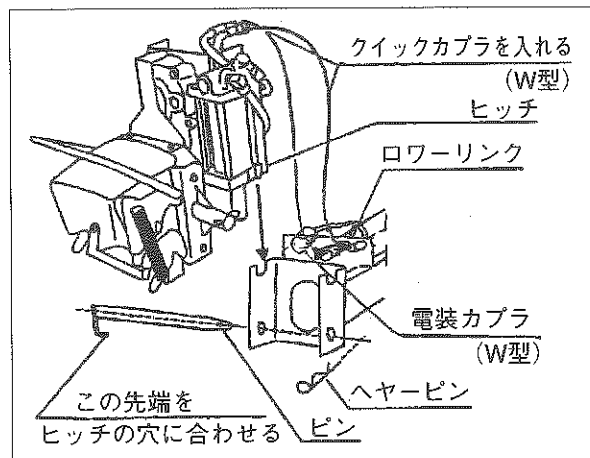
■ヒッチの装着 (H. HP型)

ロータリカルチ、マルチロータリなどの作業機を乗用管理機に装着する場合には、ヒッチを本機に装着してから乗用管理機にセットしてください。

- 1 ヒッチをロワーリンクにかけ、ピンでヒッチとロワーリンクを固定し、ヘヤーピンでピンを止めます。
- 2 W型はクイックカブラを2ヶ所および、電装カブラを1ヶ所取りつけます。
- 3 ユニバーサルジョイントを取りつけます。

補足

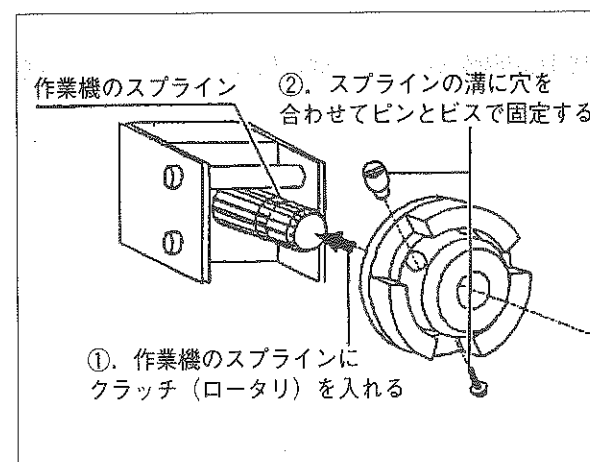
- ヒッチを取りはずしたときは、電装カブラにゴムキャップおよび、クイックカブラにプラスチックキャップを必ず装着してください。



■クラッチ (ロータリ) セットの組みつけ

作業機を装着する前に、以下の手順でクラッチ (ロータリ) セットを作業機に取り付ける必要があります。

- 1 作業機の入力軸にクラッチ (ロータリ) を差し込みます。
- 2 入力軸の溝と穴の位置を合わせ、ピンとビスで固定します。



7.6 バンパウェイト

7.6.1 取り付け

警告



バンパウェイトは純正品を使用してください。

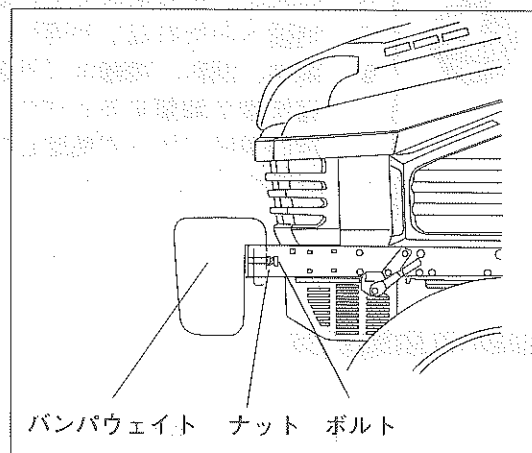
※ 守らないと、バンパウェイトが確実に固定されず脱落します。



バンパウェイトを装着しても前輪荷重が20%以下になる作業機は装着しないでください。

※ 守らないと、前輪が浮き上がったり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

バンパウェイトは、バンパに取り付け後
ボルトにてガタを止めた後、ナットにて
ゆるみ止めを行ってください。



8. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

警告



給油および点検整備をするときは、

- (1) 乗用管理機を平たんな広い場所に置き、
- (2) エンジンを停止し、
- (3) パーキングブレーキをかけ、
- (4) 油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、
- (5) キーを抜き、
- (6) エンジン各部が十分冷えてから、状態を確認して行ってください。

※ 状態を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄するときは、お買い上げ先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■新車初期点検

アワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備は乗用管理機の耐久性にとって大事な項目ですのでお買い上げ先での点検、整備をおすすめします。

補 足

- 点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含んでいます。交換が必要な部品は「キセキ純正部品」を注文してください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「お買い上げ先」へ問い合わせください。

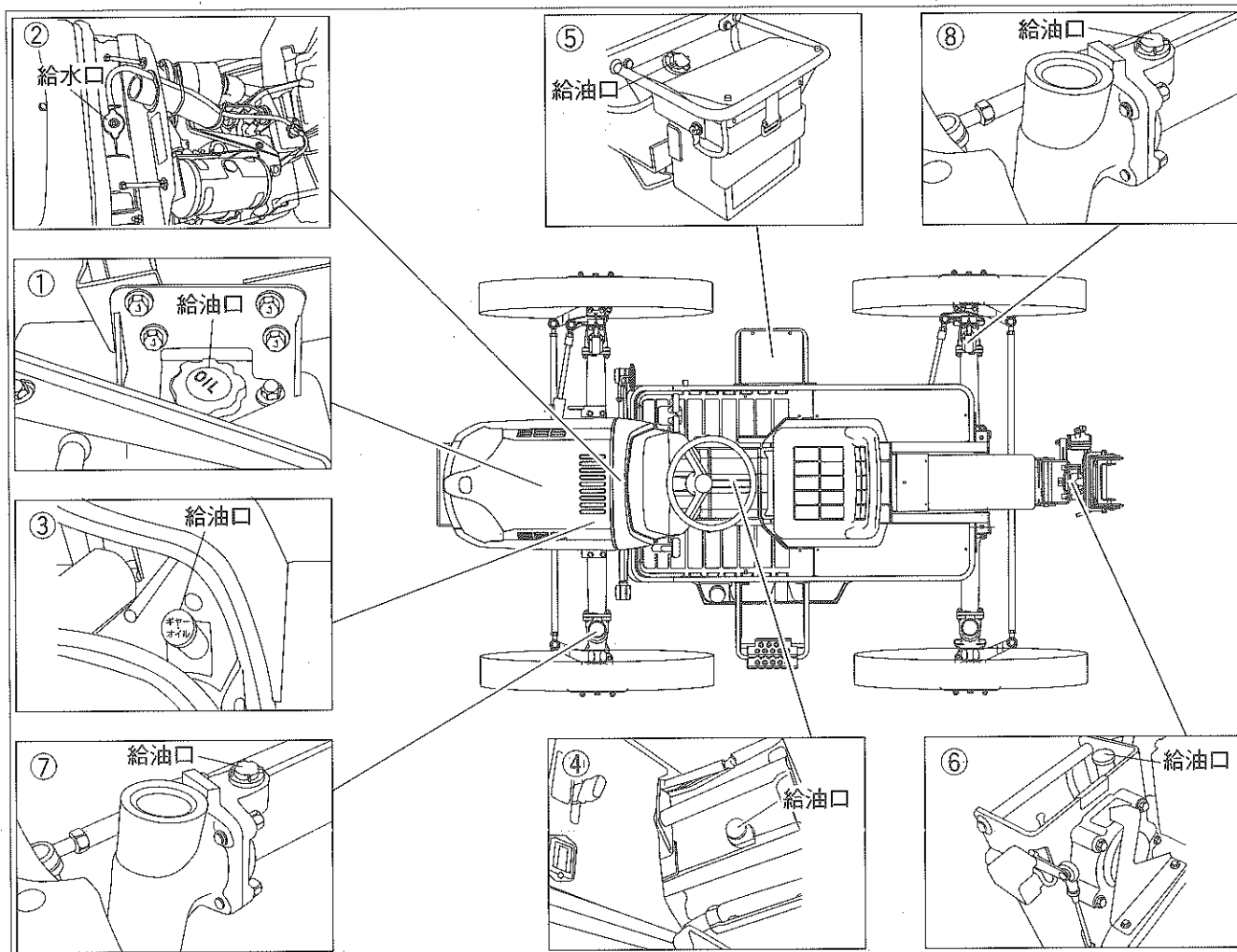
8.1 定期点検・整備箇所一覧表

○：点検、補充、調整 ●：交換 △：清掃、洗浄

区分	項 目	運行前 点検	定期点検・整備時間 アワーメーター表示時間					備 考	参 照 ページ
			25	50	100	200	300		
エンジン	エンジンオイル	○		●	●			最初の50時間で交換	70
	エンジンオイルフィルタ			●		●		最初の50時間で交換	70
	エアクリーナ	○			△		●		71
	燃料フィルタ・燃料ホース	○			○		●	100時間毎点検 300時間毎エレメント交換	75
	冷却水	○						1年に1回交換	72
	ラジエータ	○							73
	ラジエータクリーナ	○						1年に1回交換	74
	ファンベルト	○		○				初期50時間使用後 必ず調整を行ってください	76
本 機	バッテリー液面	○							85
	油圧オイルフィルタ			●			●	最初の50時間で交換	78
	HSTオイル（S型）	○		●			●	最初の50時間で交換	—
	油圧タンクオイルフィルタ（S型）			●			●	最初の50時間で交換	78
	リヤミッションオイル			●	●			最初の50時間で交換	79
	フロントミッションオイル			●	●			最初の50時間で交換	79
	フロントアクスルオイル			●	●			最初の50時間で交換	80
	リアアクスルオイル			●	●			最初の50時間で交換	80
	各部グリース注入	○		●				50時間毎	69
	各部ボルト・ナットの緩み ピンナットの緩み	○							—
	クラッチペダルの遊び	○							81
	ブレーキペダルの遊び ききぐあい	○							81
	空気圧（H型、B4型）	○							82
	パワーステアリング用 ゴムホース	○						2年に1回交換	—
	車速計ベルト	○					●	1年に1回点検	82
	電気配線の点検	○						1年に1回点検	84

8.2 給油・給水一覧表

8.2.1 オイル給油・給水



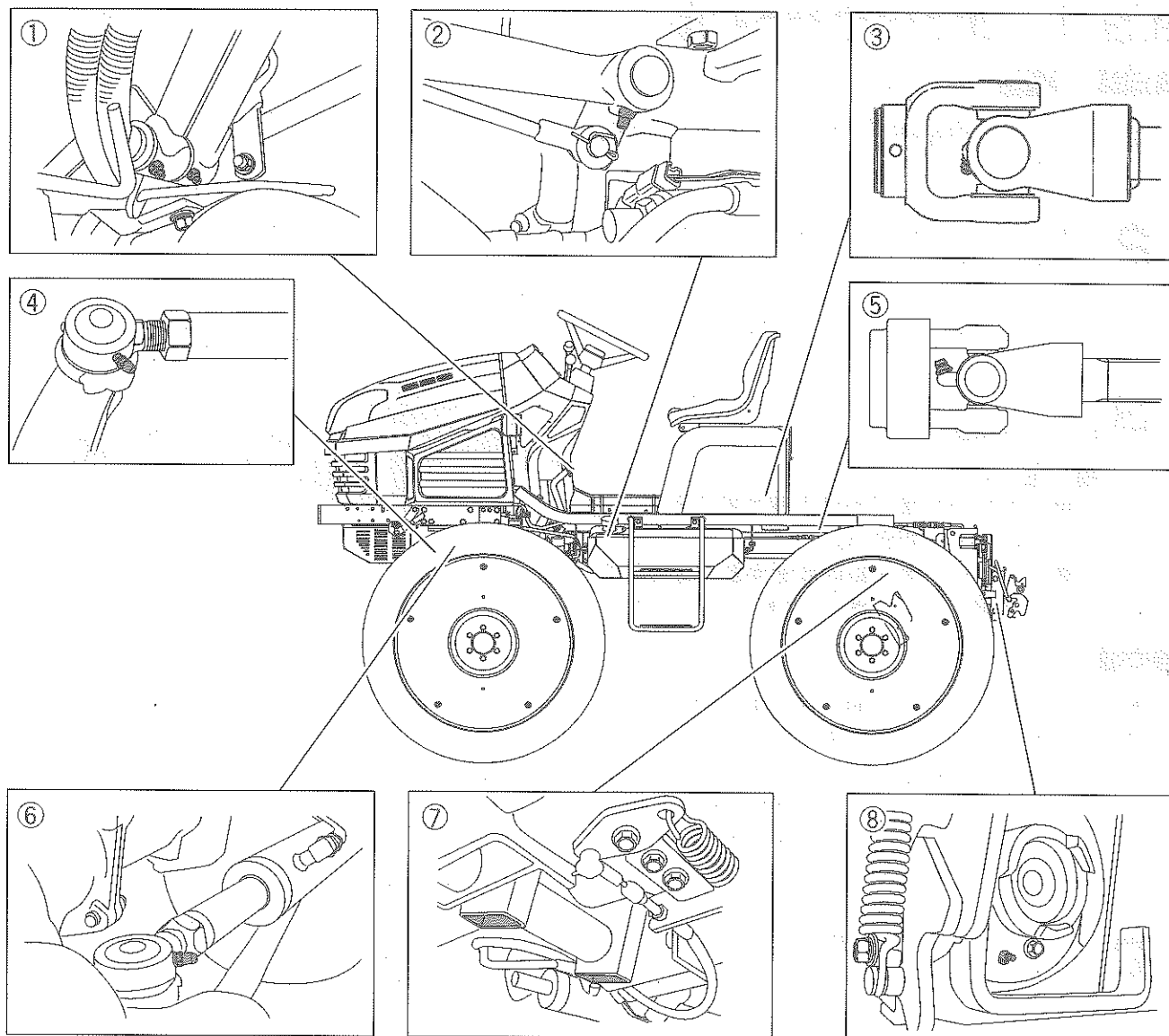
(リットル)

給油・給水箇所番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
給油・給水箇所	エンジン	ラジエータ	フロントミッション	リアミッション	HSTタンク	カウンタヒッチ	フロントアクスル	リアアクスル
JKB17-DH2N	2.7	5.0	0.9	7.0		0.3	5.3	5.3
JKB17-DH3							5.3	5.3
JKB17-DHP2							5.0	5.0
JKB17-DHP5							5.8	5.8
JKB17-DP5							5.8	5.8
JKB23-SH2				2.4	7.0	0.3	5.0	5.0
JKB23-SHP2							5.0	5.0
JKB23-SHP5							5.8	5.8
JKB23-SP3							5.3	5.3
JKB23-SP5							5.8	5.8

HSTタンクについてはパワーステアリング・作業機昇降油圧タンクも兼用です。

注意：油種については12.1推奨潤滑油（P.97ページ）を参照してください。

8.2.2 グリース給油



番号	グリース注入箇所
①	ブレーキペダルボス
②	クラッチペダルボス
③	ユニバーサルジョイント（ミッション出力）
④	タイロッド両端（4箇所）
⑤	ユニバーサルジョイント（PTO出力）
⑥	パワステシリンダロッド両端（4箇所）
⑦	ローワーリンク支点ボス（H、HP型）
⑧	ヒッチ回転部（H、HP型）

補足

- 12.1推奨潤滑油（P.97ページ）を参照してください。

8.3 エンジン関係の点検・清掃・調整

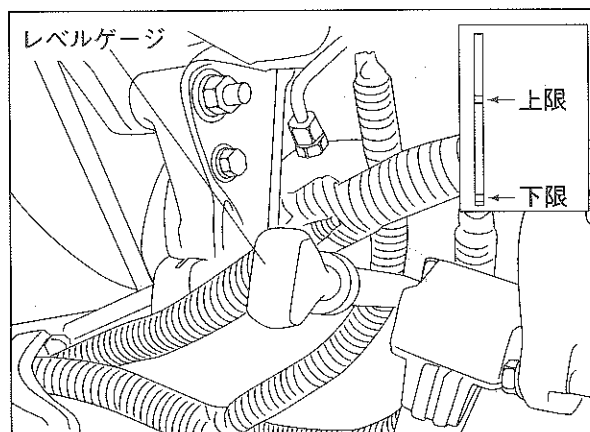
8.3.1 エンジンオイル

■点検・補給

- 1 レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき取り、改めて差し込みます。
- 2 再度抜いて、「上限」と「下限」の間にオイルレベルがあるかどうかを確認します。レベルゲージが「上限」と「下限」の間であれば正常です。
- 3 レベルゲージが「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

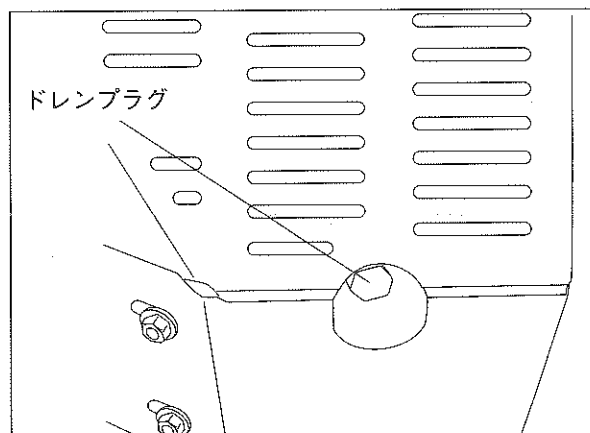
補足

- エンジンオイルは上限を超えないようにしてください。
- エンジンオイルは必ず純正オイルを使用してください。(P.97ページ)



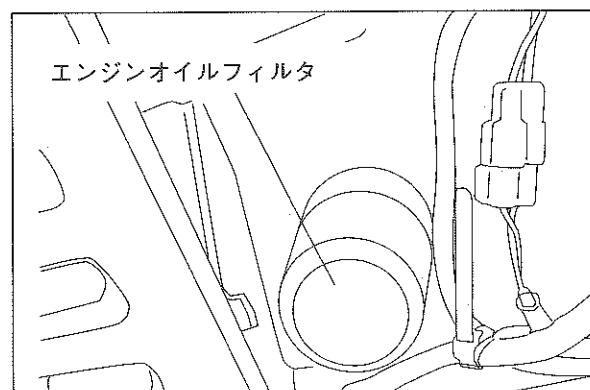
■交換

- 1 ブームスプレーやVBS600装着時はボンネットをフルオープン出来る位置までブームリンクを下げてください。
※VBS600ブームリンクは本機油圧を利用しているため、エンジンを始動していないと上下できません。
- 2 ドレンプラグ（左右2箇所）をはずして容器にオイルを排出します。
- 3 ドレンプラグを締めて給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。(P.68ページ)



■エンジンオイルフィルタの交換

- 1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取りはずしてください。
- 2 新しいフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実にねじ込みます。
- 3 シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締めてください。
- 4 給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。(P.68ページ)



5 エンジンを約5分間運転し、エンジンオイル圧力表示に異常表示がないことを確認してください。(P.25ページ)

6 エンジンを停止した後、レベルゲージでオイルレベルを確認し、不足していれば給油口からエンジンオイルを「上限」まで補給してください。

8.3.2 エアクリーナの清掃

注意



清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。

※ エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

■バキューエータバルブの清掃

- 1** ボンネットカバーを開けます。
- 2** バキューエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落としてください。水分があるときはエアクリーナ内部を布などでふき取ってください。

■エレメントの清掃

- 1** クリップをはずし、エレメントを取り出します。
- 2** エレメントの清掃は次の要領で行ってください。
 - (1) 乾いたほこりがついている場合
エレメントの内側から空気を吹付けるか、または手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
 - (2) 湿ったほこり、油分などで汚れている場合
家庭用中性洗剤を水でうすめ、エレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

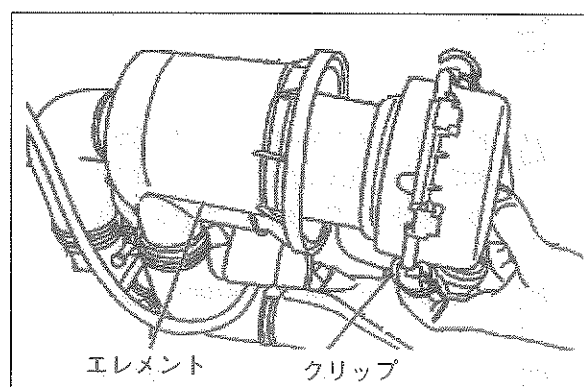
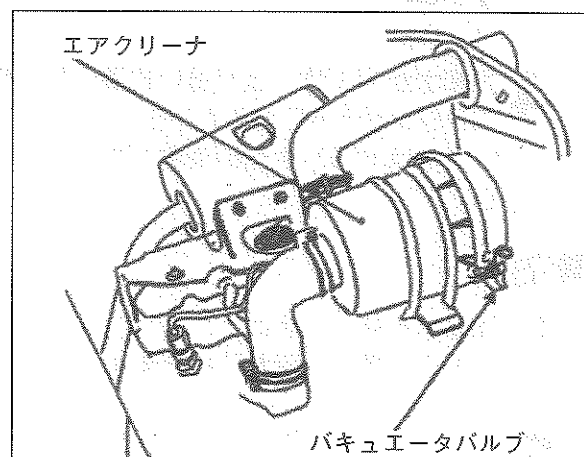
- 3** エレメント清掃後、確実に組みつけてください。

補足

- エアクリーナ各部の締め付けは、確実に
に行いゴミを吸い込まないようにして
ください。

■エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。



8.3.3 冷却水

警告

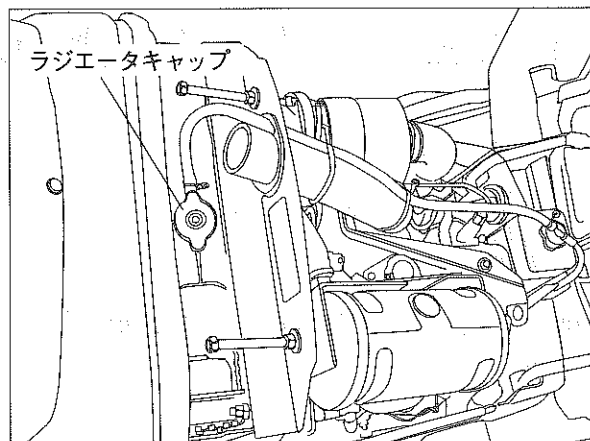


ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから注意して開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

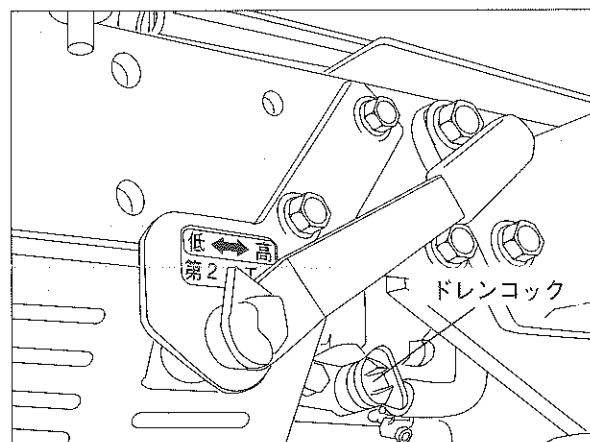
■点検・補給

- 1 ボンネットを開きます。
- 2 リザーブタンク内の冷却水が上限「FULL」と下限「LOW」の間にあることを確認します。
(P 38ページ)
- 3 少ない場合はリザーブタンク上限「FULL」まで補給します。
- 4 冷却水が「LOW」より低い位置にある場合はエンジンが十分に冷えてから、ラジエータキャップをはずし、本体の液量も確認してください。



■交換

- 1 冷却水を抜くときは、エンジン左側のドレンコックを開けて容器に抜きます。
- 2 リザーブタンクの排水は、リザーブタンクをはずして行います。
- 3 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。
- 4 ドレンコックを閉じて、冷却水をラジエータ内にいっぱい入れ、リザーブタンクには給水口より上限「FULL」まで入れます。
- 5 ラジエータキャップを確実に締めます。
- 6 エンジンを始動し、約5分間中速回転(約1500rpm)で運転した後、エンジンを停止してください。
- 7 エンジン停止後、十分に冷却水が冷えた後、ラジエータキャップをはずします。



- 8 ラジエータ内の冷却水を確認します。不足している場合は、リザーブタンクの給水口より上限「FULL」まで補給します。

補足

- 冷却水は上限「FULL」以上は絶対入れないでください。ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水が漏れる原因となります。

8.3.4 ラジエータホースの点検

ラジエータホースは200時間ごとに、ひび・亀裂・燃料漏れがないか点検してください。異常がある場合は交換してください。異常がなくても、2年に1回は交換してください。

8.3.5 不凍液の使いかた

■不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

- (1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
- (2) 不凍液の混合比は、不凍液メーカーや気温により異なります。不凍液メーカーの説明書に従ってください。
- (3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
- (4) 不凍液の補給
 - (a) 蒸発の場合……………冷却水が減った分だけ清水を補給してください。
 - (b) フリーザより漏れた場合……………同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

8.3.6 ラジエータの清掃

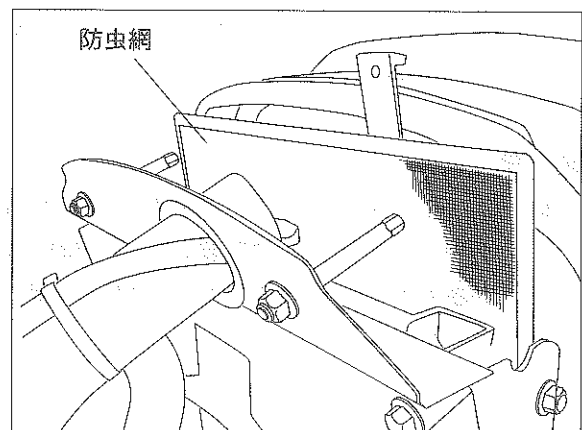
⚠ 警告



ラジエータの清掃をするときは、必ずエンジンを停止し、キースイッチを抜き取ってください。
※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故を起こすおそれがあります。

■防虫網（ネット）の清掃

- 噴霧作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫等が付着して詰まることがあります。
ボンネットを開け、防虫網を引き出して清掃してください。
- 防虫網の取り付けは確実にU型のガイドレールの内側に入れてください。



■ラジエータコアの清掃

フィンの中に入ったゴミは水道水か、エア吹きして掃除してください。

補 足

- ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートすることがあります。オイルの消費量が増加します。
- 強い圧力水を直接ラジエータにかけると、フィンが変形することがあります。十分注意してください。
- エンジン回りの電気配線・電装品には直接水をかけないでください。

■ラジエータクリーナ（S型）

- S型はラジエータの防虫網を自動的に清掃する、ラジエータクリーナを装備しています。
- 作動中はラジエータ後のスポンジブラシが左右に動き防虫網に付いたゴミを除去します。
- キースイッチを「入」にした後に60秒間作動し、自動的に止まります。

(1) FWSランプが点滅した場合、後輪をまっすぐにし、操舵切替ランプの点滅が点灯に切替わった後に作動します。

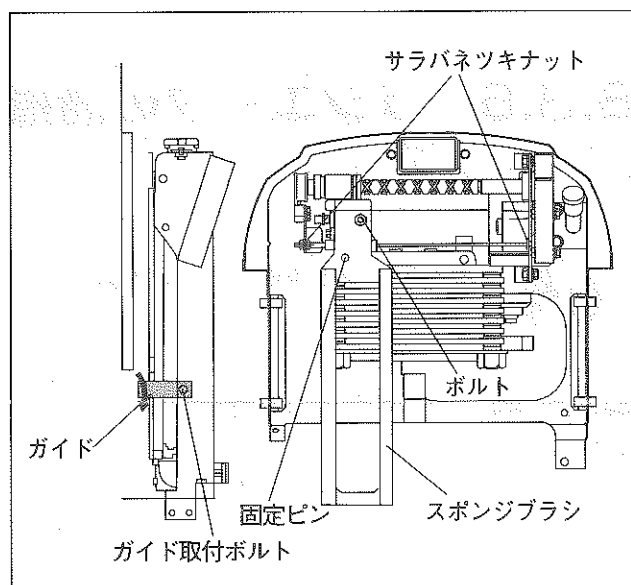
(2) 点滅なかった場合、そのまま作動します。

- 作動開始時は警告音（長い間欠のブザー3回）が鳴ります。

- キースイッチを「入」にした後、すぐにエンジンを始動しても作動は変わりません。

■スポンジブラシの交換

- (1) スポンジブラシを固定しているボルトをはずします。
- (2) スポンジブラシを固定ピンからはずし、引き抜きます。
- (3) 新しいスポンジブラシをガイドの内側に入れます。
- (4) 下側の穴に固定ピンをさします。
- (5) スポンジが均等に防虫網にあたっていればボルトを締め、均等でない場合はガイド取付ボルトとサラバネツキナットで押しつけが均等になるように調整します。



補 足

- ラジエータクリーナは作動時にゴミを除去しますが、大きいゴミや固着したゴミは詰まる場合があるので、このようなときは防虫網を清掃してください。

8.3.7 燃料



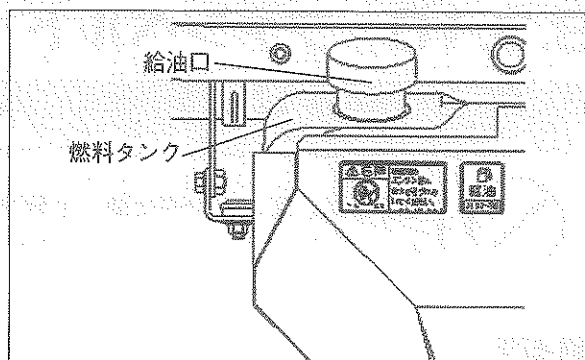
燃料を補給するときは、くわえたばこ等の火気厳禁です。

※ 守らなかった場合、火災の原因になります。

燃料はディーゼル軽油（JIS2-3号）を使用してください。

補足

- 燃料タンク内に、水、ゴミ等が入らないよう給油時は、こし網を取らないでください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。



8.3.8 燃料フィルタの清掃・交換

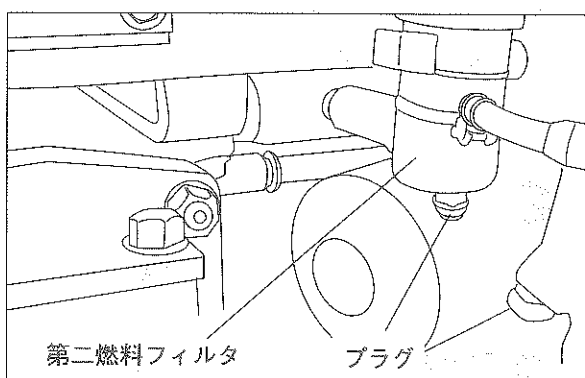
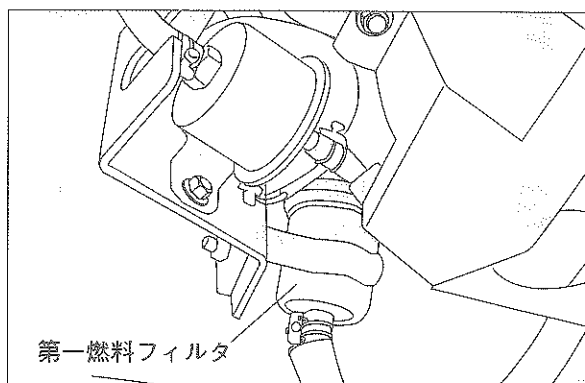
燃料フィルタは第一、第二の2つの燃料フィルタがあります。

1 燃料に含まれる水、ゴミは使用しているとフィルタ内に沈澱します。日常点検では、まず沈澱しているかどうか点検してください。

2 フィルタはエレメントの洗浄ができません。300時間ごと、また汚れのひどいときは交換してください。

3 第二燃料フィルタに水ゴミが沈澱している場合は、プラグをはずし排水してください。

4 ホースの締めつけは、燃料もれのないように十分注意してください。



8.3.9 燃料ホースの点検

燃料ホースは100時間ごとに、点検してください。
ひび・亀裂・燃料漏れがある場合は交換してください。

8.3.10 ファンベルト

⚠ 警告

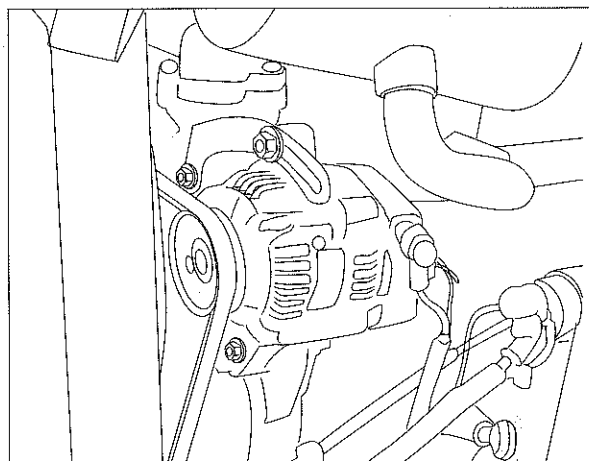


マフラは、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。

※ 守らないと、やけどすることがあります。

■点検

- 1 ベルトの中央部を100N(10kgf) で押さえて14~15mm程度たわむか確認してください。
- 2 ベルトの張りがゆるい場合は、調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



■調整

- 1 オルタネータを取りつけているナットとボルトをゆるめます。
- 2 オルタネータを動かし、ベルト中央部を100N(10kgf) で押さえて、ベルトの張りが14~15mmたわむ程度に調整します。
- 3 調整後はナットとボルトを確実に締めつけてください。

補 足

- 新品のファンベルトは組みつけ直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。
交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。
この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

8.3.11 オイルクーラ

警告



オイルクーラの清掃をするときは、必ずエンジンを停止し、キースイッチを抜き取ってください。

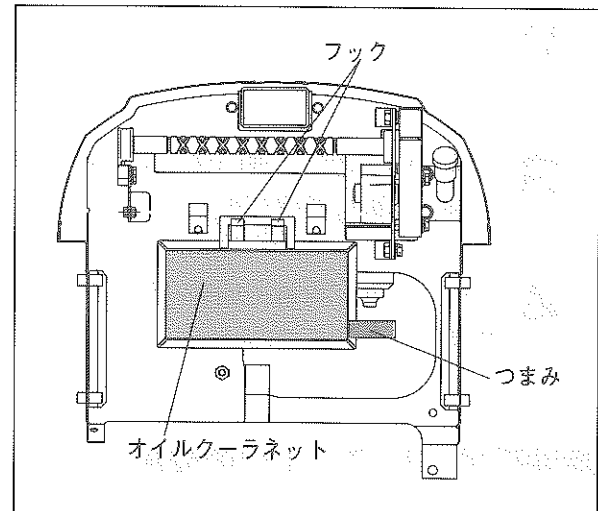
※ 守らないと、エンジン、ラジエタクリーナなどの回転部に巻き込まれる等傷害事故を起こすおそれがあります。

点検

- 1 オイルクーラはボンネットを開けてラジエタの後方にあります。
- 2 つまみを上方向に引き上げてフックからはずし本機左方向に引き抜いてください。
- 3 ネットにゴミ等が付着していれば取り除いてください。
- 4 取りつけは逆の手順でフックにかけてください。

補足

- ゴミを取り除くときに、オイルクーラを強くたたかないでください。変形や破損のおそれがあります。
- オイルクーラに目詰まりを起こすと故障の要因になります。



8.3.12 油圧オイルの点検・交換

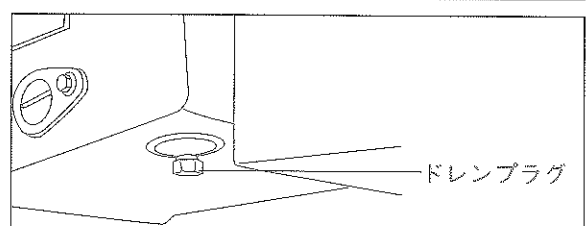
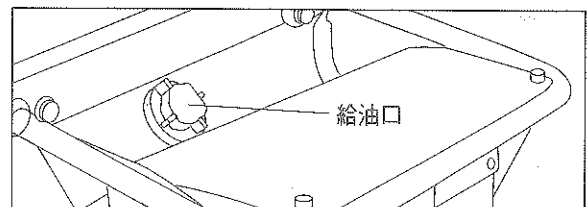
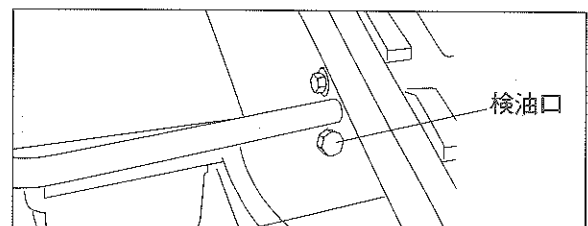
オイルの交換は、79ページのリヤミッションオイルの点検、交換（D型）を参照してください。

補足

- D型はミッションオイルが油圧オイルをかねています。

油圧タンクオイルの交換。(S型)

- 1 検油口のレベルにあるか点検します。
- 2 交換する場合は、ドレンプラグをはずして容器にオイルを排出します。
- 3 ドレンプラグを締め注油口よりオイルを入れて、検油口よりオイルが出てくるまでいれます。
- 4 注油口、検油口を確実に締めて、オイルの付着があれば拭き取ってください。

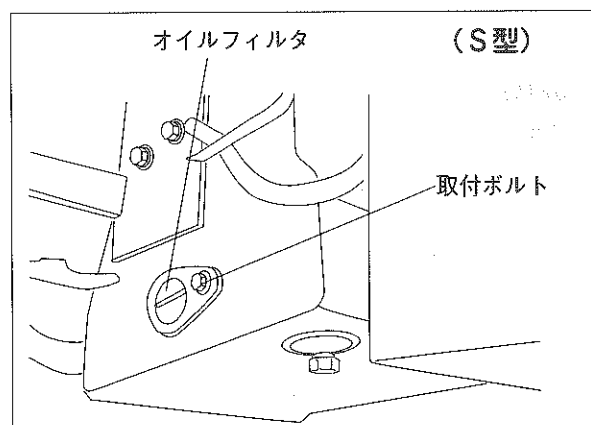


8.3.13 オイルフィルタの清掃・交換

■油圧タンクオイルフィルタの清掃・交換(S型)

HST、パワステ、作業機昇降の油圧兼用です。

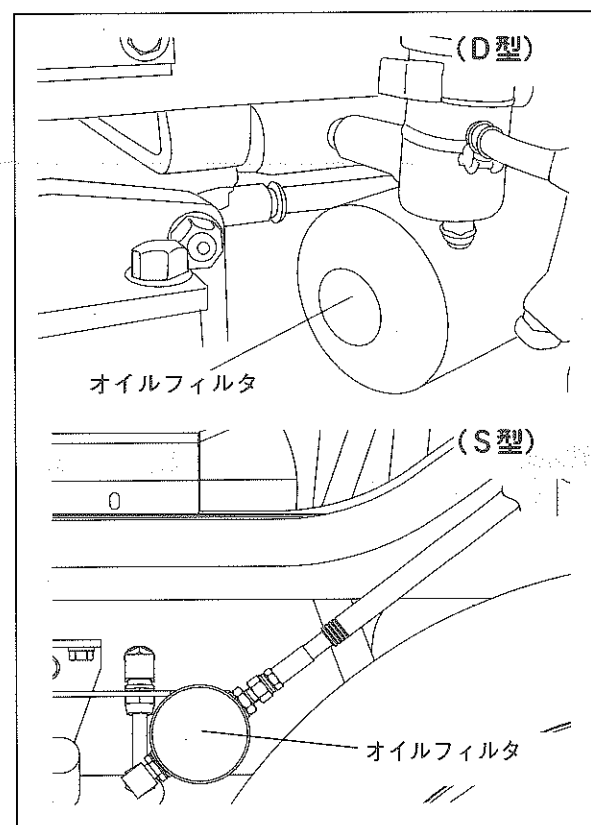
- 1 ドレンプラグをはずして容器にオイルを抜きます。
- 2 フィルタの取付ボルトをゆるめ、引き出します。
- 3 清掃するときは、洗い油でよく洗いゴミを取り除いて取りつけます。
- 4 ドレンプラグを締め給油口からオイルを規定量まで入れてください。



■油圧オイルフィルタの交換

- D型：パワステ、作業機昇降の油圧兼用です。
- S型：HST回路用の油圧フィルタです。

- 1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取りはずしてください。
- 2 新しいフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実にねじ込みます。
- 3 シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締めてください。
- 4 給油口からオイルを規定量まで足してください。



8.3.14 リヤミッションオイルの点検・交換

注意



D型とS型の検油口は異なります。

※ 検油口は型式にあった位置を確認して行ってください。

■点検

- 1 オイルレベルが検油口のレベルにあるかを確認します。
- 2 検油口からオイルが出て来ない場合は、補給が必要です。

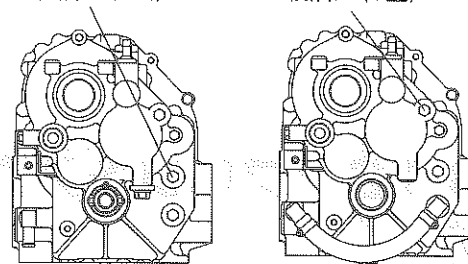
■交換

- 1 ドレンプラグをはずし、容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを締めギヤオイルを給油口から注入し検油口からオイルが出てくるまで入れます。
- 3 給油口、検油口は確実に締め、あふれたオイルを拭き取ってください。

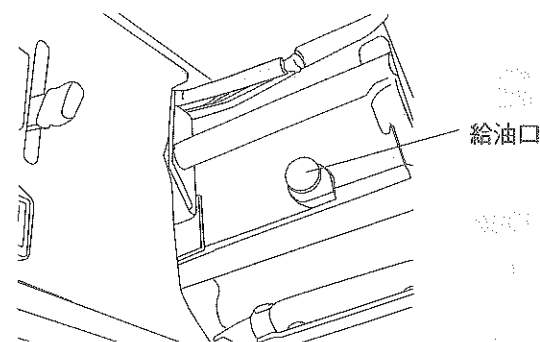
機体下部、後方より見た図

検油口 (S型)

検油口 (D型)



ドレンプラグ



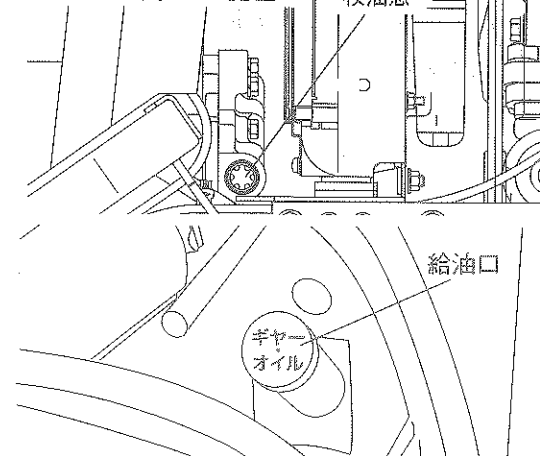
8.3.15 フロントミッションオイル

■点検

- 1 オイルレベルが検油窓のレベルにあるかを確認します。
- 2 検油窓までオイルが達していないときは、補給が必要です。

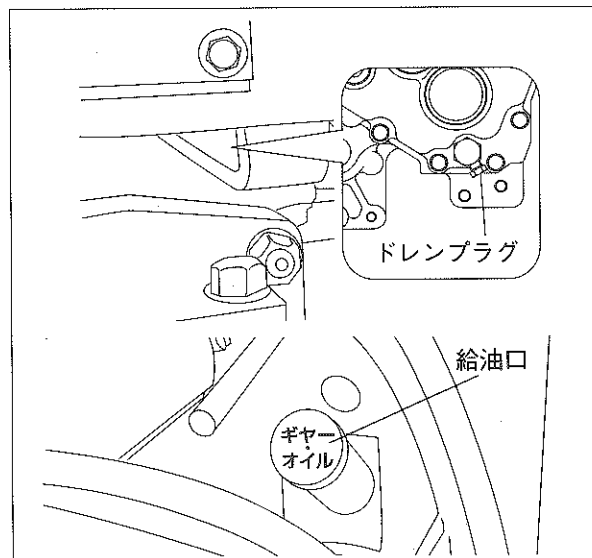
ボンネット内、左側面

検油窓



■交換

- 1 ドレンプラグをはずし、容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを締めギヤオイルを給油口から注入し検油窓までオイルを入れます。
- 3 給油口は確実に締め、あふれたオイルを拭き取ってください。



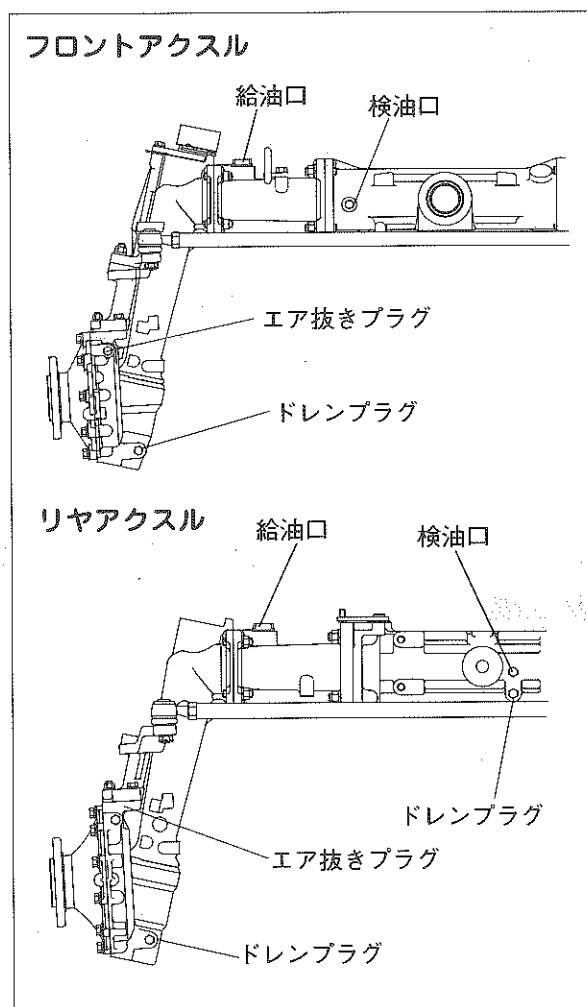
8.3.16 フロントアクスル・リアアクスルのオイル

■点検

- 1 検油口からプラグをはずしてオイルが出るか点検します。
- 2 不足しているときは、給油口よりオイルを追加します。

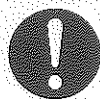
■交換

- 1 ドレンプラグをはずして容器にオイルを排出します。この時エア抜きプラグもはずします。
- 2 ドレンプラグを締めて給油口よりギヤオイルを入れ、エア抜きプラグからオイルが出てくるまでオイルを入れます。
- 3 エア抜きプラグを確実に締めつけてから、再び検油口からオイルが出るまで入れます。
- 4 給油口、検油口、エア抜きプラグは確実に締め、あふれたオイルは拭き取ってください。



8.3.17 ブレーキの点検

警告



調整後は、必ずパーキングブレーキが確実にかかるか、連結ブレーキをかけたときに左右のブレーキが同時に効くか確認してください。

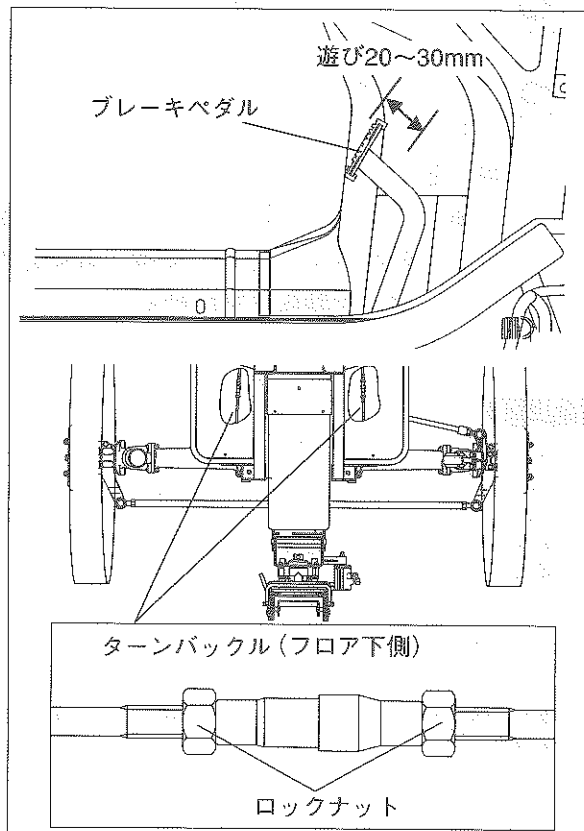
※ 守らないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■点検

左右のブレーキペダルの遊び量が20～30mmあるかおよび、ブレーキの踏み込み量が左右均一になっているか確認してください。

■調整

- 1 パーキングブレーキを解除し、左右ブレーキペダルの連結を解除します。
- 2 ステップ下面にある2箇所のロックナットをゆるめます。
- 3 ターンバックルを回してブレーキペダルの遊び量が20～30mmとなり、踏み込み量が左右均一になるように調整してください。
- 4 2箇所のロックナットを確実に締めつけます。
- 5 調整後、パーキングブレーキが確実にかかること、およびブレーキが正常に作動することを確認してください。



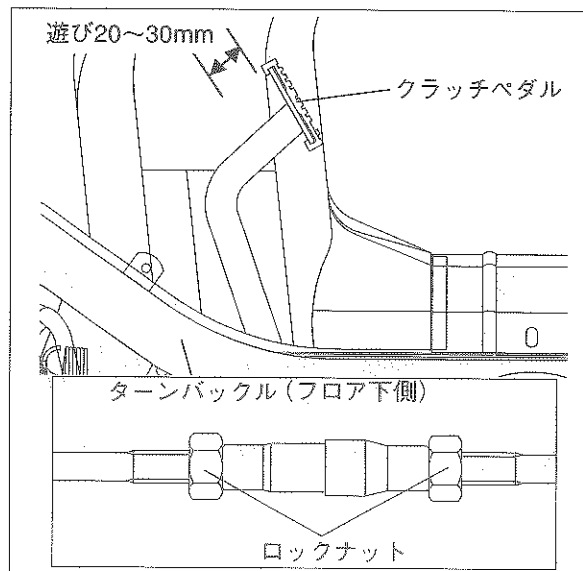
8.3.18 クラッチの点検と調整

■点検

クラッチペダルを踏み込んで20～30mmの遊び量があるか点検します。

■調整

- 1 ステップ下のロックナットをゆるめます。
- 2 ターンバックルで20～30mmの遊び量になるよう調整します。
- 3 ロックナットで確実に締めつけます。



8.3.19 車速表示ベルト (S型)

メーターパネルに車速を表示させるためのベルトです。

■点検

- 1 ベルト中央部を20N(2kgf)で押さえて7～9mm程度たわむか確認してください。
- 2 ベルトがゆるければ調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。

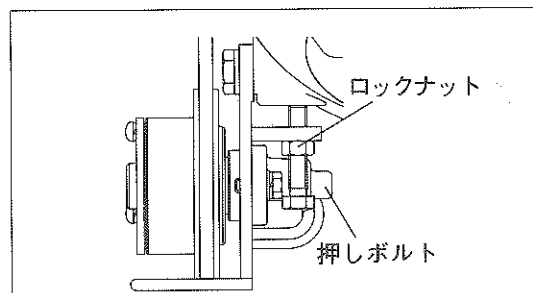
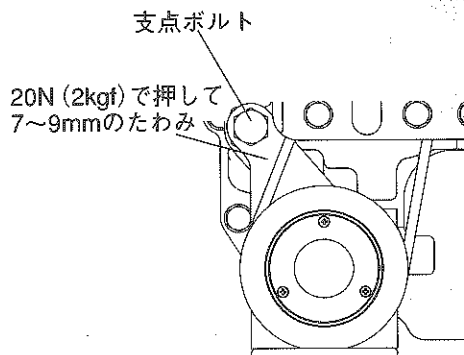
補足

- このベルトは、メーターパネル表示専用のベルトです。防除・粒剤散布の制御とは関係ありません。

■調整

- 1 支点ボルトとロックナットをゆるめます。
- 2 押しボルトを動かし、ベルト中央部を20N(2kgf)で押さえて7～9mm程度たわむ程度に調整します。
- 3 調整後はロックナットと支点ボルトを確実に締めつけてください。

機体下部、前側から見た図



8.3.20 ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。遊びはステアリングホイール(ハンドル)の外周で30～60mmが標準です。

はなはだしい遊びやガタがある場合は「お買い上げ先」で修理してください。

8.3.21 タイヤの空気圧



警告



タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

※ タイヤ破裂のおそれがあります。

警告



タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。

※ 空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換修理は、必ず「お買い上げ先」にご相談ください。

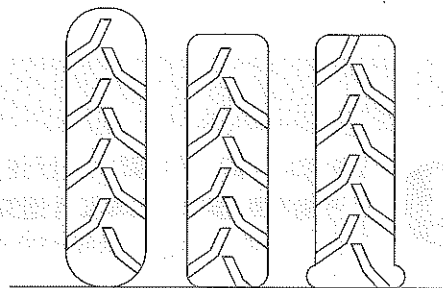
※ 法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

前輪・後輪の空気圧が適正であることを調べます。
外観上の目安は右図のとおりです。

空気圧ゲージで測定する場合は下表の空気圧を上限にしてください。

タイヤサイズ	標準空気圧MPa (kgf/cm ²)
120/90-26AG	0.30 (3.0)
130/90-21AG	0.40 (4.0)

空気が多い 適正 空気が不足



8.3.22 タイヤの締めつけボルトの点検

警告

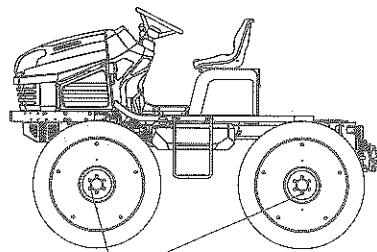


タイヤ締めつけボルトやナットがゆるんだ状態で乗用管理機を運転しないでください。

※ ゆるんだまま走行すると脱輪のおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因になります。

タイヤ締めつけボルトがゆるんでいないか点検してください。

異常がある場合は、ただちに「お買い上げ先」で整備してください。



ボルト(4本) ナット(2本)

8.3.23 アクセルレバー・HST前後進レバー

アクセルレバー・HST前後進レバーの動きが重くなったり、軽くなったりしたときは、調整を「お買い上げ先」に依頼してください。

8.3.24 電気配線の点検と清掃

⚠ 危険



傷んだ配線は、すみやかに『お買い上げ先』で交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみ、および、配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート(短絡)・漏電の原因となり失災事故になるおそれがあります。

バッテリー、電気配線、および、マフラやエンジン周辺部のワラくす・ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

注意



1年に1回、『お買い上げ先』での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年に1回交換することをお奨めします。

※ 守らないと、故障が発生しやすくなります。



メータパネル、バッテリー、エンジン周りの電気配線、電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。

※ 電気部品の故障の原因となります。

下記の項目について定期的に点検してください。

(1) 配線の損傷がないこと。

配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き補修してください。

(2) 配線のクランプにゆるみがないこと。

配線がクランプよりはずれているときは、所定のクランプに配線を固定してください。

(3) ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部にゆるみがないこと。

(4) 各スイッチが確実に作動すること。

8.3.25 バッテリー

⚠ 危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発をすることがあり、事故が起きる可能性があります。

バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。もし、目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

⚠ 警告



ブースターケーブル使用時には、十分注意して取り扱ってください。

※ 注意を怠ると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

注意



バッテリー液が減ったときは精製水を補給してください。

※ バッテリー液が不足すると、バッテリーを傷めます。また、バッテリー液が多すぎると液が外部へこぼれ車体を腐食させます。

■取り扱い

- (1) 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。
- (2) バッテリーは使用しなくても自己放電しますので、補充電を行ってください。

● 夏期…1ヶ月ごと

● 冬期…2ヶ月ごと

- (3) 乗用管理機を長期格納する場合は、バッテリーを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。

乗用管理機に取りつけたまま保管しなければならないときは、必ず、アースをはずしてください。

アースをはずしたときは、その旨をメモ書きして乗用管理機に貼りつけておくとう便利です。

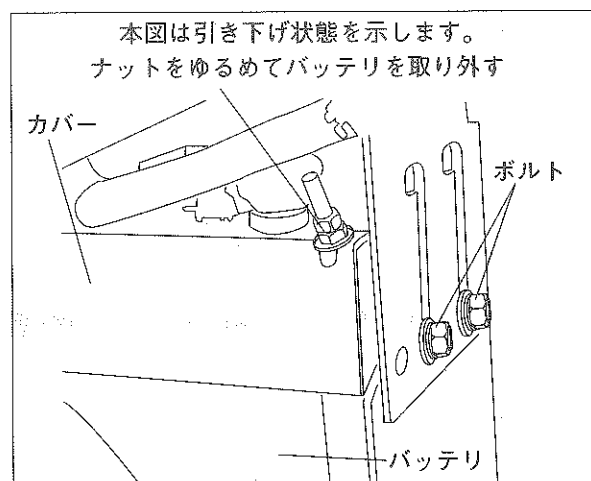
- (4) 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

補足

- バッテリーは必ず車体から取りはずして充電してください。電装品の損傷の他にも配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
- バッテリーをはずし、再度取りつけるときには、バッテリーの⊕⊖のコードを元どおりに配線し、回りに接触しないように締めつけてください。
- バッテリーコード（端子）を取りはずすときは、⊖コードを先にはずします。バッテリーコードを取りつけるときは、⊕コードを先に取りつけます。これを怠ると、ショートして火花が飛んだりします。

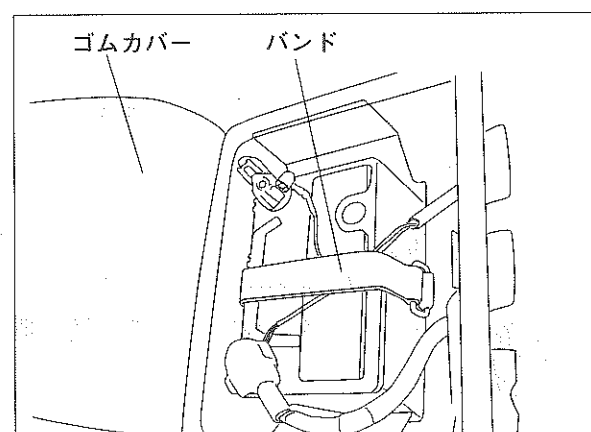
■バッテリーのはずしかた（D型）

- 1 バッテリーボックスの両側にあるM8ボルト（4本）をゆるめます。
- 2 バッテリーボックスを少し奥にずらし、引き上げます。
- 3 カバーを締めつけているナット（2カ所）をゆるめてバッテリーを取りはずします。



■バッテリーのはずしかた（S型）

- 1 バッテリー上のゴムカバーをめくりまします。
- 2 バッテリーを締めつけているバンドをフックからはずしバッテリーを取りはずします。



■点検

- (1) バッテリー液は使っているうちに蒸発して減少します。
- (2) バッテリー前面の2本の線（レベル）があり、その間に液面があれば正常です。

8.3.26 ヒューズの交換

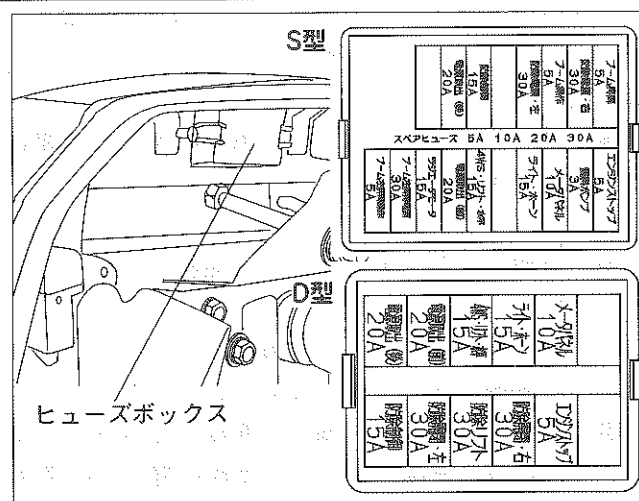
⚠ 警告



ヒューズが切れたときは、切れた原因を調べ修理してください。
「お買い上げ先」にお問い合わせください。

※ 大容量のヒューズや針金等で代用すると燃損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

- (1) ヒューズは操作パネルの裏側にあります。
- (2) ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。



8.3.27 スローブローヒューズ

警告



ヒューズが溶断した原因を調べ修理してください。

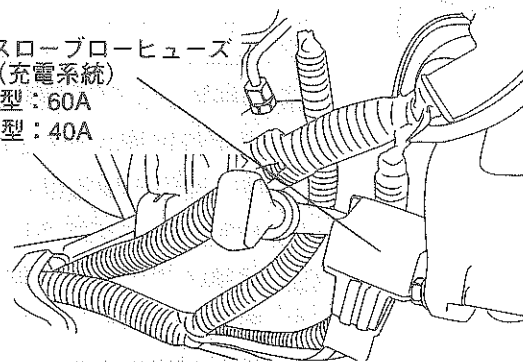
「お買い上げ先」にお問い合わせください。

※ 大容量のヒューズや針金等で代用すると燃損の原因や思わぬ傷害事故引き起こす原因となります。

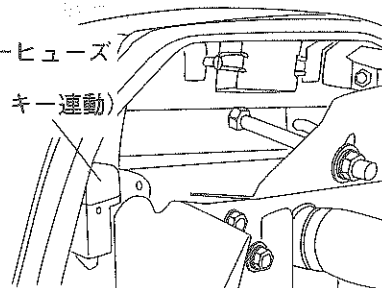
スローブローヒューズはヒューズの1種で過大電流が流れたりショートしたときに、ヒューズが溶断して配線の損傷を防ぎます。

- (1) 配線中にスローブローヒューズが3個設定されています。
- (2) このスローブローヒューズは、配線を保護するための部品で、切れるとすべての回路の電気が流れません。
- (3) 必ず切れた原因を調べ純正部品のスローブローヒューズと交換してください。

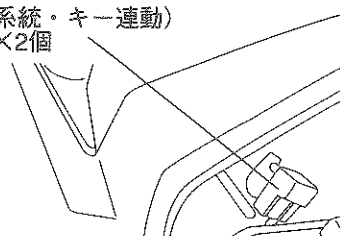
スローブローヒューズ
(充電系統)
S型：60A
D型：40A



スローブローヒューズ
(S型)
(防除系統・キー連動)
40A×2個



スローブローヒューズ
(D型)
(防除系統・キー連動)
40A×2個



9. 格納時の手入れ

9.1 日常の格納

危険



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注意



洗車するときは、メータパネル、電装品、およびサイドカバー等の警告ラベル貼付箇所には圧力をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

日常の格納および短期間の格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 乗用管理機はきれいに清掃してください。
特に湿田作業後は、きれいに洗車してください。
- (2) 作業機は必ず降ろしてください。
- (3) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (4) 厳寒時はバッテリーをはずし、暖かい室内等に保管するとバッテリー寿命を延ばすことができます。
- (5) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、必ず不凍液を入れてください。

9.2 長期の格納

⚠ 危険



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注意



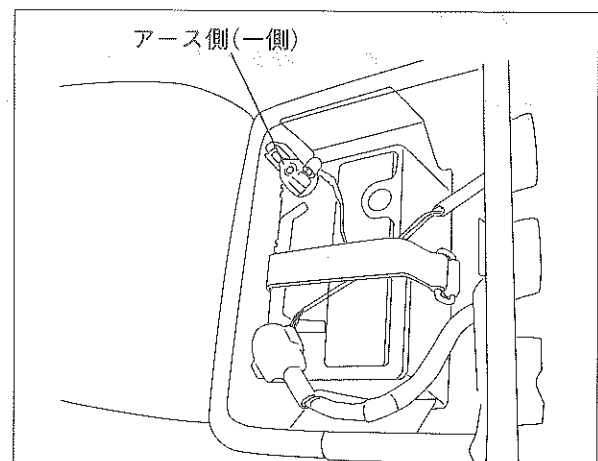
洗車するときは、メータパネル、電装品、およびサイドカバー等の警告ラベル貼付箇所には圧力をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

9.2.1 格納前作業

乗用管理機を長い間使用しない場合は、格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 乗用管理機はきれいに清掃してください。
特に作業後は、きれいに洗車してください。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させてください。
- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- (6) バランスウェイト等は取りはずしてください。
- (7) 作業機は取りはずすか、または地面に降ろしてください。
- (8) 格納場所は、周囲にワラ等燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしてください。
- (9) 後輪の前後に車止めをしてください。
- (10) バッテリーは、乗用管理機から取りはずし補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。
どうしても取りつけたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）をはずしてください。



補 足

- バッテリーあるいは⊖端子をはずさないで、ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。

9.2.2 格納期間中

エンジン防錆のため、1ヶ月に1回、中速回転（1500～2000rpm）で5～10分間運転してください。

9.2.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

- (1) 「4. 作業前点検」を確実に行ってください。
( 35ページ)
- (2) エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

10. 不調時の処置

	不 調 内 容	原 因	処 置	参照ページ
エンジン関係	キースイッチを回してもスタータが回らない	●クラッチペダルの踏み忘れ踏み不足	クラッチペダルを十分踏み込む	29
		●セーフティスイッチの故障	「お買い上げ先」で修理	—
		●キースイッチヒューズの断線 (スローブローヒューズ)	スローブローヒューズの交換	87
		●バッテリーの放電	バッテリーを充電又は交換	85
		●充電系ヒューズの断線 (スローブローヒューズ)	配線チェックし、スローブローヒューズ・ヒューズを交換する	87
		●各部端子の緩み	外れ、緩み腐食を点検し修理して確実に組み付けグリースを塗布しておく	84
		●キースイッチの故障	「お買い上げ先」で修理又は交換	—
		●スタータの故障		
	スタータは回るが回転がおそい	●バッテリーが弱い	バッテリーを充電又は交換	85
		●アース不良	接続部を清掃し、アースを確実に	
		●エンジンオイルの粘度不適	適正粘度のオイルに交換	70
	スタータは回るがエンジンがかからない	●軽油がない	燃料の補給	74
		●燃料フィルタのつまり	フィルタの清掃又は交換	75
		●エンジン本体の不具合	「お買い上げ先」で修理	—
	エンジン回転が不規則	●燃料フィルタのつまり	燃料フィルタの清掃又は交換	75
		●噴出ノズルのつまり	「お買い上げ先」で修理又は交換	—
		●パイプ系の燃料もれ		
		●燃料噴射の不揃い		
		●燃料ポンプの作動不良	ヒューズの点検(ヒューズボックス)	86
	エンジンを低速にすると停止する	●インジェクションポンプの不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●エンジンのバルブクリアランスの不良		
		●ノズル不良		
	エンジンが過回転する	●ガバナにゴミがつまっている	「お買い上げ先」で修理	—
		●オイル上がり		
	運転中エンジンが突然停止した	●燃料不足	燃料の補給	74
		●エンジンオイル不足	エンジンオイル補給	70
		●ノズル不良 (ファンベルトを引張ってクランクプーリが動けば燃料不足かノズル不良の場合が多い)	「お買い上げ先」で修理	—
		●オイル不足又は潤滑不良によるエンジン焼付き		
	エンジンが過熱する	●冷却水の不足	冷却水を補給する	72
		●ファンベルトのゆるみ、破損	ベルトの張り調節又は「お買い上げ先」で修理	76
		●ラジエタの目づまり	清掃	73
		●エンジンオイル不足	点検・補給	70
	エンジンの排気色が白い	●エアクリーナがつまっている	エレメントの清掃	71
		●エンジンオイル量が多すぎる	点検して適正量にする	70
		●燃料供給量の不足	「お買い上げ先」で修理	—
	エンジンの排気色が黒ずる	●燃料が正規のものでない	正規の燃料に入れかえる	74
		●燃料の供給過剰	「お買い上げ先」で修理	—
		●ノズル圧力の不足		
	エンジン出力不足	●ノズルの焼付き、つまり及びカーボンがたまっている	「お買い上げ先」で修理	—
		●圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスもれ		
		●バルブクリアランス調整不良		
		●噴射時期不良		
		●燃料不足	燃料系統をチェックする	74
		●エアクリーナのつまり	エレメントの清掃	71

10.不調時の処置

	不 調 内 容	原 因	処 置	参照ページ
エ ン ジ ン 関 係	運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する	●エンジンオイル量が少ない	規定量まで補給	70
		●エンジンオイルの粘度不適	適正粘度のオイルに交換	70
		●プレッシャースイッチの故障	「お買い上げ先」で修理	—
		●オイルポンプの故障	「お買い上げ先」で修理	—
		●オイルフィルターエレメントの目づまり	エレメントの交換	70
	運転中にチャージランプが点灯する	●配線の故障	「お買い上げ先」で修理	—
		●オルタネータの不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●バッテリーの不良、又は精製水不足	バッテリーの交換又は精製水の補給	85
		●ファンベルトのゆるみ又は破損	張り調節又は「お買い上げ先」で修理	76
		●充電系ヒューズの断線 (スローブローヒューズ)	配線チェックし、スローブローヒューズを交換する	87
	運転中、水温計の指針が「赤の範囲」を示す	●ラジエータの水量が少ない	規定量まで補給	72
		●ラジエータの目づまり	清掃	73
		●ファンベルトのゆるみ、破損	ベルトの張り調整又は交換	76
		●エンジンオイル不足	エンジンオイルの補給	70
ク ラ ッ チ 関 係	クラッチがすべる	●ペダルの調整不良	ペダルの遊び、踏みしろの調整	81
		●クラッチライニングの摩耗	「お買い上げ先」で修理	—
	クラッチがきかない	●ペダルの調整不良	ペダルの遊び、踏みしろの調整	81
		●クラッチライニングの焼付け	「お買い上げ先」で修理	—
ブ レー キ 関 係	ブレーキのききが悪い	●クラッチペダル戻しスプリングの損傷	「お買い上げ先」で修理	—
		●ブレーキライニングの摩耗	「お買い上げ先」で修理	—
		●ブレーキペダルの遊び量が多すぎる	「お買い上げ先」で修理	—
		●左右のブレーキペダルの踏込量が異なる	左右の踏込量を同じに調節する	81
油 圧 関 係	配管から油もれ	●ジョイント部のゆるみ	増締め	—
		●Oリングの損傷	Oリング交換	—
		●パイプの亀裂	「お買い上げ先」で修理	—
走 行 関 係	ハンドルが重い	●エンジン回転数が低い	エンジン回転数をあげる	29
	ハンドルが取られる	●タイヤ空気圧の不揃い	左右とも規定空気圧にする	82
		●各ジョイントにガタがある	増締め、又は部品交換	—
		●トーインが正しくない	「お買い上げ先」で修理	—
	ハンドルの遊びが多い	●ハンドルシャフトの摩耗	「お買い上げ先」で修理	—
		●各エンドにガタがある	「お買い上げ先」で修理	—
	ハンドルを回してもタイヤが動かない	●油圧オイル不足	オイルを規定量入れる	77
		●油圧ポンプ不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●パワステユニット不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●4WS切替バルブの作動不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●4WS制御系統不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●電源系統接続不良	接続を確実にする	84
	操舵切替ができない	●ヒューズの焼損	ヒューズの交換	86
		●スイッチ不良	スイッチの交換	—
		●パワステユニット不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●4WS切替バルブの作動不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●4WS制御系統不良	「お買い上げ先」で修理	—
	FWS/RWSのとき固定側のタイヤがまっすぐにならない	●タイヤの midpoint 設定ができていない	タイヤの midpoint 設定	58

	不 調 内 容	原 因	処 置	参照ページ
電 装 関 係	バッテリーが充電されない	●スローブローヒューズの断線	配線チェック後にスローブローヒューズの交換	87
		●配線の故障	端子の緩み、損傷、ショート、アースの緩みを修理	84
		●オルタネータの故障 (D型)	「お買い上げ先」で修理	—
		●ゼネレータの不良 (D型除く)	「お買い上げ先」で修理	—
		●レギュレータの不良 (D型除く)	「お買い上げ先」で修理	—
		●バッテリーの機能低下	端子の緩み、腐食、電解液の不足などをチェック	85
		●配線の端子の緩み	接続又は増締め	84
	ヘッドランプが暗い	●バッテリーの機能低下	充電又は交換	85
		●結線、接触不良	アースおよびターミナルの点検清掃および増締め	84
	ヘッドランプが点灯しない	●ヒューズの焼損	ヒューズの交換	86
		●配線の断線、又は端子の緩み	接続又は増締め	84
		●電球切れ	電球交換	—
	ホーンが鳴らない	●ヒューズの焼損	ヒューズの交換	86
		●配線の断線、又は端子の緩み	接続又は増締め	84
		●ホーンの故障	ホーンの交換	—
		●ホーンボタンの故障	ホーンボタンの交換	—
	ウインカが点滅しない	●電球切れ	電球交換	—
		●フラッシャーユニットの故障	フラッシャーユニットの交換	—
		●ヒューズの焼損	ヒューズの交換	86
リフト・水平関係	水平が動かない	●油圧カブラの抜け	接続する	64
		●水平センサのカブラの抜け	接続する	64
	バックアップが作動しない	●バックアップスイッチの調整不良	「お買い上げ先」で修理	—
		●水平センサのカブラの抜け	接続する	64

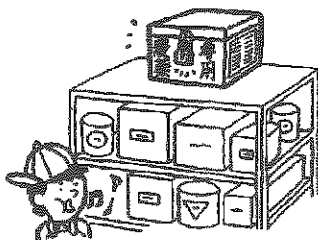
11. 農薬に関する注意事項

！ 警告

(1) 農薬は内容を明記した箱にいれ、子供の手の届かない鍵の掛かる場所に保管する

【守らないと】

誤って飲み込んで、死亡するおそれがあります。



(2) 農薬は、その日に使いきってしまえる量だけを準備する。

【守らないと】

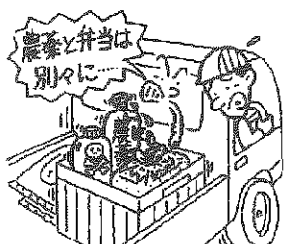
第三者が農薬と知らずに誤って飲み込んで、死亡するおそれがあります。



(3) 農薬は食品と別々にする
食品と同じ容器で農薬を運ばないでください。

【守らないと】

食品に農薬がかかったり、誤って飲み込んで、死亡するおそれがあります。



(4) 農薬の空ビンや空袋などはそのまま放置せず、取扱説明書で定められた方法で処理する。

【守らないと】

薬害により、死亡事故や重大な環境汚染や健康を害するおそれがあります。



(5) 濃い農薬をこぼしたときは、その部分の土を地下水などを汚染しない場所の地中深くに埋める。

【守らないと】

環境汚染となるばかりでなく、農薬による汚染を知らない人がその土に触れ、健康を害するおそれがあります。

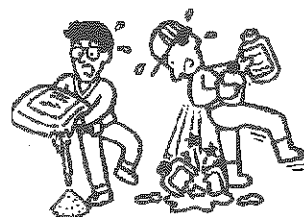


(6) 農薬を運搬するときは、こぼさないように注意する

農薬を運ぶときは、袋が破れたり、ビンが割れたり、栓が緩んだりして、農薬がこぼれないようにしてください。

【守らないと】

農薬が身体にかかり、健康を害するおそれがあります。



(7) 農薬の調合は専用の容器を使用する
農薬の計量調剤用機器は、必ず専用の物を用意し、食器などを代用しないでください。

【守らないと】

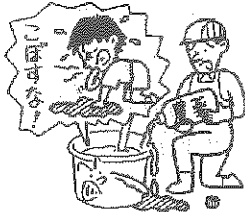
薬害により、健康を害するおそれがあります。



- (8) 農薬を混合するときはこぼさないように注意し、調合し終わったら1回ごとに栓をする。万一、薬品をこぼした場合は、布切れできれいに拭き取り、拭き取った布切れは焼き捨ててください。

【守らないと】

薬害による環境汚染や誤ってその布切れを使用したために、人身事故を起こすおそれがあります。



- (9) 農薬の取扱説明書を良く読み、指示されている正しい取り扱いをする
使用する農薬の取扱説明書を良く読み、毒性・使用方法・残った薬品の処分のしかたを理解してください。
また、万が一の事故に備え、毒性の程度や応急手当・解毒方法を確認してください。

【守らないと】

農薬の誤使用や薬物中毒により、健康を害するおそれがあります。



- (10) 特定毒物は、個人使用禁止

特定毒物は、地方公共団体や農業団体など、法律で使用が認められているものだけが使用できます。

特定毒物を使用するときは、防除の目的・区域・期日を公示し、立ち入りを禁止する標識を立て、付近の住民に周知させてください。

【守らないと】

法律で処罰されます。
また、薬害事故を起す原因になります。



- (11) 農薬取締法が改正されています
平成15年3月の農薬取締法の改正にともなう省令に基づく使用基準により、使用してください。

- ①使用する作物に登録のある農薬を使用すること。
 - ②使用濃度（希釈倍率）、および面積当たりの使用量。
 - ③収穫前使用日数
 - ④使用回数
- これらの4点については、農薬使用者が厳守する義務が生じています。

【守らないと】

法律で処罰されます。また、農薬事故を起す原因になります。

- (12) 農薬は低毒性で、家畜に危害が無く、乳や肉などに残留しないものを使用する

【守らないと】

農薬による環境汚染や、薬害により健康を害するおそれがあります。



- (13) 乳剤・水和剤はみだりに濃度を高めて使用しない原液・粉末を少量の水に溶かし、所定量の水を徐々に加えながら規定どおりに散布液を作ってください。

【守らないと】

作物や人体への障害・薬害を起すおそれがあります。



- (14) 農薬ごとに定められた基準に従い使用する
作物残留性・土壌残留性・水質汚濁性の農薬、および農林大臣が定める農薬安全基準に定められた農薬を使用する場合、その基準に従ってください。

【守らないと】

農薬による環境汚染や、薬害により健康を害するおそれがあります。



- (15) 農薬が身体に付いたときは直ちに石鹸でよく洗う

【守らないと】

薬害により、健康を害するおそれがあります。



- (16) 作業中に体調が悪くなったときは、すぐに医師の診断を受ける

【守らないと】

薬物中毒により、深刻な傷害を負うおそれがあります。

- (17) 作業直後のほ場に入らない

あらかじめ必要な作業は作業の前に行い、作業直後のほ場に入らないで下さい。

【守らないと】

薬害により、健康を害するおそれがあります。

- (18) 作業は、風向きや周囲の安全を確認して作業する

川・池・沼などへの汚染や、人・家畜に薬害を及ぼさないために、散布地域を十分に考慮してください。

また、農薬が自分や他人にかからないように、風向きも十分に考慮してください。

【守らないと】

薬害や環境汚染の原因になります。

- (19) 農薬を身体に近づけない、食事の前には必ず手を洗い、うがいをする農薬が皮膚に付いたときは、ただちに石鹸で良く洗い流してください。

【守らないと】

薬害により、健康を害するおそれがあります。



- (20) 作業は涼しいときに行う

作業は暑い時間帯を避け、午前中など比較的涼しい時間帯に行ってください。

【守らないと】

農薬による中毒など、健康を害するおそれがあります。

- (21) 農薬作業は風の無いときに行う

農薬作業は、風の無い日や時間帯を選んで行ってください。

【守らないと】

風で農薬が流されて、思わぬ薬害事故を引き起こすおそれがあります。

- (22) 長時間の連続作業は厳禁

農薬作業をするときは、長時間の連続作業にならないように、時々休憩を取りながら行ってください。

【守らないと】

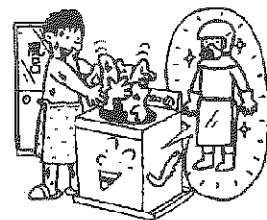
薬害により、健康を害するおそれがあります。

- (23) 作業後は、完全に洗濯する

散布作業中に身に付けていたものはすべて洗濯し、翌日の作業は洗濯済みものを着用してください。

【守らないと】

薬害により、健康を害するおそれがあります。



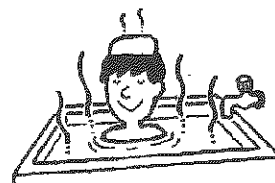
- (24) 作業後は、必ず入浴する

作業や後片付けが終わったら、ただちに入浴し、衣類をすべて着替えて下さい。

入浴できないときは、衣類をすべて着替え、手・足・顔などを石鹸で良く洗い、うがいをしてください。

【守らないと】

薬害により、健康を害するおそれがあります。



12. 付表

12.1 推奨潤滑油一覧表

区 分	メーカー名	商 品 名	出荷時充填油
エンジンオイル	モセキ純正オイル 他有名メーカー品を使用 ディーゼルエンジン CD級以上	モセキ・ディーゼルデラックスオイル 20L缶:7019-005-300-00 4L缶:7019-005-400-00	○
ギヤオイル (フロントアクスル) (リアアクスル) (フロントミッション) (カウンタヒッチ)	モセキ純正オイル 他有名メーカーのグレード GL4以上を使用	モセキハイポイドギヤオイル(#80) 20L缶:7019-001-300-00 4L缶:7019-001-400-00	○
ギヤ油圧兼用オイル (リヤミッション)	モセキ純正オイル (シェル石油)	モセキU・T・Hオイル 20L缶:7019-019-300-00 4L缶:7019-019-400-00 (シェルドナックスTDオイル)	○
一般グリース	協同油脂	ユニループNo.2 他有名メーカーのリチューム系一般グリース	○
燃料	有名メーカー品	ディーゼル軽油 JIS2号～3号(3号は厳寒時)	○
不凍液	モービル石油 シェル石油 他有名メーカー品を使用	モービルロングライフクーラント(LLC) アンチフリーズ	○

12.2 主要諸元表

名 称		JKB17-DH2		JKB17-DH3
型 式 名		キセキJK002		
区 分		NW	NWM	W
駆 動 型 式		4輪駆動		
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2,540	3,600	2,600
	全 幅 (mm)	1,415	1,700	1,550
	全 高 (mm)	1,600	1,680	
	最 低 地 上 高 (mm)	550		650
	機 体 質 量 (kg)	830	990	855
エ ン ジ ン	型 式 名	E3100-J		
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総 排 気 量 (L)	1.006		
	最 大 出 力 (kW{PS} /rpm)	12.5 {17} /2,500		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	21		
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)		
走 行 部	タ イ ヤ	130/90-21AG		
	軸 距 (mm)	1,350		
	輪 距 (mm)	1,160~1,320		1,320~1,540
	ク ラ ッ チ 形 式	乾式・多板		
	舵 取 方 式	パワーステアリング (全油圧)		
	変 速 方 式	常時かみ合い・選択かみ合い併用		
	変 速 段 数	前進8段・後進4段		
	最 小 回 転 半 径 (4WS×m)	1.9		2.0
P T O	デ フ ロ ッ ク	後のみ		
	P T O 回 転 速 度 (min ⁻¹)	595/825		
	粒剤散布用軸回転速度 (min ⁻¹)	1,838		
作 業 機 昇 降 装 置	軸 寸 法 (mm)	25 (スプライン)		
	制 御 方 式	ポジションコントロール		
	装 着 方 式	2点リンク (クイックヒッチ)		
	水 平 装 置	自動		
	バ ッ ク ア ッ プ	有		

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名 称		JKB17-DHP2		JKB17-DHP5		
型 式 名		キセキJK002				
区 分		WML		WB4M	WB4ML	WB4
駆 動 型 式		4輪駆動				
機 体 寸 法	全 長 (mm)	3,600				2,600
	全 幅 (mm)	1,700				
	全 高 (mm)	1,830		1,850		1,750
	最 低 地 上 高 (mm)	700		720		
	機 体 質 量 (kg)	1,040	1,055	1,070	1,080	920
エ ン ジ ン	型 式 名	E3100-J				
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル				
	総 排 気 量 (L)	1.006				
	最 大 出 力 (kW{PS} /rpm)	12.5 {17} /2,500				
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	21				
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)				
走 行 部	タ イ ヤ	905×95		120/90-26AG		
	軸 距 (mm)	1,350				
	輪 距 (mm)	1,200	1,470			
	ク ラ ッ チ 形 式	乾式・多板				
	舵 取 方 式	パワーステアリング (全油圧)				
	変 速 方 式	常時かみ合い・選択かみ合い併用				
	変 速 段 数	前進8段・後進4段				
	最 小 回 転 半 径 (4WS×m)	1.9	2.1			
	デ フ ロ ッ ク	前後付き				
P T O	P T O 回 転 速 度 (min ⁻¹)	595/825				
	粒剤散布用軸回転速度 (min ⁻¹)	1,838				
	軸 寸 法 (mm)	25 (6スプライン)				
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール				
	装 着 方 式	2点リンク (クイックヒッチ)				
	水 平 装 置	自動				
	バ ッ ク ア ッ プ	有				

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12.付表

名	称	JKB23-SH2		
型	式	キセキJK001		
区	分	W	TW	WGV
駆	動	4輪駆動		
機 体 寸 法	全	長 (mm)	2,755	4,130
	全	幅 (mm)	1,430	1,975
	全	高 (mm)	1,680	2,406
	最	低 地 上 高 (mm)	650	
	機	体 質 量 (kg)	880	1,150
エ ン ジ ン	型	式 名	E3112-J	
	種	類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル	
	総	排 気 量 (L)	1.123	
	最	大 出 力 (kW {PS} /rpm)	16.9 {23} /2,800	
	燃	料 タ ン ク 容 量 (L)	21	
	使	用 燃 料	ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)	
走 行 部	タ	イ ヤ	130/90-21AG	
	軸	距 (mm)	1,500	
	輪	距 (mm)	1,200~1,420	
	ク	ラ ッ チ 形 式	乾式・多板	
	舵	取 方 式	パワーステアリング (全油圧)	
	変	速 方 式	HST・選択かみ合い併用	
	変	速 段 数	無段変速前進3段・後進3段	
	最	小 回 転 半 径 (4WS×m)	2.3	
	デ	フ ロ ッ ク	後のみ	
P T O	P	T O 回 転 速 度 (min ⁻¹)	589/816	815/1130
	粒	剤 散 布 用 軸 回 転 速 度 (min ⁻¹)	1,760	
	軸	寸 法 (mm)	25 (6スプライン)	
作 業 機 昇 降 装 置	制	御 方 式	ポジションコントロール	
	装	着 方 式	2点リンク (クイックヒッチ)	
	水	平 装 置	自動	
	バ	ッ ク ア ッ プ	有	

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名 称		JKB23-SP3	JKB23-SP5		
型 式 名		ホセキJK001			
区 分		FB4GVC	B4GV	B4GVK	GKV
駆 動 型 式		4輪駆動			
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4,130			
	全 幅 (mm)	1,975			
	全 高 (mm)	2,475			2,455
	最 低 地 上 高 (mm)	720			700
	機 体 質 量 (kg)	1,170	1,190	1,185	1,160
エ ン ジ ン	型 式 名	E3112-J			
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総 排 気 量 (L)	1.123			
	最 大 出 力 (kW{PS} /rpm)	16.9 {23} /2,800			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	21			
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)			
走 行 部	タ イ ヤ	120/90-26AG			905×95
	軸 距 (mm)	1,500			
	輪 距 (mm)	1,320	1,470		
	ク ラ ッ チ 形 式	乾式・多板			
	舵 取 方 式	パワーステアリング (全油圧)			
	変 速 方 式	HST・選択かみ合い併用			
	変 速 段 数	無段変速前進3段・後進3段			
	最 小 回 転 半 径 (4WS×m)	2.3	2.4		
	デ フ ロ ッ ク	前後付き			
P T O	P T O 回 転 速 度 (min ⁻¹)	—			
	粒剤散布用軸回転速度 (min ⁻¹)	1,093/1,760	1,760		
	軸 寸 法 (mm)	—			
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式	—			
	装 着 方 式	—			
	水 平 装 置	—			
	バ ッ ク ア ッ プ	—			

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12.付表

名 称		JKB23-SHP2		JKB23-SHP5					
型 式 名		中セキJK001							
区 分		WB4GV		WGV		TWGV		WB4	
駆 動 型 式		4輪駆動							
機 体 寸 法	全 長 (mm)	4,130				2,755			
	全 幅 (mm)	1,975				1,700			
	全 高 (mm)	2,475		2,455		1,750			
	最 低 地 上 高 (mm)	720		700		720			
	機 体 質 量 (kg)	1,210		1,220		1,195		950	
エ ン ジ ン	型 式 名	E3112-J							
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル							
	総 排 気 量 (L)	1.123							
	最 大 出 力 (kW{PS} /rpm)	16.9 {23} /2,800							
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	21							
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)							
走 行 部	タ イ ヤ	120/90-26AG		905×95		120/90-26AG			
	軸 距 (mm)	1,500							
	輪 距 (mm)	1,200		1,470					
	ク ラ ッ チ 形 式	乾式・多板							
	舵 取 方 式	パワーステアリング (全油圧)							
	変 速 方 式	HST・選択かみ合い併用							
	変 速 段 数	無段変速前進3段・後進3段							
	最 小 回 転 半 径 (4WS×m)	2.3		2.4					
	デ フ ロ ッ ク	前後付き							
P T O	P T O 回 転 速 度 (min ⁻¹)	589/816				815/1,130		589/816	
	粒剤散布用軸回転速度 (min ⁻¹)	1,760							
	軸 寸 法 (mm)	25 (6スプライン)							
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール							
	装 着 方 式	2点リンク (クイックヒッチ)							
	水 平 装 置	自動							
	バ ッ ク ア ッ プ	有							

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

12.3 走行速度表 (km/h)

(km/h)

型式		JKB23-S			
	変速		P、HP型		H型
	主変速	副変速	標準タイヤ	B4タイヤ	
前進	HST	L	0~2.5	0~2.6	0~2.5
		M	0~4.0	0~4.2	0~4.0
		H	0~12.2	0~12.7	0~12.0
後進		L	0~1.8	0~1.9	0~1.8
		M	0~2.9	0~3.0	0~2.8
		H	0~8.6	0~9.0	0~8.5

(km/h)

型式		JKB17-DHP ()内はB4を示す		JKB17-DH
	変速			
	主変速	副変速		
前進	1	低	1.0	1.0
		高	1.5	1.5
	2	低	2.5(2.6)	2.5
		高	3.7(3.8)	3.7
	3	低	4.1(4.3)	4.1
		高	6.0(6.3)	6
	4	低	7.7(8.1)	7.8
		高	12.5(13.0)	12.5
後進	1	後	1.5(1.6)	1.5
	2		3.8(3.9)	3.8
	3		6.1(6.4)	6.2
	4		11.6(12.1)	11.7

12.4 注文部品一覧表

乗用管理機本体装着の注文部品の一覧を示します。

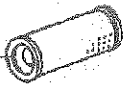
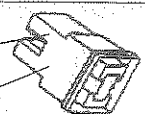
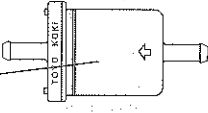
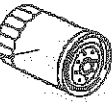
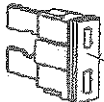
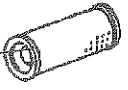
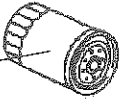
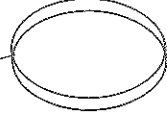
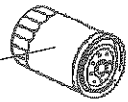
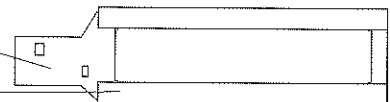
この他、キセキではいろいろな種類の作業に適應できる、作業機/アタッチメントを取り揃えております。詳しくは、「お買い上げ先」にお問い合わせください。

部品コード	品名	用途・仕様	対応機種
2521-360-240-00	タイヤ(120/90,132F) SET	湿田用前輪タイヤ (2本セット、分草かん付き)	H型(N型除く)※ 1
2521-360-250-00	タイヤ(120/90-26リヤ) SET	湿田用後輪タイヤ (2本セット)	
2521-350-240-00	タイヤ(905X95) SET	水田作業用タイヤ (4本セット)	
2521-307-300-00	タイヤ(130/90-21AG) SET	畑作業用タイヤ (4本セット)	P、HP型※ 2
2520-355-200-00	スペーサ(60) SET	120トレッドを132にする	120トレッド型
2515-520-310-00	クラッチ(ロータリ/E) SET	作業機側の爪クラッチ	H、HP型 (1個は本機に標準装備)
2515-630-320-20	カバー(アンダ/132) SET	本機下部と稲の干渉を 少なくする	132、150トレッド型
2515-630-300-20	カバー(アンダ/120) SET	本機下部と稲の干渉を 少なくする	120トレッド型
2508-922-200-00	プレート(バンパ) SET	バンパー	全型式
1444-952-280-00	バンパウエイト SET	15kg	全型式
2520-612-200-00	ステップ(サブ) SET	右側サブステップ	JKB23 150トレッド型
2520-612-300-00	ステップ(サブ/N) SET	右側サブステップ	JKB17、N型
2520-612-400-00	ステップ(サブ/120) SET	右側サブステップ	JKB17、120、132 トレッド型
2520-612-500-00	ステップ(サブ/150) SET	右側サブステップ	JKB17 150トレッド型

※1 タイヤ径が大きくなり車速が若干異なります。防除作業等を行うときには散布量が異なりますので、詳しくは「お買い上げ先」にお問い合わせください。

※2 タイヤ径が小さくなり、車速が若干異なります。防除作業等を行うときには散布量が異なりますので、詳しくは「お買い上げ先」にお問い合わせください。

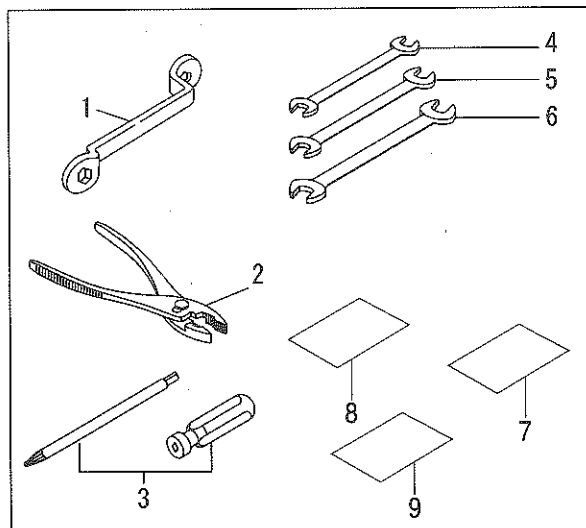
12.5 主な消耗部品一覧表

エアクリーナエレメント 1 	スローブローヒューズ (40A) スローブローヒューズ (60A) 8 (40A) 9 (60A) 
第一燃料フィルタ 2 	モニタランプ 10 (文字盤照明球) 11 (モニター他) 
第二燃料フィルタ 3 	電球 12 ヘッドライト (正面) 13 ヘッドライト (サイド) 14 方向指示ランプ 
油圧オイルフィルタ (D型) 4 	ヒューズ 15、16、17、18、19 
油圧タンクオイルフィルタ (S型) 5 	4WSスイッチ 20 
HST回路用油圧オイル フィルタ (S型) 6 	車速メーター表示用ベルト 21 
エンジンオイル フィルタカートリッジ 7 	スポンジブラシ 22 (スポンジ含む) 23 (スポンジ1個) 

図番	品名	品番
1	エレメントASSY	1675-104-213-00
2	フィルタ(フューエル)ASSY	3830-311-210-00
3	フィルタ(フューエル)ASSY	6213-200-009-00
4	フィルタ(サクション/20)ASSY	1675-508-200-00
5	フィルタ(サクション)ASSY	1560-407-220-00
6	カートリッジ	P103-521-302-00
7	カートリッジ(オイルフィルタ)	6213-240-002-10
8	ヒューズ(スローブロー)	1650-650-222-00
9	ヒューズ(スローブロー)	3829-260-303-00
10	バルブ(ランプ)SET	1614-670-280-00
11	バルブ(ランプ)SET	1560-658-280-40
12	バルブ(ランプ/12V23W)	1426-621-002-00
13	バルブ(ランプ/12V21W)	1789-650-363-00

図番	品名	品番
14	バルブ(ランプ/12V21W)	1564-654-213-00
15	ヒューズ(ブレード/32V05A)	1560-664-264-00
16	ヒューズ(ブレード/32V10A)	1575-623-010-00
17	ヒューズ(ブレード/32V15A)	1575-623-011-00
18	ヒューズ(ブレード/32V20A)	1593-623-203-00
19	ヒューズ(ブレード/32V30A)	1600-624-271-00
20	スイッチ(モーメンタリ/G/W)ASSY	2512-665-220-00
21	ベルト(VC/06X480)	2514-219-006-00
22	ブラシ(スポンジ)	2521-102-420-00
23	インシュレータ(20X330)	2521-102-007-00

12.6 標準付属品



番号	品 名	数量	備 考
1	メガネレンチ	1	17×19
2	プライヤ	1	150
3	差換ドライバ	1	プラス、マイナス
4	両口スパナ	1	10×12
5	両口スパナ	1	14×17
6	両口スパナ	1	19×22
7	取扱説明書	1	
8	保証書	1	
9	工具袋	1	

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 () —
御購入日 平成 年 月 日	型式	区分
車台番号 (本機番号)	エンジン番号	同時購入作業機

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部
技術ソリューションセンター

〒300-2346 茨城県つくばみらい市青木560

☎ 0297-58-5131

部品事業部

〒799-2692 愛媛県松山市馬木町700

☎ 089-979-4114

販売会社

(株) 中セキ北海道	〒068-0014	北海道岩見沢市東町2条7丁目1004番地1	☎ 0126-22-3388
(株) 中セキ東北	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎ 0223-24-1111
(株) 中セキ関東	〒300-0331	茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818	☎ 0298-87-6131
群馬中セキ販売(株)	〒379-2154	群馬県前橋市天川大島町116	☎ 0272-63-3211
(株) 石川商会	〒289-2516	千葉県旭市口-1247	☎ 0479-63-3115
柳田中セキ販売(株)	〒243-0806	神奈川県厚木市下依知250-2	☎ 046-244-2723
(株) 中セキ信越	〒950-1237	新潟県新潟市南区北田中字堀留780-12	☎ 025-362-1161
(株) 中セキ北陸	〒920-0806	石川県金沢市神宮寺2丁目20-8	☎ 076-252-5246
(株) 中セキ東海	〒444-1221	愛知県安城市和泉町大北61	☎ 0566-92-7221
三重中セキ販売(株)	〒514-0821	三重県津市垂水字中境499番地	☎ 059-225-2811
(株) 中セキ関西	〒675-0103	兵庫県加古川市平岡町高畑348-1	☎ 079-424-5357
奈良中セキ販売(株)	〒635-0014	奈良県大和高田市三和町17-29	☎ 0745-22-8771
(株) 中セキ中国	〒739-0024	広島県東広島市西条町御園宇727-2	☎ 082-423-9881
(株) 中セキ四国	〒799-3101	愛媛県伊予市八倉120-1	☎ 089-983-5677
(株) 西岡商会	〒773-0016	徳島県小松島市中郷町前田105-1	☎ 0885-32-3339
(株) 中セキ九州	〒861-2212	熊本県上益城郡益城町平田深迫2550	☎ 096-286-0303

名称			#セキ乗用管理機「愛さいか」										
販売型式名			JKA17			JKB17D							
区分			P		H		HP	H	HP				
			120	150	2	3	5	2	2	5			
			M	MLQ	NW	H3W	WB4	NWM	WML	WML	WB4M	WB4ML	
機体寸法	全長(mm)		3,600		2,540	2,600		3,600					
	全幅(mm)		1,700		1,415	1,550		1,700					
	全高(mm)		1,830		1,600	1,680	1,750	1,680	1,830		1,850		
	最低地上高(mm)		700		550	650	720	550	700		720		
機体質量（重量）(kg)			811	833	830	855	920	990	1040	1055	1070	1080	
エンジン	型式名		FH601D			E3100-D							
	種類		水冷4サイクル2気筒OHVガソリン			水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
	総排気量(L {cc})		0.675 {675}			1.006 {1,006}							
	最大出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)		12.1 {17} /3,200			12.5 {17} /2,500							
	燃料タンク容量(L)		21			21							
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン			ディーゼル軽油JIS2号・3号（3号は厳冬時）							
走行部	タイヤサイズ		900			800		940	800	900		940	
	軸距(mm)		1,350			1,350							
	輪距(mm)		1,200	1,470	1,200	1,320	1,470	1,200		1,470			
	駆動方式		4 輪駆動			4 輪駆動							
	クラッチ型式		乾式・多板			乾式・多板							
	かじ取り方式		パワーステアリング(全油圧)			パワーステアリング(全油圧)							
	変速方式		常時噛合・選択噛合 併用			常時噛合・選択噛合 併用							
	変速段数(段)		前進 8 段・後進 4 段			前進 8 段・後進 4 段							
	最小旋回半径 (4WS)(m)		1.9	2.1	1.9	2.0	2.1	1.9		2.1			
	デフロック		○			○：後ろのみ		○	○： 後ろのみ	○			
	走行速度	前進 (km/h)	1.0～12.7			1.0～12.5		1.0～13.0	1.0～12.5		1.0～13.0		
		後進 (km/h)	1.5～11.6			1.5～11.6		1.6～12.1	1.5～11.6		1.6～12.1		
PTO	PTO回転数(rpm)		—			595/825							
	ライブPTO回転数(rpm)		1786			1838							
作業機 昇降装置	制御方式		—			ポジションコントロール							
	装着方式		—			2点リンク（クイックヒッチ）							
	水平制御		—			自動							
	ワンタッチ昇降装置		—			○							
	バックアップ		—			○							
装備	※ 防除機 セット	慣行	○			—			○				
		少量霧アリ	—			—							
		少量霧ナシ	—			—							
		除草剤ノズル	—	○	—								
型式検査合格番号			—			—							
安全鑑定番号			26130			36124							
型式名			#セキ JKA17			#セキ JK002							
型式認定番号又は新型自動車番号			農2194			—							

区分			2		5	3	5			2	2	5			
			W	TW	WB4	FB4GVC	GVK	B4GVK	B4GV	WGV	WB4GV	WGV	TWGV	WB4GV	
機 体 寸 法	全長(mm)		2,755			4,130									
	全幅(mm)		1,430		1,700	1,975									
	全高(mm)		1,680		1,750	2,475	2,455	2,475		2,406	2,475	2,455		2,475	
	最低地上高(mm)		650		720		700	720		650	720	700		720	
機体質量（重量）(kg)			880		950	1,170	1,160	1,185	1,190	1,150	1210	1195		1220	
エ ン ジ ン	型式名		E3112-J												
	種類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル												
	総排気量 (L {cc})		1.123 {1123}												
	最大出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)		16.9 {23} /2,800												
	燃料タンク容量 (L)		21												
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号（3号は厳冬時）												
走 行 部	タイヤサイズ		800		940		900	940		800	940	900		940	
	軸距(mm)		1,500												
	輪距(mm)		1,200		1,470	1,320	1,470			1,200		1,470			
	駆動方式		4 輪駆動												
	クラッチ型式		乾式・多板												
	かじ取り方式		パワーステアリング(全油圧)												
	変速方式		HST・選択噛合 併用												
	変速段数(段)		主変速：無段変速 副変速：前進 3 段・後進 3 段												
	最小旋回半径 (4WS)(m)		23		2.4	2.3	2.4			2.3		2.4			
	デフロック		○：後ろのみ			○					○： 後ろのみ	○			
	走行 速度	前進 (km/h)	0～12.0		0～12.7		0～ 12.2	0～12.7		1.0～ 12.2	0～ 12.7	1.0～13.0		0～12.7	
		後進 (km/h)	0～8.5		0～9.0		0～ 8.6	0～9.0		0～ 8.6	0～9.0	0～8.6		0～9.0	
PTO	PTO回転数(rpm)		589/816	815/1130	589/816	—				589/816			815/1130	589/816	
	ライブPTO回転 数(rpm)		1760			1093/1760		1760							
作 業 機 昇 降 装 置	制御方式		ポジションコントロール			—				ポジションコントロール					
	装着方式		2点リンク（クイックヒッチ）			—				2点リンク（クイックヒッチ）					
	水平制御		自動			—				自動					
	ワンタッチ昇降装置		○			—				○					
	バックアップ		○			—				○					
装 備	※ 防 機 セ ッ ト	慣行	—				○								
		少量霧アリ	—												
		少量霧ナシ	—			○	—	—							
		除草剤ノズル	—						○						
型式検査合格番号			—												
安全鑑定番号			36123												
型式名			中セキ JK001												
型式認定番号又は新型自動車番号			—												

●この主要諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。

11.12

■装備表

		エンジン			種類			トレッド			PTO				ホイールベース		ラジネットクリーナー	作業機昇降スイッチ	低床仕様	車輪径				防除機																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		ガソリン	ディーゼル		水田	水田・畑※作業機昇降装置付	畑※作業機昇降装置付	120ccm	132ccm	147ccm	ライブPTO	ライブPTO変速	標準	高速	135cm	150cm				80cm	90cm	94cm	ブーム自動水平		切替コック		散布ノズル					ブーム自動上下機能	10m500L	16m600L	ジェットポンプ	リヤキャリア	防除ポンプ吐出量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
			17PS	173PS																			有	無	1頭口	2方向	慣行	少量霧あり	少量霧なし	除草剤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			メカシフト	メカシフト																			メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト							メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト	メカシフト

●この主要諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。